

---

## <第3章 調査の集計結果>

---

---

---

---

---

## 第3章 調査の集計結果

### 1. ボランティア・NPO活動について

#### (1) ボランティアやNPO活動に対する関心度

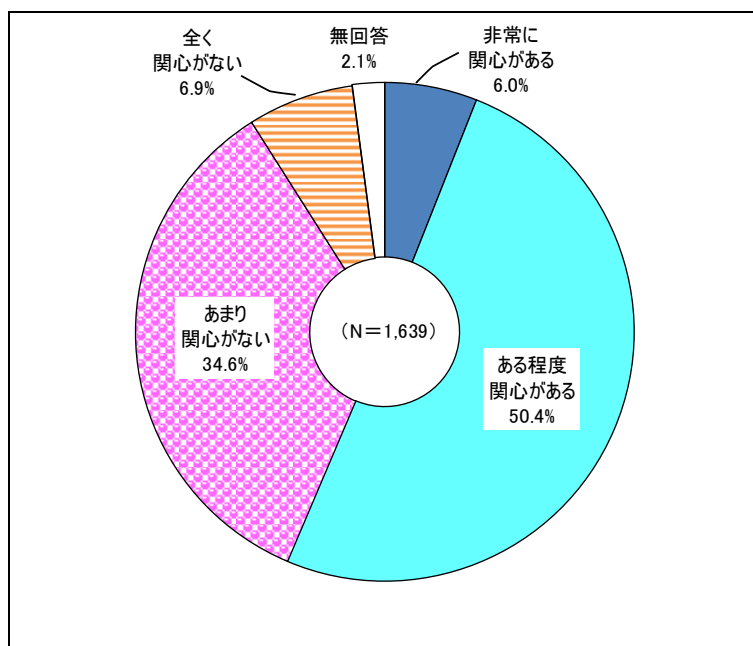
問1 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1 非常に関心がある	6.0%
2 ある程度関心がある	50.4%
3 あまり関心がない	34.6%
4 全く関心がない	6.9%
(無回答)	2.1%

ボランティアやNPO活動に対する関心度について、「ある程度関心がある」(50.4%)が最も多く、次いで「あまり関心がない」(34.6%)、「全く関心がない」(6.9%)、「非常に関心がある」(6.0%)などとなっている。

図表 1-(1)-1 ボランティアやNPO活動に対する関心度



ボランティアやNPO活動に対する関心度について、

性別にみると、男女ともに「ある程度関心がある」が最も多く、『女性』において「非常に関心がある」(5.1%)と「ある程度関心がある」(53.6%)を合わせた【関心がある】は58.7%と『男性』(53.3%)を上回っており、男女ともに5割を超えている。

年齢別にみると、【関心がある】と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなっている。

職業別にみると、いずれも「ある程度関心がある」が最も多く、特に『農林漁業』では6割を超えており、いずれも【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』については、【関心がない】が【関心がある】を上回っているが、それ以外の圏域では【関心がある】が【関心がない】を上回っている。

居住年数別にみると、「ある程度関心がある」と回答した人の割合は、居住年数が長くなるほど高くなっており、『3年未満』については【関心がない】が【関心がある】を上回っているが、それ以外の居住年数では【関心がある】が【関心がない】を上回っている。



(2) ボランティアやNPO活動の経験の有無

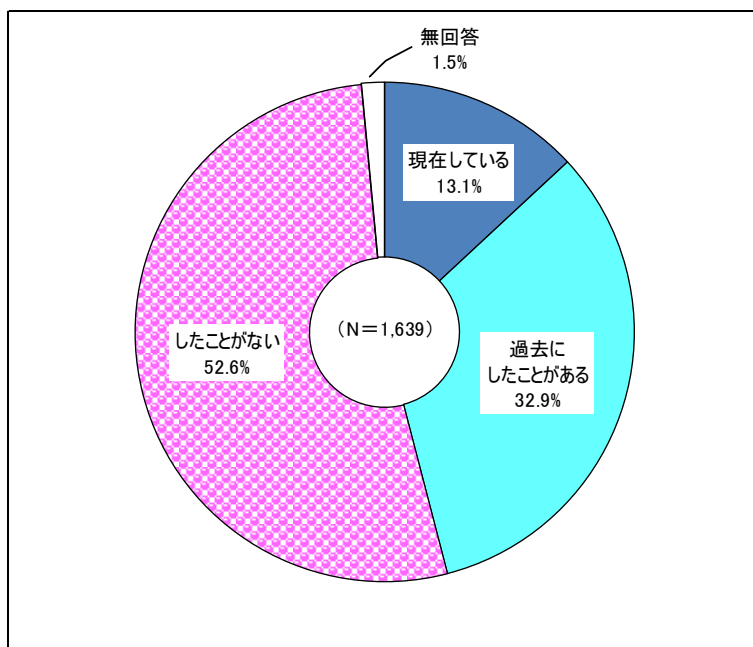
問2 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1 現在している	⇒ 付問1にお進みください	13.1%
2 過去にしたことがある	⇒ 付問1および付問3にお進みください	32.9%
3 したことがない (無回答)	⇒ 付問2および付問3にお進みください	52.6% 1.5%

ボランティアやNPO活動の経験の有無について、「したことがない」(52.6%)が最も多く、次いで「過去にしたことがある」(32.9%)、「現在している」(13.1%)などとなっている。

図表 1-(2)-1 ボランティアやNPO活動の経験の有無



ボランティアやNPO活動の経験の有無について、

性別にみると、男女ともに「したことがない」が最も多く、その比率は『男性』(54.6%)、『女性』(50.9%)となっており、これに「過去にしたことがある」『男性』(29.4%)、『女性』(35.9%)が続いている。

年齢別にみると、「現在している」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『60～69歳』(18.7%)が最も高くなっている。また、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

職業別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

圏域別にみると、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。

居住年数別にみると、「現在している」と回答した人の割合は、居住年数が長くなるほど高くなっている。また、いずれも「したことがない」が最も多く、これに「過去にしたことがある」が続いている。





(3) これまでに経験があるボランティアやNPO活動

【問2で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=753】

1	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	42.1%
2	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	10.4%
3	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	60.7%
4	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.1%
5	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	5.3%
6	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	29.3%
7	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	55.9%
8	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	25.6%
9	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	26.4%
10	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	2.5%
11	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	8.5%
12	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	2.1%
13	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	26.0%
14	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	0.8%
15	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.1%
16	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	1.3%
17	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	1.6%
18	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.5%
19	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3%
20	その他（具体的に： )	2.9%
	（無回答）	1.5%

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」（60.7%）が最も多く、次いで「環境保全関係」（55.9%）、「保健・医療・福祉関係」（42.1%）、「学術・文化・芸術・スポーツ関係」（29.3%）などとなっている。

図表 1-(3)-1 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	753 人
(1)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	317 人
(2)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	78 人
(3)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	457 人
(4)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	31 人
(5)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	40 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	221 人
(7)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	421 人
(8)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	193 人
(9)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	199 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	19 人
(11)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	64 人
(12)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	16 人
(13)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	196 人
(14)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	6 人
(15)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	1 人
(16)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	10 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	12 人
(18)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	4 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	25 人
(20)	その他	22 人
無回答	1.5	11 人

グラフ単位：(%)

これまでに経験があるボランティアやNPO活動について、性別にみると、男女ともに「まちづくり関係」が最も多く、次いで「環境保全関係」、「保健・医療・福祉関係」と続いている。

年齢別にみると、30代以上では「まちづくり関係」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、60代以上では7割を超え最も高くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「まちづくり関係」が最も多くなっているなか『会社、商店、官公庁などに勤務』において「環境保全関係」（56.1%）が最も多くなっている。

圏域別にみると、ほぼ全ての圏域で「まちづくり関係」が最も多くなっているなか『小豆圏域』において「環境保全関係」（69.2%）が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「保健・医療・福祉関係」が最も多く、『3年以上～10年未満』では「保健・医療・福祉関係」、「環境保全関係」が同率で最も多く、『10年以上～20年未満』、『20年以上』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。

図表 1-(3)-2 これまでに経験があるボランティアやNPO活動

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)			
単位:比率(%)	回答者数(人)	探偵・医療・福祉関係(高齢者支援活動、手話・点字などの障害者支援活動など)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動などの募金など)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供・募金など)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外生活活動・基金など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信)技術への普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	被害者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	PPOに関する相談や活動紹介関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	その他	無回答	
全体	753	42.1	10.4	60.7	4.1	5.3	29.3	55.9	25.6	26.4	2.5	8.5	2.1	26.0	0.8	0.1	1.3	1.6	0.5	3.3	2.9	1.5	
性別	男性	312	36.5	12.5	66.3	6.7	8.3	25.3	63.5	26.9	32.4	4.2	8.0	1.9	19.9	1.3	0.3	1.6	3.5	0.3	2.6	3.8	1.0
	女性	424	46.5	8.7	56.6	1.9	2.8	32.3	50.0	24.5	21.9	1.2	9.0	2.1	30.7	0.5	-	0.9	0.2	0.7	3.8	2.4	1.7
年齢別	20~29歳	45	33.3	11.1	46.7	6.7	2.2	20.0	42.2	15.6	6.7	4.4	6.7	4.4	8.9	-	-	-	-	-	2.2	2.2	-
	30~39歳	78	59.0	5.1	34.6	-	1.3	26.9	46.2	30.8	14.1	-	3.8	1.3	15.4	1.3	-	-	1.3	-	3.8	-	-
	40~49歳	107	50.5	8.4	44.9	3.7	2.8	43.9	44.9	24.3	29.9	0.9	11.2	0.9	32.7	-	-	1.9	0.9	0.9	4.7	2.8	-
	50~59歳	126	46.8	7.1	61.1	3.2	3.2	42.1	58.7	34.1	27.0	2.4	14.3	2.4	28.6	-	0.8	1.6	0.8	0.8	4.0	3.2	-
	60~69歳	188	40.4	10.6	71.3	5.9	4.8	25.5	62.8	25.5	31.4	3.2	10.1	2.7	28.2	0.5	-	1.1	2.7	0.5	2.1	5.3	-
	70歳以上	191	31.9	14.7	73.3	4.2	10.5	19.9	59.7	20.9	28.8	2.6	3.7	1.6	27.2	2.1	-	1.6	2.1	0.5	3.1	2.1	5.2
職業別	農林漁業	46	32.6	17.4	82.6	6.5	21.7	17.4	76.1	34.8	26.1	6.5	4.3	-	21.7	2.2	-	2.2	6.5	2.2	4.3	2.2	4.3
	商工業、サービス業、自由業など	91	40.7	7.7	58.2	5.5	1.1	35.2	54.9	22.0	29.7	4.4	5.5	2.2	18.7	1.1	-	1.1	1.1	-	4.4	4.4	1.1
	会社、商店、官公庁などに勤務	289	49.5	8.7	52.6	3.8	3.8	34.3	56.1	26.6	21.8	1.4	11.4	2.4	26.0	0.3	0.3	1.0	1.7	0.3	2.8	2.4	-
	主婦・主夫	179	45.8	10.1	62.6	2.2	2.2	26.8	51.4	22.3	26.8	0.6	8.4	1.7	31.3	1.1	-	1.7	-	0.6	3.4	3.4	2.8
地域別	無職	128	26.6	12.5	70.3	5.5	9.4	21.9	54.7	26.6	34.4	3.9	5.5	2.3	25.8	0.8	-	0.8	2.3	0.8	3.1	3.1	1.6
	高松圏域	383	41.5	9.7	57.7	4.2	4.7	30.8	53.8	27.9	24.3	3.4	8.1	1.8	25.8	0.5	0.3	0.8	1.3	0.8	4.2	2.9	1.6
	東讃圏域	63	36.5	6.3	68.3	3.2	6.3	23.8	54.0	14.3	22.2	-	9.5	4.8	20.6	1.6	-	-	1.6	-	1.6	3.2	1.6
	小豆圏域	26	34.6	15.4	65.4	11.5	7.7	30.8	69.2	19.2	38.5	3.8	7.7	7.7	23.1	-	-	7.7	3.8	-	-	-	-
	中讃圏域	179	47.5	11.7	61.5	1.1	5.6	30.7	55.9	29.6	29.1	2.2	11.2	1.1	25.1	1.7	-	1.7	2.8	0.6	2.8	2.2	1.1
居住年数別	西讃圏域	102	40.2	11.8	64.7	7.8	5.9	24.5	61.8	18.6	29.4	1.0	4.9	2.0	32.4	-	-	2.0	-	-	2.9	4.9	2.0
	3年未満	41	61.0	9.8	36.6	2.4	7.3	24.4	48.8	31.7	12.2	4.9	4.9	4.9	12.2	-	-	2.4	2.4	2.4	4.9	2.4	-
	3年以上~10年未満	91	48.4	7.7	34.1	5.5	-	34.1	48.4	24.2	12.1	2.2	9.9	1.1	20.9	-	-	3.3	1.1	-	1.1	3.3	-
	10年以上~20年未満	112	45.5	7.1	58.9	6.3	3.6	43.8	49.1	25.9	29.5	1.8	10.7	0.9	34.8	1.8	-	0.9	1.8	1.8	6.3	0.9	-
20年以上	490	39.0	11.2	68.2	3.5	6.3	25.5	59.4	25.1	29.6	2.2	8.0	2.2	26.3	0.8	0.2	1.0	1.8	0.2	2.9	3.5	2.0	

(4) ボランティアやNPO活動をしたことがない理由

【問2で「3」と答えた方にお聞きします】

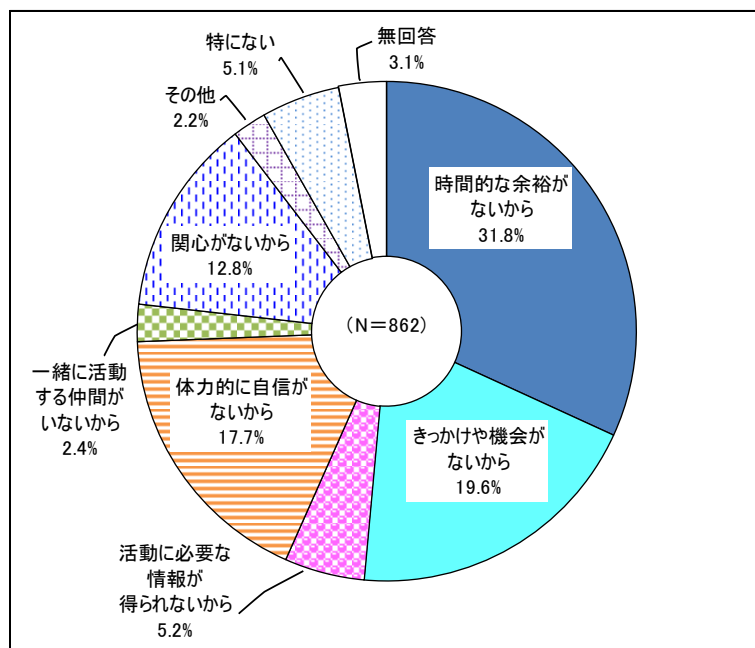
付問2 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=862】

1	時間的な余裕がないから	31.8%
2	きっかけや機会がないから	19.6%
3	活動に必要な情報が得られないから	5.2%
4	体力的に自信がないから	17.7%
5	一緒に活動する仲間がないから	2.4%
6	関心がないから	12.8%
7	その他（具体的に： )	2.2%
8	特にない	5.1%
	(無回答)	3.1%

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」(31.8%)が最も多く、次いで「きっかけや機会がないから」(19.6%)、「体力的に自信がないから」(17.7%)、「関心がないから」(12.8%)などとなっている。

図表 1-(4)-1 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、

性別にみると、男女ともに「時間的な余裕がないから」が最も多く、次いで『男性』では「きっかけや機会がないから」、『女性』では「体力的に自信が無いから」が続いている。

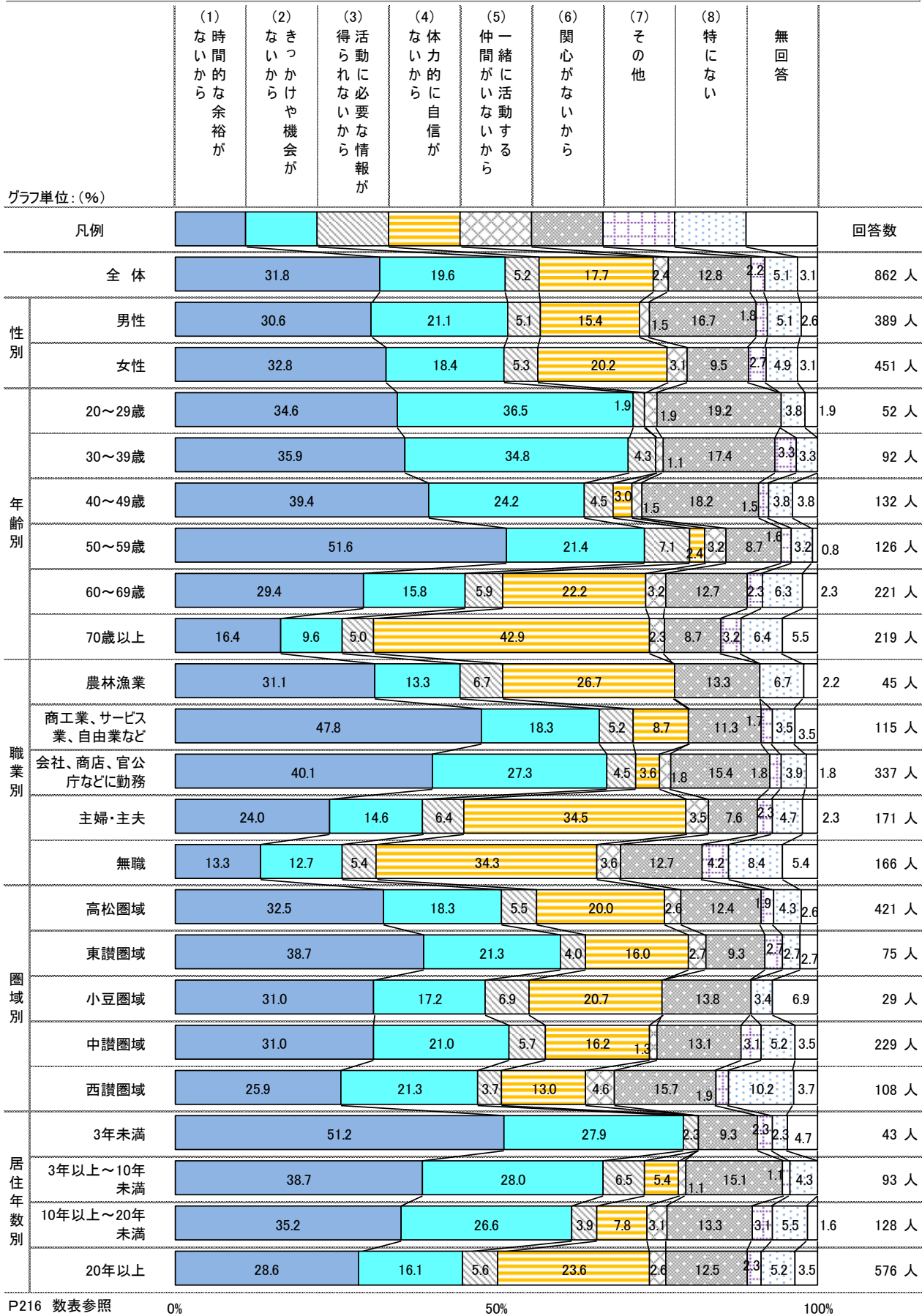
年齢別にみるとほぼ全ての年齢で「時間的な余裕がないから」が最も多くなっているなか、『20～29歳』では「きっかけや機会がないから」、『70歳以上』では「体力的に自信が無いから」が最も多くなっている。

職業別にみると、ほぼ全ての職業で「時間的な余裕がないから」が最も多くなっているなか、『主婦・主夫』、『無職』では「体力的に自信が無いから」が最も多くなっている。

圏域別にみると、いずれの圏域も「時間的な余裕がないから」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「時間的な余裕がないから」が最も多くなっているが、居住年数が長くなるほどその割合は低くなっている。

図表 1-(4)-2 ボランティアやNPO活動をしたことがない理由



(5) 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか

【問2で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

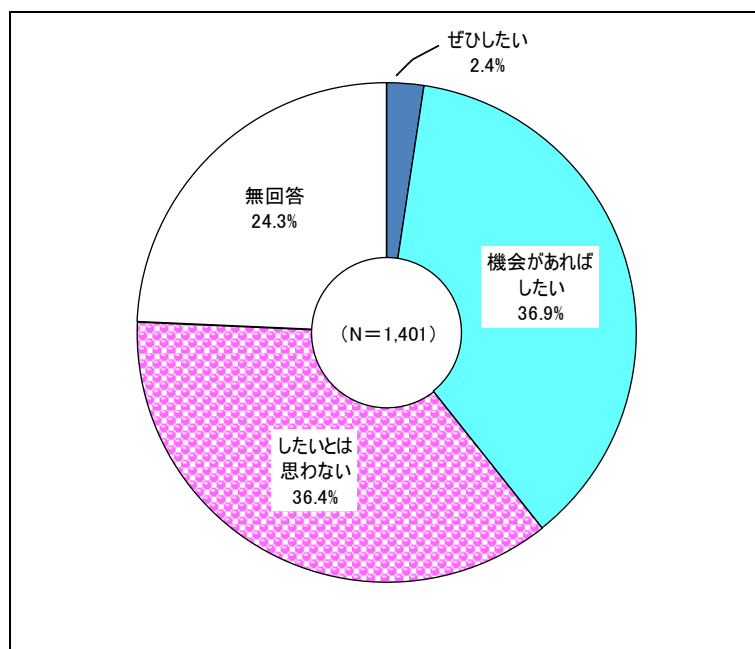
付問3 あなたは、今後ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,401】

1 ぜひしたい	2.4%
2 機会があればしたい	36.9%
3 したいとは思わない	36.4%
(無回答)	24.3%

今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、「機会があればしたい」(36.9%)が最も多く、次いで「したいとは思わない」(36.4%)、「ぜひしたい」(2.4%)などとなっている。

図表 1-(5)-1 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか





今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うかについて、

性別にみると、『男性』では「したいとは思わない」(40.0%)が最も多く、次いで「機会があればしたい」(34.3%)となっており、『女性』では「機会があればしたい」(39.4%)が最も多く、次いで「したいとは思わない」(33.3%)が続いている。

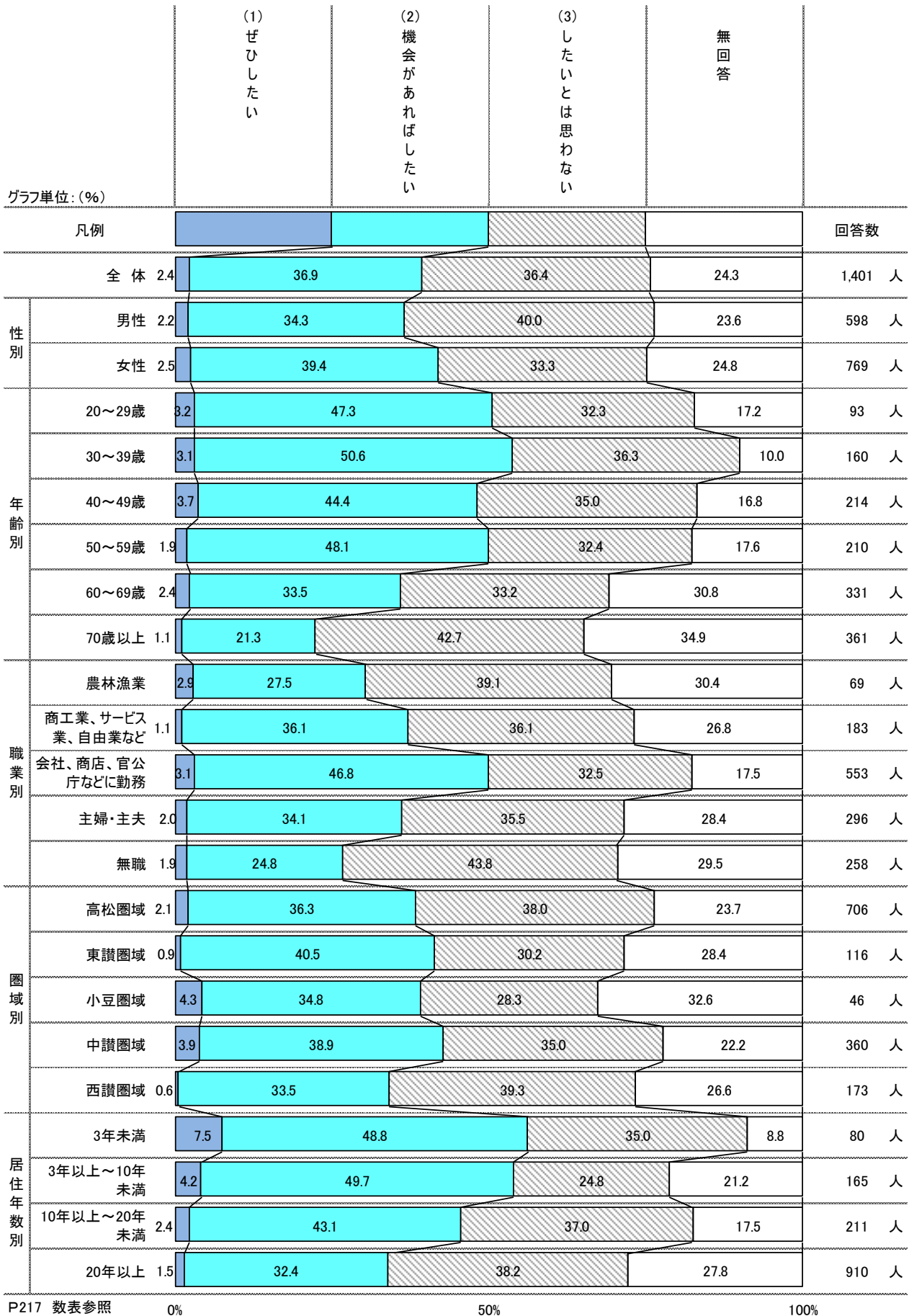
年齢別にみると、ほぼ全ての年齢で「機会があればしたい」が最も多くなっているなか、『70歳以上』では「したいとは思わない」が最も多くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「機会があればしたい」(46.8%)が最も多く、『商工業、サービス業、自由業など』では「機会があればしたい」、「したいとは思わない」が同率(36.1%)で最も多く、『農林漁業』、『主婦・主夫』、『無職』では「したいとは思わない」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『西讃圏域』では「したいとは思わない」が最も多く、『東讃圏域』、『小豆圏域』、『中讃圏域』では「機会があればしたい」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、ほぼ全ての居住年数で「機会があればしたい」が最も多くなっているなか、『20年以上』では「したいとは思わない」が最も多くなっている。

図表 1-(5)-2 今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思うか



(6) 今後、してみたいボランティアやNPO活動

【付問3で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3.1 今後してみたいボランティアやNPO活動を問2付問1の1～20までの活動分野から2つまで選んで、番号を記入してください。

①ぜひしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=33】

②機会があればしたいと回答した人の希望する活動分野【回答者数=517】

	①	②
1 保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	21.2%	21.7%
2 社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	12.1%	9.3%
3 まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	24.2%	25.1%
4 観光の振興関係（観光ボランティアなど）	12.1%	9.7%
5 農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	15.2%	5.4%
6 学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	18.2%	14.5%
7 環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	24.2%	24.4%
8 災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	15.2%	21.1%
9 地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	6.1%	7.7%
10 人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	3.0%	1.9%
11 国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	6.1%	3.7%
12 男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	0.0%	1.7%
13 子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	6.1%	15.3%
14 情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	6.1%	3.9%
15 科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0%	2.1%
16 経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0%	1.5%
17 職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	3.0%	1.5%
18 消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0%	2.3%
19 ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.0%	1.2%
20 その他（具体的に： )	6.1%	0.8%
（無回答）	3.0%	8.3%

今後ぜひしたいボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」、「環境保全関係」が同率（24.2％）で最も多く、次いで、「保健・医療・福祉関係」（21.2％）、「学術・文化・芸術・スポーツ関係」（18.2％）などとなっている。

図表 1-(6)-1 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

		回答数	
全体	100.0	33 人	
(1)	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	21.2	7 人
(2)	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	12.1	4 人
(3)	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	24.2	8 人
(4)	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	12.1	4 人
(5)	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	15.2	5 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	18.2	6 人
(7)	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	24.2	8 人
(8)	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	15.2	5 人
(9)	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	6.1	2 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	3.0	1 人
(11)	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	6.1	2 人
(12)	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	0.0	0 人
(13)	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	6.1	2 人
(14)	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	6.1	2 人
(15)	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.0	0 人
(16)	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	0.0	0 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	3.0	1 人
(18)	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	0.0	0 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.0	1 人
(20)	その他	6.1	2 人
無回答	3.0	1 人	

グラフ単位：（％）

今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係」(25.1%)が最も多く、次いで「環境保全関係」(24.4%)、「保健・医療・福祉関係」(21.7%)などとなっている。

図表 1-(6)-2 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

		回答数
全体	100.0	517 人
(1)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	21.7 112 人
(2)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	9.3 48 人
(3)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	25.1 130 人
(4)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	9.7 50 人
(5)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	5.4 28 人
(6)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館等でのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	14.5 75 人
(7)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	24.4 126 人
(8)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	21.1 109 人
(9)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	7.7 40 人
(10)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	1.9 10 人
(11)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	3.7 19 人
(12)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	1.7 9 人
(13)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	15.3 79 人
(14)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	3.9 20 人
(15)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	2.1 11 人
(16)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	1.5 8 人
(17)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	1.5 8 人
(18)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	2.3 12 人
(19)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	1.2 6 人
(20)	その他	0.8 4 人
無回答	8.3	43 人

グラフ単位：(%)

今後ぜひしたいボランティアやNPO活動について、

性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」（46.2%）が最も多く、次いで「学術・文化・芸術・スポーツ関係」（30.8%）、「社会教育関係」（23.1%）と続いている。『女性』では「保健・医療・福祉関係」（31.6%）が最も多く、次いで「環境保全関係」（26.3%）、「農山漁村の振興関係」、「災害救援関係」が同率で（15.8%）と続いている。

年齢別、職業別、圏域別、居住年数別においては、回答数が少なかった為、大きな差はみられない。

図表 1-(6)-3 今後ぜひしたいボランティアやNPO活動

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)			
		回答者数(人)	探検・医療・福祉関係(献血・介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動などの募金など)	災害支援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供・募金など)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	国際交流・協力関係(通訳・留学生支援、海外生活活動・募金など)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信)技術への普及活動など)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	職業能力の開発・雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	被害者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	P.Oに関する相談や活動紹介関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	その他	無回答		
	単位:比率(%)																							
全体		33	21.2	12.1	24.2	12.1	15.2	18.2	24.2	15.2	6.1	3.0	6.1	-	6.1	6.1	-	-	3.0	-	3.0	6.1	3.0	
性別	男性	13	7.7	23.1	46.2	15.4	7.7	30.8	15.4	-	7.7	7.7	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	女性	19	31.6	5.3	10.5	10.5	15.8	10.5	26.3	15.8	10.5	-	5.3	-	10.5	5.3	-	-	5.3	-	5.3	10.5	5.3	
年齢別	20~29歳	3	-	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3	-	66.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	
	30~39歳	5	20.0	-	20.0	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-	
	40~49歳	8	25.0	12.5	37.5	25.0	25.0	25.0	12.5	12.5	-	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	50~59歳	4	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	25.0	25.0	25.0	
	60~69歳	8	37.5	25.0	25.0	12.5	-	37.5	37.5	-	12.5	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	
	70歳以上	4	25.0	25.0	50.0	-	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
職業別	農林漁業	2	-	-	100.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	商工業、サービス業、自由業など	2	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	
	会社、商店、官公庁などに勤務	17	17.6	-	29.4	23.5	11.8	5.9	17.6	23.5	-	5.9	5.9	-	5.9	5.9	-	-	5.9	-	5.9	11.8	-	
	主婦・主夫	6	33.3	16.7	16.7	-	16.7	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無職	5	20.0	60.0	-	-	20.0	60.0	-	-	-	-	20.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
地域別	高松圏域	15	13.3	13.3	13.3	6.7	20.0	20.0	26.7	20.0	6.7	6.7	6.7	-	6.7	6.7	-	-	-	-	-	13.3	6.7	
	東讃圏域	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小豆圏域	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	中讃圏域	14	28.6	7.1	35.7	14.3	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1	-	-	-	7.1	7.1	-	-	7.1	-	7.1	-	-	
	西讃圏域	1	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
居住年数別	3年未満	6	-	33.3	16.7	-	16.7	33.3	-	16.7	-	-	16.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	
	3年以上~10年未満	7	28.6	-	14.3	14.3	28.6	-	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	14.3	14.3	-	
	10年以上~20年未満	5	20.0	-	40.0	40.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	
	20年以上	14	28.6	14.3	28.6	7.1	7.1	21.4	28.6	7.1	14.3	7.1	7.1	-	14.3	-	-	-	-	-	-	7.1	-	

今後機会があればしたいボランティアやNPO活動について、性別にみると、『男性』では「まちづくり関係」(32.2%)が最も多く、次いで「災害救援関係」(23.9%)、「環境保全関係」(23.4%)と続いている。『女性』では「保健・医療・福祉関係」(25.7%)が最も多く、次いで、「環境保全関係」(25.4%)、「まちづくり関係」(21.1%)と続いている。

年齢別にみると、『30～39歳』『50～59歳』では「保健・医療・福祉関係」が最も多く、『60～69歳』『70歳以上』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。また、『20～29歳』では「子どもの健全育成関係」が最も多く、『40～49歳』では「災害救援関係」が最も多くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』では「まちづくり関係」が、『商工業、サービス業、自由業など』では「子どもの健全育成関係」が、『会社、商店、官公庁などに勤務』では「災害救援関係」が最も多くなっている。また、『主婦・主夫』、『無職』では「環境保全関係」が最も多くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』では「まちづくり関係」が、『西讃圏域』では「保健・医療・福祉関係」が最も多くなっている。また、『高松圏域』、『東讃圏域』、『小豆圏域』では、「環境保全関係」が最も多くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』では「保健・医療・福祉関係」が、『3年以上～10年未満』では「環境保全関係」が最も多くなっている。また、『10年以上～20年未満』では「学術・文化・芸術・スポーツ関係」が、『20年以上』では「まちづくり関係」が最も多くなっている。



図表 1-(6)-4 今後機会があればしたいボランティアやNPO活動

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)		
回答者数(人)	21.7	9.3	25.1	9.7	5.4	14.5	24.4	21.1	7.7	1.9	3.7	1.7	15.3	3.9	2.1	1.5	1.5	2.3	1.2	0.8	8.3	
単位:比率(%)																						
全体	517	21.7	9.3	25.1	9.7	5.4	14.5	24.4	21.1	7.7	1.9	3.7	1.7	15.3	3.9	2.1	1.5	1.5	2.3	1.2	0.8	8.3
性別																						
男性	205	16.6	7.8	32.2	7.8	6.8	13.2	23.4	23.9	13.2	2.0	2.4	1.5	6.8	6.3	3.9	2.9	1.5	-	1.5	1.0	8.8
女性	303	25.7	9.6	21.1	10.9	4.3	15.8	25.4	19.1	4.0	2.0	4.6	2.0	20.8	2.3	1.0	0.3	1.3	3.6	1.0	0.7	7.9
年齢別																						
20~29歳	44	20.5	2.3	20.5	20.5	2.3	20.5	15.9	18.2	2.3	-	4.5	2.3	22.7	6.8	9.1	-	2.3	4.5	-	-	2.3
30~39歳	81	34.6	7.4	16.0	9.9	2.5	11.1	18.5	23.5	4.9	2.5	7.4	4.9	19.8	6.2	2.5	1.2	1.2	1.2	2.5	-	4.9
40~49歳	95	22.1	5.3	14.7	8.4	6.3	25.3	20.0	29.5	5.3	-	4.2	2.1	11.6	5.3	4.2	5.3	-	1.1	1.1	1.1	8.4
50~59歳	101	30.7	7.9	22.8	6.9	4.0	18.8	19.8	27.7	7.9	5.0	4.0	2.0	20.8	2.0	-	1.0	2.0	1.0	1.0	-	5.9
60~69歳	111	16.2	11.7	37.8	9.9	7.2	8.1	34.2	14.4	12.6	0.9	2.7	-	10.8	3.6	0.9	-	2.7	3.6	1.8	1.8	6.3
70歳以上	77	6.5	16.9	37.7	7.8	7.8	6.5	33.8	10.4	9.1	2.6	-	-	11.7	1.3	-	-	-	2.6	-	1.3	19.5
職業別																						
農林漁業	19	10.5	-	52.6	-	36.8	-	26.3	15.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.3
商工業、サービス業、自由業など	66	19.7	3.0	24.2	15.2	3.0	16.7	15.2	21.2	9.1	1.5	6.1	3.0	25.8	-	-	-	-	-	1.5	1.5	10.6
会社、商店、官公庁などに勤務	259	24.7	8.5	23.6	9.7	5.0	15.8	23.6	25.1	6.9	1.2	1.9	1.5	15.4	5.0	2.7	2.7	2.7	1.5	1.5	0.8	5.4
主婦・主夫	101	23.8	15.8	27.7	8.9	3.0	13.9	31.7	10.9	5.9	3.0	6.9	1.0	17.8	1.0	1.0	-	-	5.0	-	1.0	7.9
無職	64	14.1	9.4	23.4	7.8	3.1	14.1	26.6	21.9	14.1	4.7	4.7	3.1	6.3	9.4	4.7	-	-	3.1	1.6	-	10.9
地域別																						
高松圏域	256	22.7	9.0	24.2	11.3	5.9	17.2	25.4	19.9	7.4	2.0	2.7	2.0	15.2	5.1	2.0	2.3	1.2	3.1	1.2	1.6	5.1
東讃圏域	47	21.3	10.6	27.7	6.4	4.3	14.9	34.0	17.0	4.3	-	6.4	-	14.9	4.3	-	-	4.3	-	-	-	10.6
小豆圏域	16	12.5	6.3	12.5	6.3	6.3	18.8	37.5	6.3	25.0	6.3	-	-	18.8	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5
中讃圏域	140	20.0	10.7	28.6	8.6	5.0	12.1	21.4	25.7	7.1	2.9	3.6	2.1	15.7	1.4	2.1	1.4	-	2.1	2.1	-	9.3
西讃圏域	58	24.1	6.9	22.4	8.6	5.2	6.9	15.5	22.4	8.6	-	6.9	1.7	13.8	1.7	5.2	-	5.2	1.7	-	-	17.2
居住年数別																						
3年未満	39	41.0	2.6	12.8	17.9	-	15.4	20.5	17.9	2.6	2.6	7.7	5.1	23.1	-	-	-	2.6	-	-	-	5.1
3年以上~10年未満	82	23.2	8.5	14.6	8.5	6.1	11.0	24.4	23.2	6.1	2.4	6.1	4.9	18.3	2.4	4.9	2.4	2.4	1.2	2.4	-	7.3
10年以上~20年未満	91	28.6	8.8	22.0	8.8	6.6	29.7	17.6	22.0	3.3	3.3	5.5	1.1	13.2	4.4	2.2	-	1.1	3.3	3.3	1.1	4.4
20年以上	295	16.9	10.2	31.5	9.2	5.4	11.2	27.5	20.7	10.2	1.4	2.0	0.3	14.6	4.7	1.7	1.7	1.0	2.0	0.3	1.0	9.8

## 2. 男女共同参画について

### (1) 家庭生活と家族観(男女の役割)について

問3 家庭生活と家族観(男女の役割)について、あなたはどのようにお考えですか。

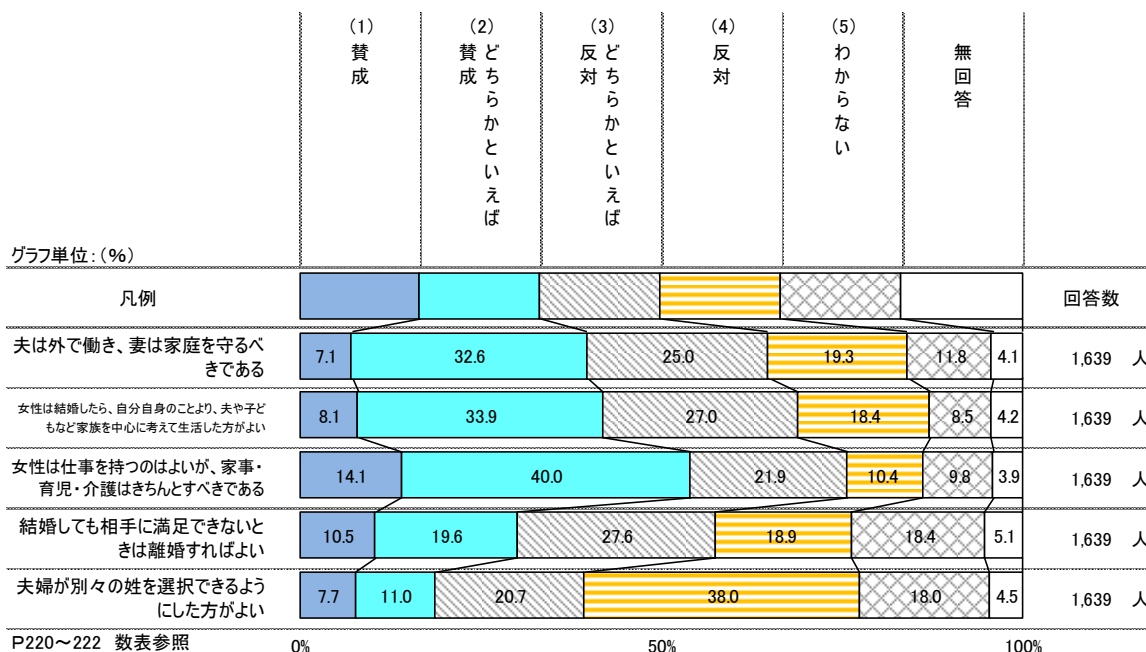
それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	①賛成	②どちらかといえば賛成	③どちらかといえば反対	④反対	⑤わからない	無回答
1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	7.1	32.6	25.0	19.3	11.8	4.1
2 女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	8.1	33.9	27.0	18.4	8.5	4.2
3 女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである	14.1	40.0	21.9	10.4	9.8	3.9
4 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	10.5	19.6	27.6	18.9	18.4	5.1
5 夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい	7.7	11.0	20.7	38.0	18.0	4.5

家庭生活と家族観(男女の役割)について、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、『女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきである』(54.1%)が最も多く、次いで『女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい』(42.0%)、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』(39.7%)などとなっている。

図表 2-(1)-1 家庭生活と家族観(男女の役割)について



夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるについて、

性別にみると、『男性』において「賛成」(8.4%)と「どちらかといえば賛成」(33.4%)を合わせた割合は41.8%と『女性』(38.4%)を3.4ポイント上回っている。

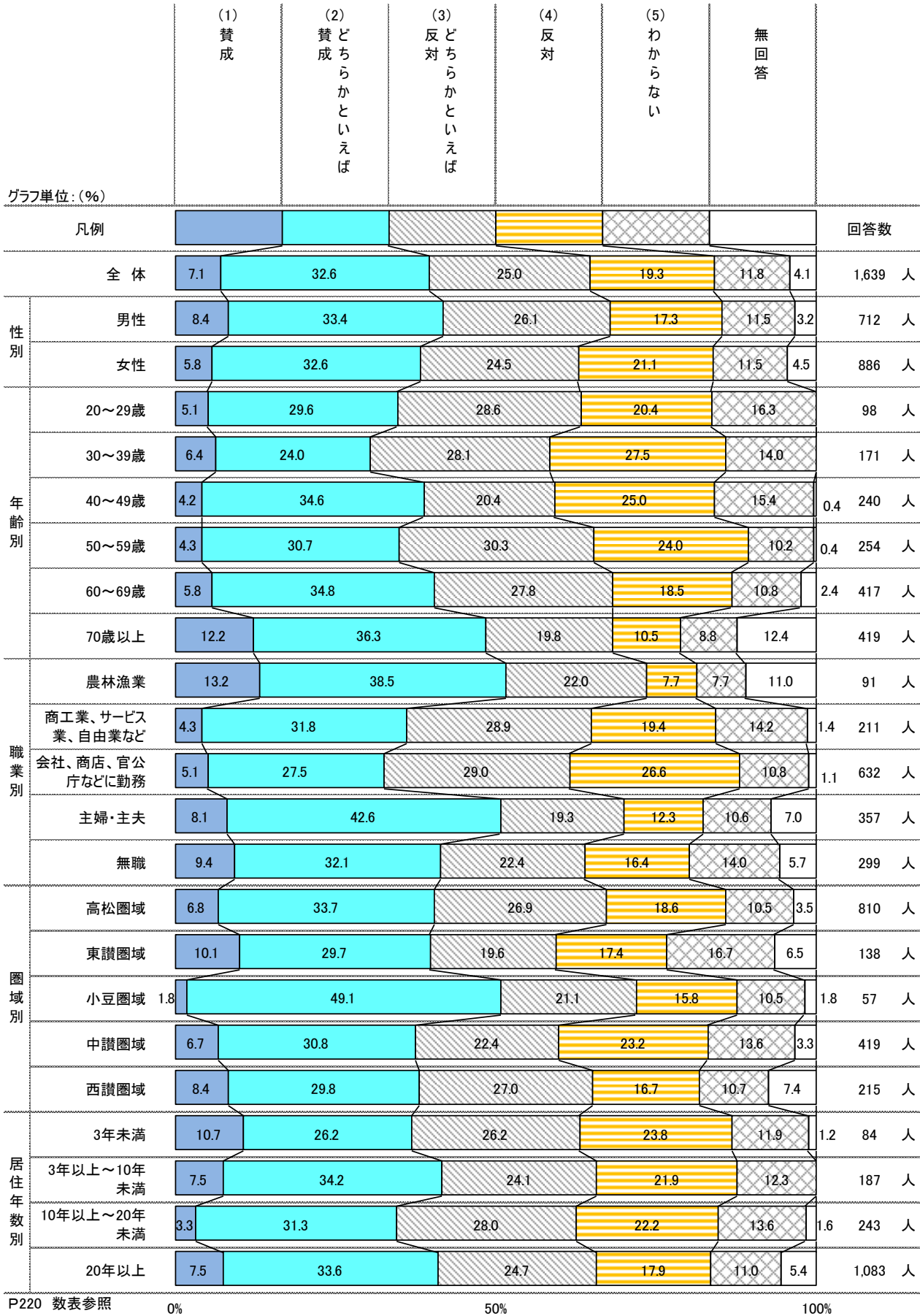
年齢別にみると、『70歳以上』において「賛成」(12.2%)と「どちらかといえば賛成」(36.3%)を合わせた割合は48.5%と『30～39歳』(30.4%)に比べ18.1ポイント上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において「賛成」(13.2%)と「どちらかといえば賛成」(38.5%)を合わせた割合は51.7%と『会社、商店、官公庁などに勤務』(32.6%)に比べ19.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「賛成」(1.8%)と「どちらかといえば賛成」(49.1%)を合わせた割合は50.9%と『中讃圏域』(37.5%)に比べ13.4ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「賛成」(7.5%)と「どちらかといえば賛成」(34.2%)を合わせた割合は41.7%と『10年以上～20年未満』(34.6%)に比べ7.1ポイント上回っている。

図表 2-(1)-2 【夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである】



女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよいについて、

性別にみると、『女性』において「賛成」(9.0%)と「どちらかといえば賛成」(33.6%)を合わせた割合は42.6%と『男性』(41.5%)を1.1ポイント上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において「賛成」(12.4%)と「どちらかといえば賛成」(40.1%)を合わせた割合は52.5%と『30~39歳』(28.7%)に比べ23.8ポイント上回っている。

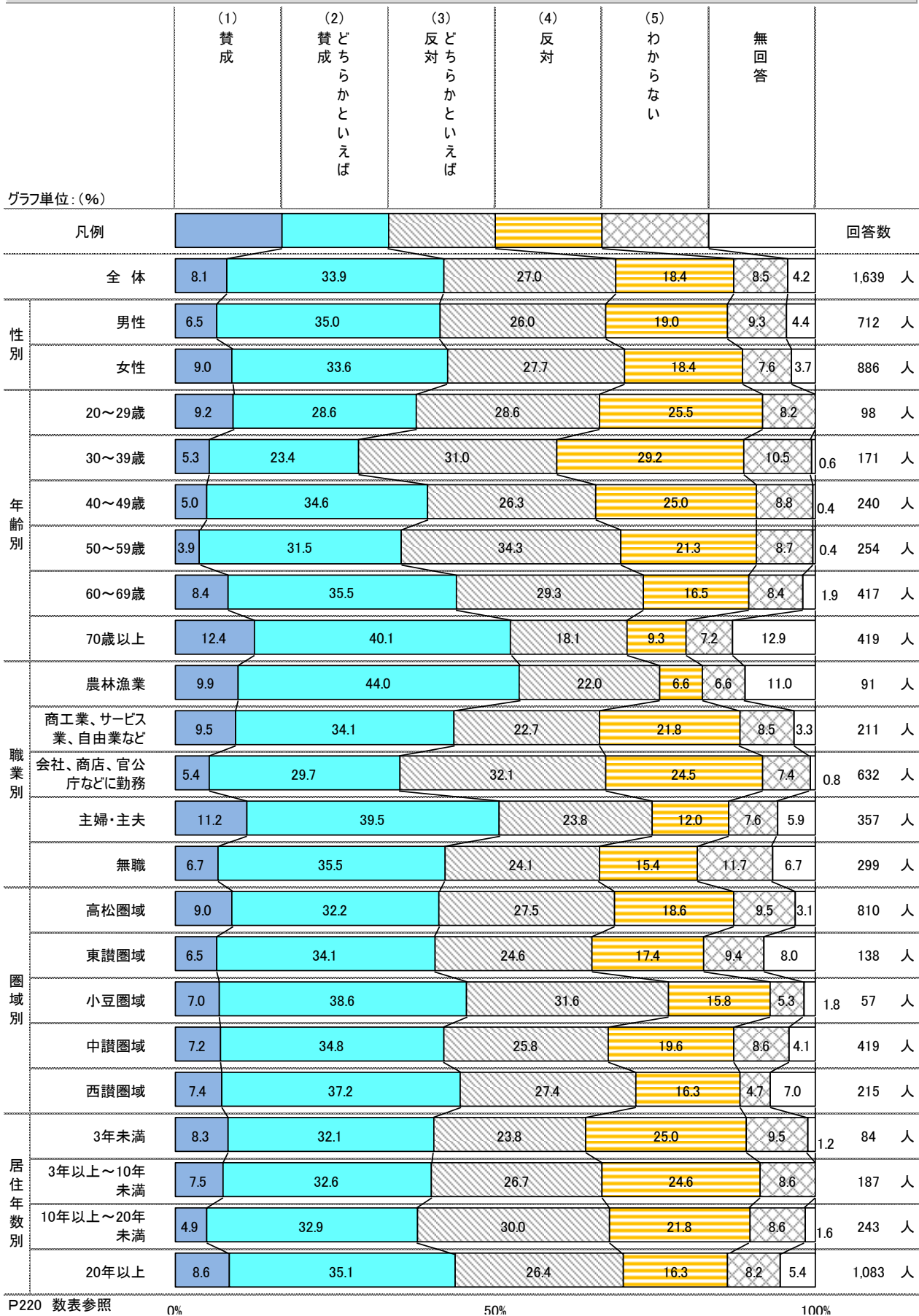
職業別にみると、『農林漁業』において「賛成」(9.9%)と「どちらかといえば賛成」(44.0%)を合わせた割合は53.9%と『会社、商店、官公庁などに勤務』(35.1%)に比べ18.8ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「賛成」(7.0%)と「どちらかといえば賛成」(38.6%)を合わせた割合は45.6%と『東讃圏域』(40.6%)に比べ5ポイント上回っている。

圏域別にみると、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、『20年以上』において「賛成」(8.6%)と「どちらかといえば賛成」(35.1%)を合わせた割合は43.7%と『10年以上~20年未満』(37.8%)に比べ5.9ポイント上回っている。

図表 2-(1)-3 【女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい】



女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護はきちんとすべきであるについて、性別にみると、『男性』において「賛成」(14.2%)と「どちらかといえば賛成」(42.4%)を合わせた割合は56.6%と『女性』(52.2%)を4.4ポイント上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において「賛成」(20.5%)と「どちらかといえば賛成」(39.4%)を合わせた割合は59.9%と『30～39歳』(40.9%)に比べ19ポイント上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において「賛成」(20.9%)と「どちらかといえば賛成」(38.5%)を合わせた割合は59.4%と『商工業、サービス業、自由業など』(50.7%)に比べ8.7ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「賛成」(15.8%)と「どちらかといえば賛成」(42.1%)を合わせた割合は57.9%と『西讃圏域』(52.6%)に比べ5.3ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において「賛成」(15.5%)と「どちらかといえば賛成」(41.9%)を合わせた割合は57.4%と『3年未満』(40.4%)に比べ17ポイント上回っている。





結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよいについて、

性別にみると、『男性』において「賛成」(12.2%)と「どちらかといえば賛成」(20.1%)を合わせた割合は32.3%と『女性』(28.9%)に比べ3.4ポイント上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』において「賛成」(12.9%)と「どちらかといえば賛成」(27.9%)を合わせた割合は40.8%と『70歳以上』(17.2%)に比べ23.6ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「賛成」(13.1%)と「どちらかといえば賛成」(25.6%)を合わせた割合は38.7%と『主婦・主夫』(19.0%)に比べ19.7ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「賛成」(8.8%)と「どちらかといえば賛成」(24.6%)を合わせた割合は33.4%と『西讃圏域』(26.5%)に比べ6.9ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「賛成」(17.9%)と「どちらかといえば賛成」(25.0%)を合わせた割合は42.9%と『20年以上』(28.6%)に比べ14.3ポイント上回っている。



夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよいについて、性別にみると、『女性』において「賛成」(7.4%)と「どちらかといえば賛成」(12.6%)を合わせた割合は20.0%となっている。

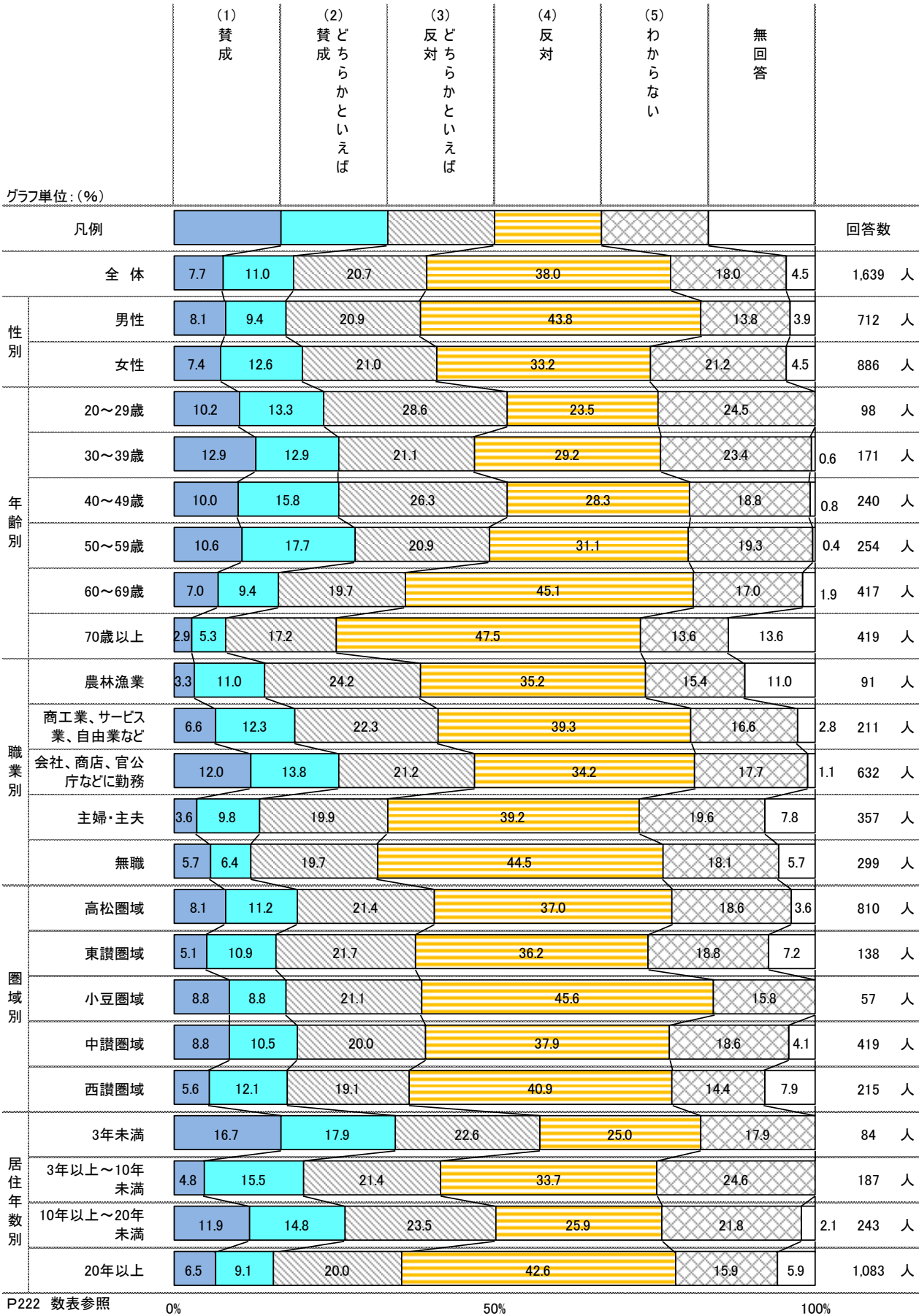
年齢別にみると、『50～59歳』において「賛成」(10.6%)と「どちらかといえば賛成」(17.7%)を合わせた割合は28.3%と『70歳以上』(8.2%)に比べ20.1ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「賛成」(12.0%)と「どちらかといえば賛成」(13.8%)を合わせた割合は25.8%と『無職』(12.1%)に比べ13.7ポイント上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』、『中讃圏域』において「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合はともに19.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「賛成」(16.7%)と「どちらかといえば賛成」(17.9%)を合わせた割合は34.6%と『20年以上』(15.6%)に比べ19.0ポイント上回っている。

図表 2-(1)-6 【夫婦が別々の姓を選択できるようにした方がよい】



(2) 家庭での夫と妻の役割分担について<希望>

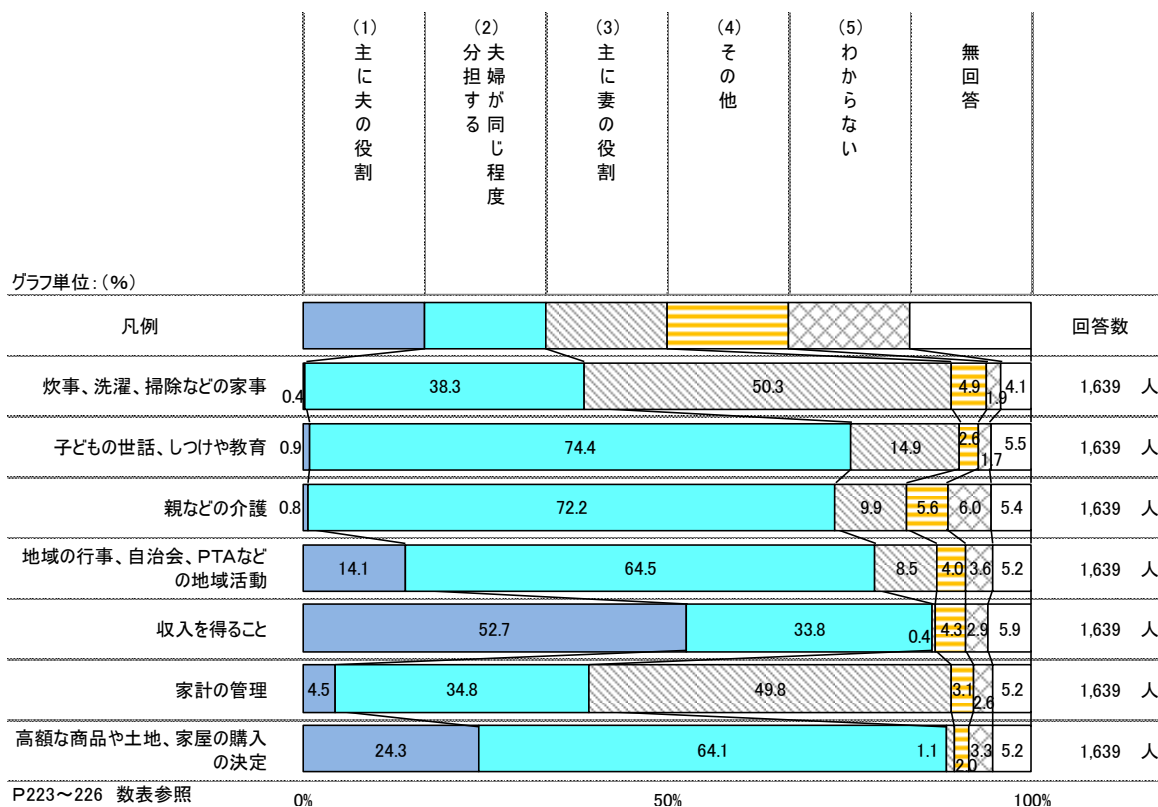
問4 家庭での夫と妻の役割分担について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	①主に夫の役割	②夫婦が同じ程度分担する	③主に妻の役割	④その他	⑤わからない	無回答
1 炊事、洗濯、掃除などの家事	0.4	38.3	50.3	4.9	1.9	4.1
2 子どもの世話、しつけや教育	0.9	74.4	14.9	2.6	1.7	5.5
3 親などの介護	0.8	72.2	9.9	5.6	6.0	5.4
4 地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動	14.1	64.5	8.5	4.0	3.6	5.2
5 収入を得ること	52.7	33.8	0.4	4.3	2.9	5.9
6 家計の管理	4.5	34.8	49.8	3.1	2.6	5.2
7 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	24.3	64.1	1.1	2.0	3.3	5.2

家庭での夫と妻の役割分担の希望について、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合が最も高くなっているのは、「子どもの世話、しつけや教育」(74.4%)、「親などの介護」(72.2%)、「地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」(64.5%)、「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」(64.1%)の4項目となっており、それぞれ7割程度となっている。

図表 2-(2)-1 家庭での夫と妻の役割分担について



炊事、洗濯、掃除などの家事について、

性別にみると、『女性』において「主に妻の役割」(52.4%)と回答した人の割合は『男性』(48.5%)に比べ3.9ポイント上回っている。

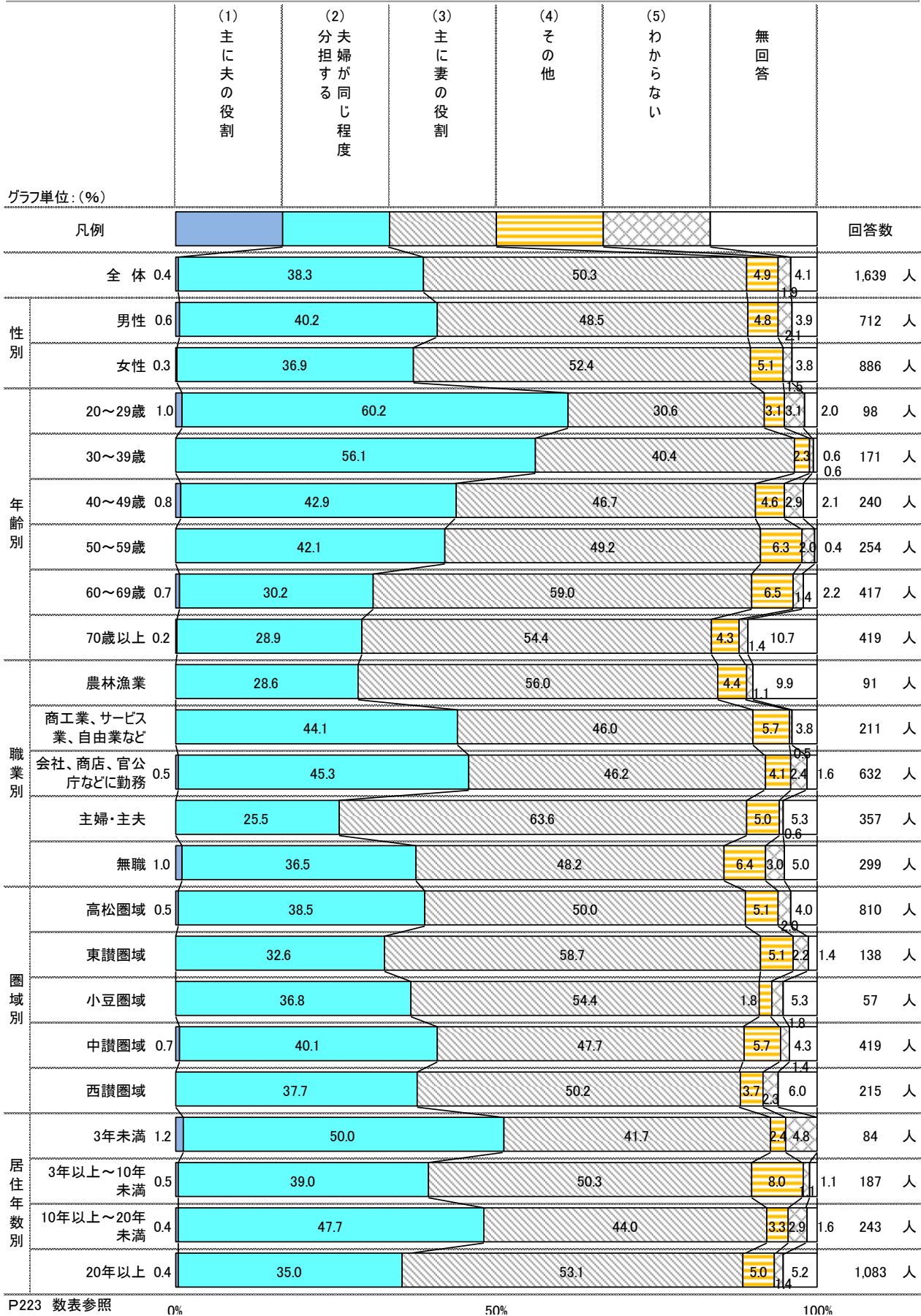
年齢別にみると、「主に妻の役割」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、『60～69歳』(59.0%)が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に妻の役割」(63.6%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(46.0%)に比べ17.6ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「主に妻の役割」(58.7%)と回答した人の割合は『中讃圏域』(47.7%)に比べ11ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「夫婦が同じ程度分担する」(50.0%)と回答した人の割合は『20年以上』(35.0%)に比べ15ポイント上回っている。

図表 2-(2)-2 【炊事、洗濯、掃除などの家事】



P223 数表参照

0% 50% 100%

子どもの世話、しつけや教育について、

性別にみると、『女性』において「夫婦が同じ程度分担する」(77.4%)と回答した人の割合は『男性』(71.8%)に比べ5.6ポイント上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』において「夫婦が同じ程度分担する」(86.7%)と回答した人の割合は『70歳以上』(64.2%)に比べ22.5ポイント上回っている。

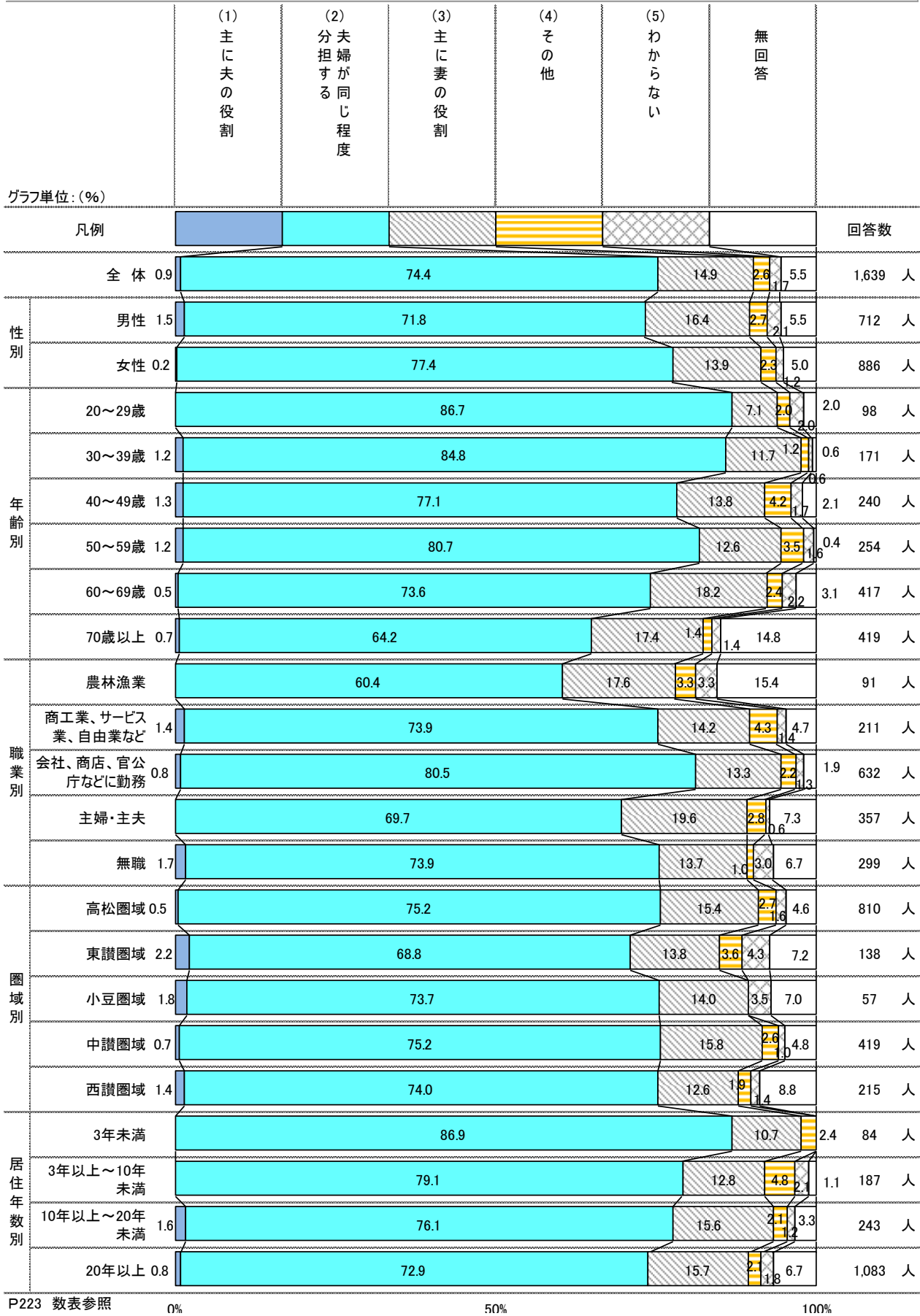
職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「夫婦が同じ程度分担する」(80.5%)と回答した人の割合は『農林漁業』(60.4%)に比べ20.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合は、居住年数が長くなるほど低くなる傾向になっている。



図表 2-(2)-3 【子どもの世話、しつけや教育】



P223 数表参照

0%

50%

100%

親などの介護について、

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「主に妻の役割」と回答した人の割合は、年代が上がるにつれて高くなっており、『70歳以上』（14.1%）が最も高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「夫婦が同じ程度分担する」（79.0%）と回答した人の割合は『農林漁業』（62.6%）に比べ16.4ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「主に妻の役割」（13.0%）と回答した人の割合は『小豆圏域』（5.3%）に比べ7.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、大きな差はみられない。

図表 2-(2)-4 【親などの介護】



地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動について、性別にみると、『男性』において「主に夫の役割」(17.8%)と回答した人の割合は『女性』(11.1%)に比べ6.7ポイント上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』において「夫婦が同じ程度分担する」(70.4%)と回答した人の割合は『70歳以上』(55.8%)に比べ14.6ポイント上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において「主に夫の役割」(27.5%)と回答した人の割合は『主婦・主夫』(10.9%)に比べ16.6ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「主に夫の役割」(26.3%)と回答した人の割合は『高松圏域』(11.2%)に比べ15.1ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「夫婦が同じ程度分担する」(71.4%)と回答した人の割合は『20年以上』(63.7%)に比べ7.7ポイント上回っている。



収入を得ることについて、

性別にみると、『男性』において「主に夫の役割」(55.2%)と回答した人の割合は『女性』(50.8%)に比べ4.4ポイント上回っている。

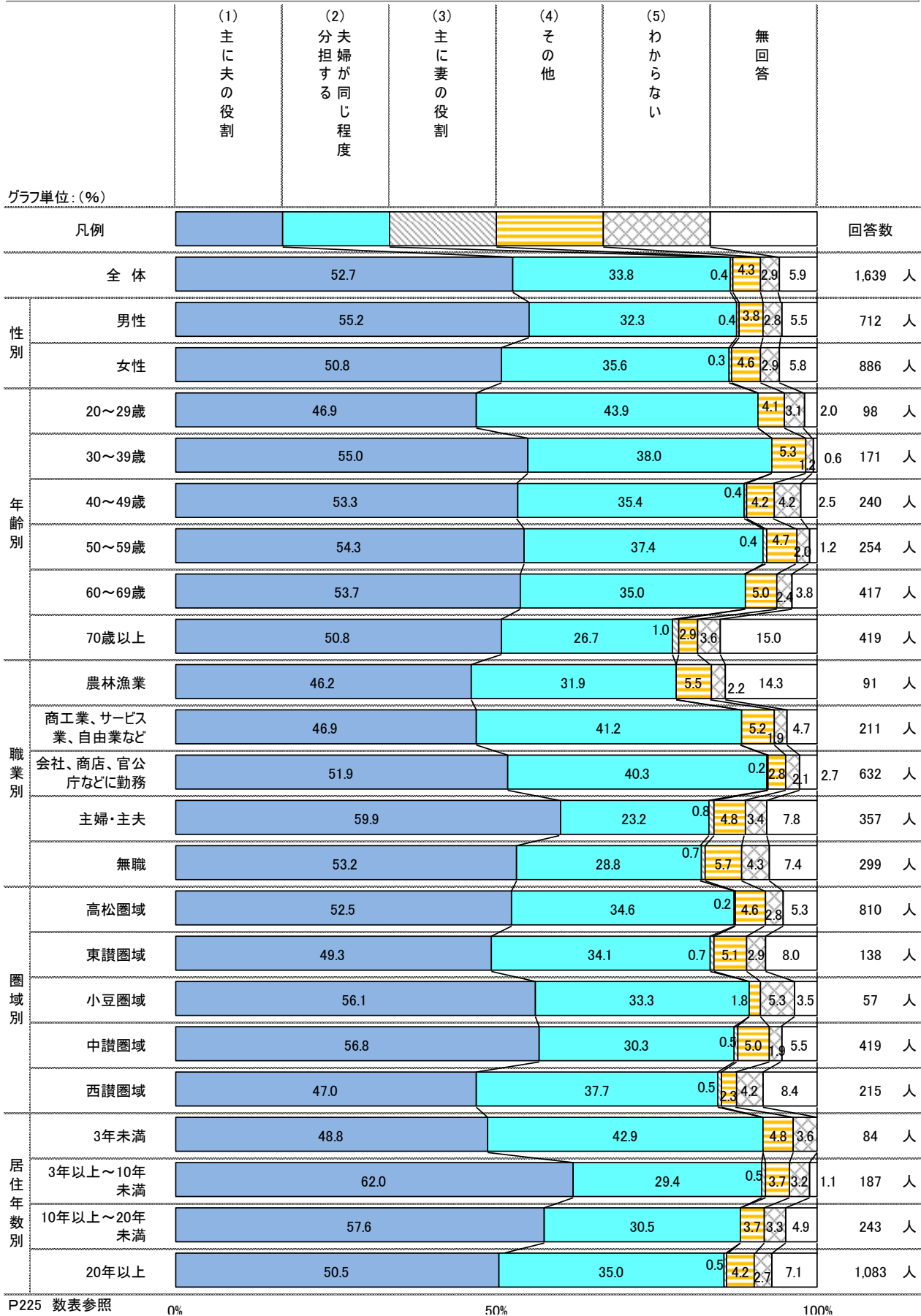
年齢別にみると、『20～29歳』において「夫婦が同じ程度分担する」(43.9%)と回答した人の割合は『70歳以上』(26.7%)に比べ17.2ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「夫婦が同じ程度分担する」(41.2%)と回答した人の割合は『主婦・主夫』(23.2%)に比べ18ポイント上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「主に夫の役割」(56.8%)と回答した人の割合は『西讃圏域』(47.0%)に比べ9.8ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「夫婦が同じ程度分担する」(42.9%)と回答した人の割合は『3年以上～10年未満』(29.4%)に比べ13.5ポイント上回っている。

図表 2-(2)-6 【収入を得ること】



家計の管理について、

性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『20～29歳』において「夫婦が同じ程度分担する」（40.8%）と回答した人の割合は『70歳以上』（28.6%）に比べ12.2ポイント上回っている。

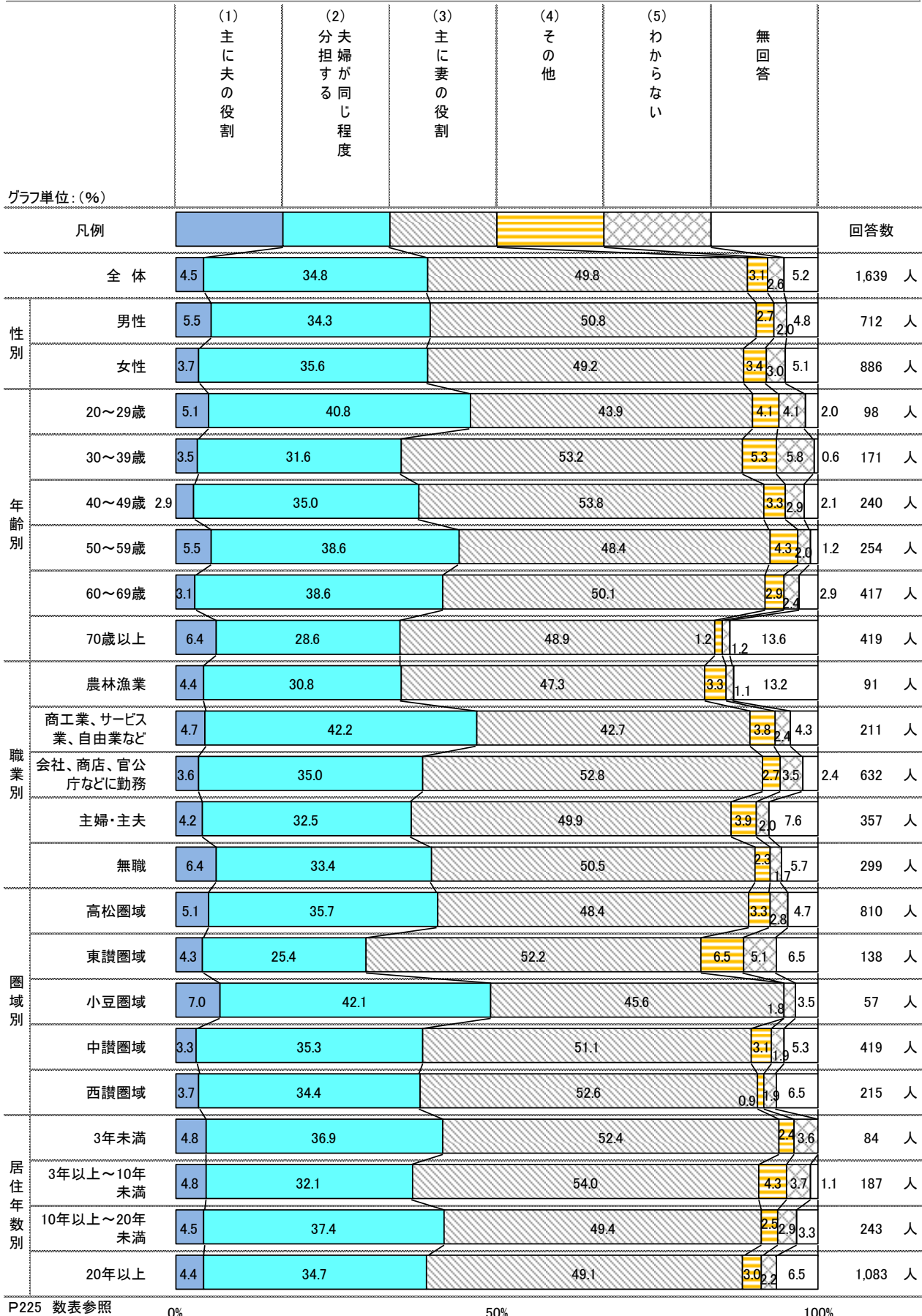
職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「主に妻の役割」（52.8%）と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』（42.7%）に比べ10.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「夫婦が同じ程度分担する」（42.1%）と回答した人の割合は『東讃圏域』（25.4%）に比べ16.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、大きな差はみられない。



図表 2-(2)-7 【家計の管理】



P225 数表参照

0%

50%

100%

高額な商品や土地、家屋の購入の決定について、  
性別にみると、大きな差はみられない。

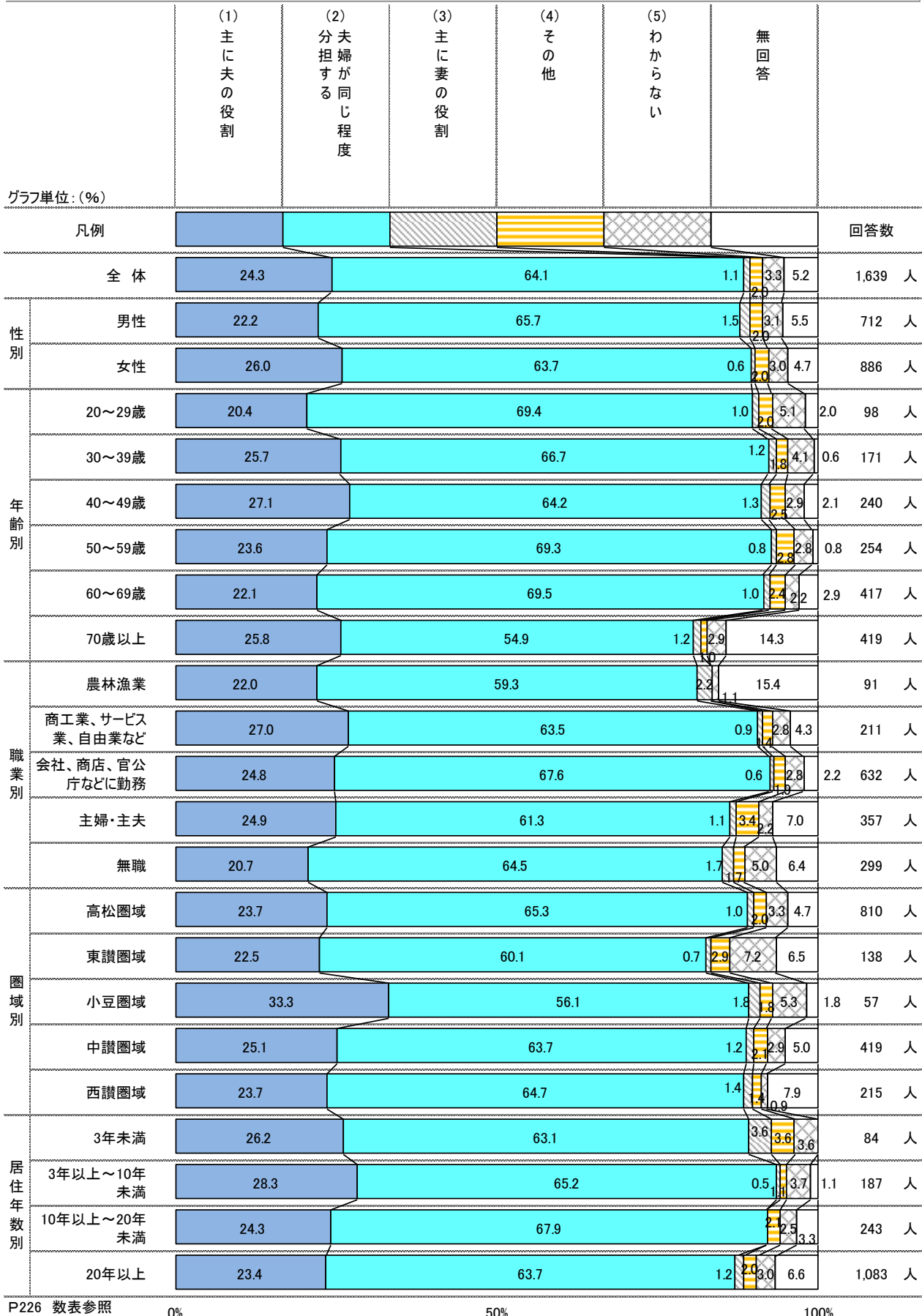
年齢別にみると、『20～29歳』において「夫婦が同じ程度分担する」(69.4%)と回答した人の割合は『70歳以上』(54.9%)に比べ14.5ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「夫婦が同じ程度分担する」(67.6%)と回答した人の割合は『農林漁業』(59.3%)に比べ8.3ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「主に夫の役割」(33.3%)と回答した人の割合は『東讃圏域』(22.5%)に比べ10.8ポイント上回っている。

居住年数別にみると、大きな差はみられない。

図表 2-(2)-8 【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】



P226 数表参照

0%

50%

100%

(3) あなたの家庭での夫と妻の役割分担について<現状>

【現在、ご結婚されている方のみお答えください。】

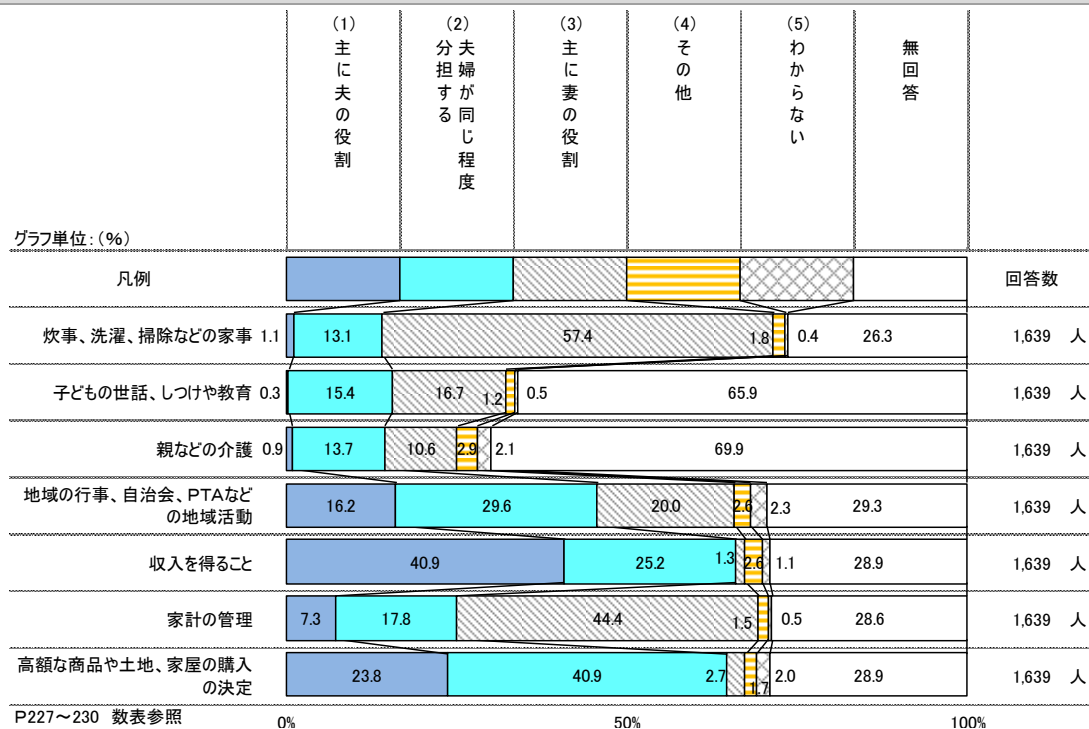
問5 あなたの家庭での夫と妻の役割分担について、現状に最も近いものはどれですか。それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	①主に夫の役割	②夫婦が同じ程度分担する	③主に妻の役割	④その他	⑤わからない	無回答
1 炊事、洗濯、掃除などの家事	1.1	13.1	57.4	1.8	0.4	26.3
2 子どもの世話、しつけや教育 (中学生以下の子どもがいる場合のみ回答)	0.3	15.4	16.7	1.2	0.5	65.9
3 親などの介護 (介護が必要とする方がいる場合のみ回答)	0.9	13.7	10.6	2.9	2.1	69.9
4 地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動	16.2	29.6	20.0	2.6	2.3	29.3
5 収入を得ること	40.9	25.2	1.3	2.6	1.1	28.9
6 家計の管理	7.3	17.8	44.4	1.5	0.5	28.6
7 高額な商品や土地、家屋の購入の決定	23.8	40.9	2.7	1.7	2.0	28.9

家庭での夫と妻の役割分担の現状について、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合が最も高くなっているのは、「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」(40.9%)「地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動」(29.6%)の2項目に減り、すべて5割を下回っている。

図表 2-(3)-1 あなたの家庭での夫と妻の役割分担について



炊事、洗濯、掃除などの家事について、

性別にみると、『女性』において「主に妻の役割」(62.1%)と回答した人の割合は『男性』(51.8%)に比べ10.3ポイント上回っている。

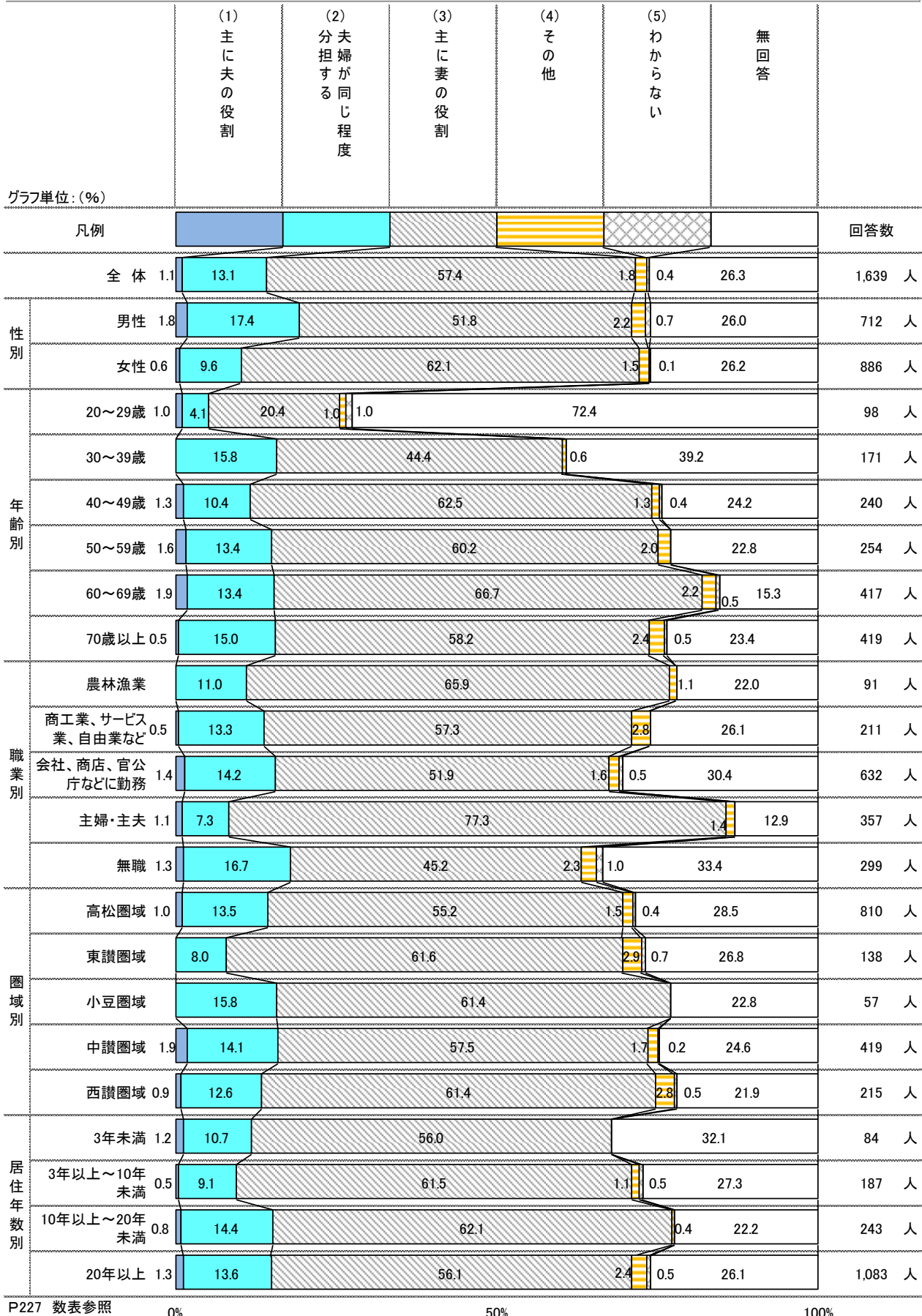
年齢別にみると、『60～69歳』において「主に妻の役割」(66.7%)と回答した人の割合は『20～29歳』(20.4%)に比べ46.3ポイント上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に妻の役割」(77.3%)と回答した人の割合は『無職』(45.2%)に比べ32.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、大きな差はみられない。

図表 2-(3)-2 【炊事、洗濯、掃除などの家事】



子どもの世話、しつけや教育について、

性別にみると、『女性』において「主に妻の役割」(20.0%)と回答した人の割合は『男性』(12.6%)に比べ7.4ポイント上回っている。

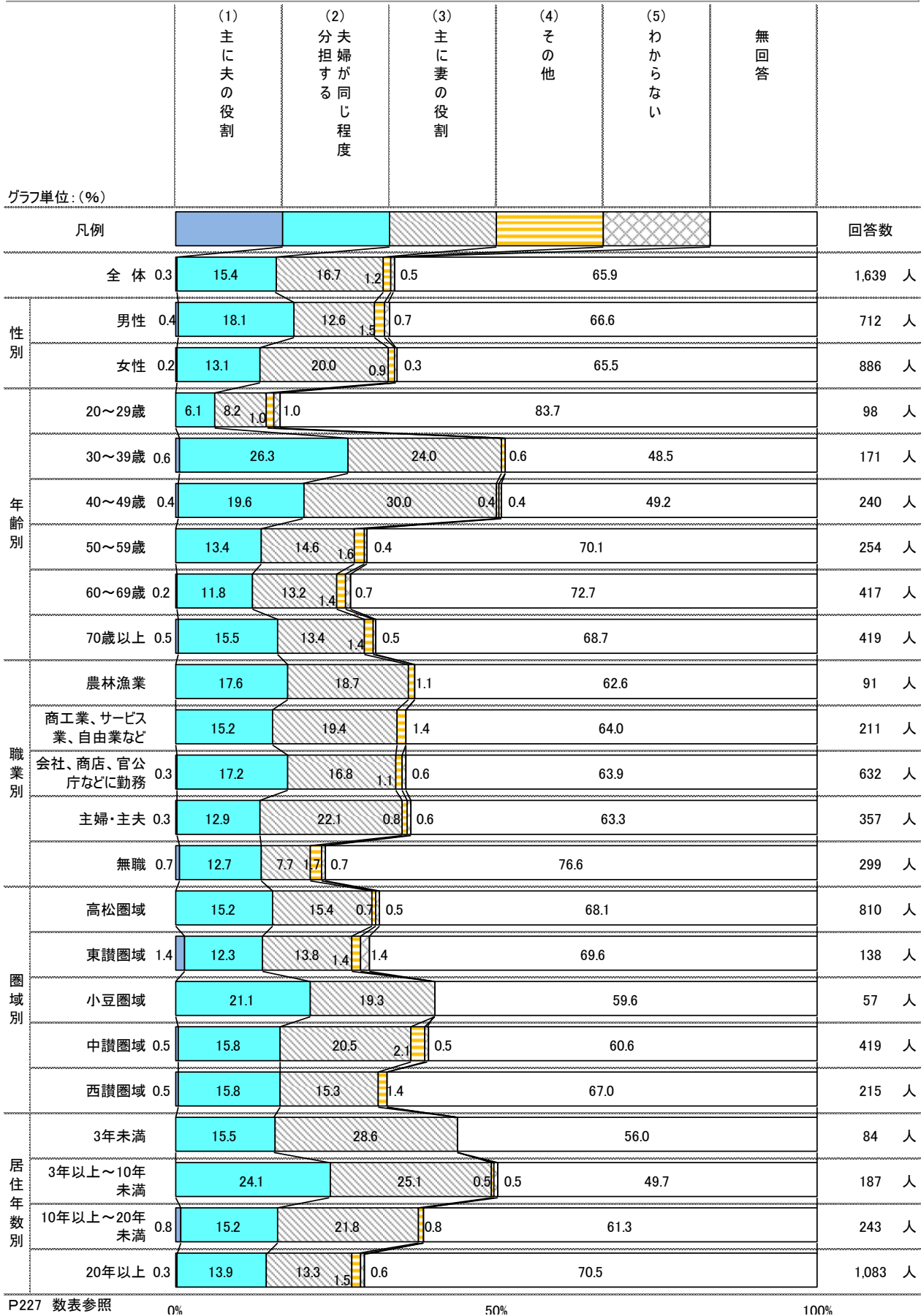
年齢別にみると、『40～49歳』において「主に妻の役割」(30.0%)と回答した人の割合は『20～29歳』(8.2%)に比べ21.8ポイント上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に妻の役割」(22.1%)と回答した人の割合は『無職』(7.7%)に比べ14.4ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「夫婦が同じ程度分担する」(21.1%)と回答した人の割合は『東讃圏域』(12.3%)に比べ8.8ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「主に妻の役割」(28.6%)と回答した人の割合は『20年以上』(13.3%)に比べ15.3ポイント上回っている。

図表 2-(3)-3 【子どもの世話、しつけや教育】(中学生以下の子どもがいる場合のみ回答)





親などの介護について、

性別にみると、『女性』において「主に妻の役割」(13.9%)と回答した人の割合は『男性』(6.3%)に比べ7.6ポイント上回っている。

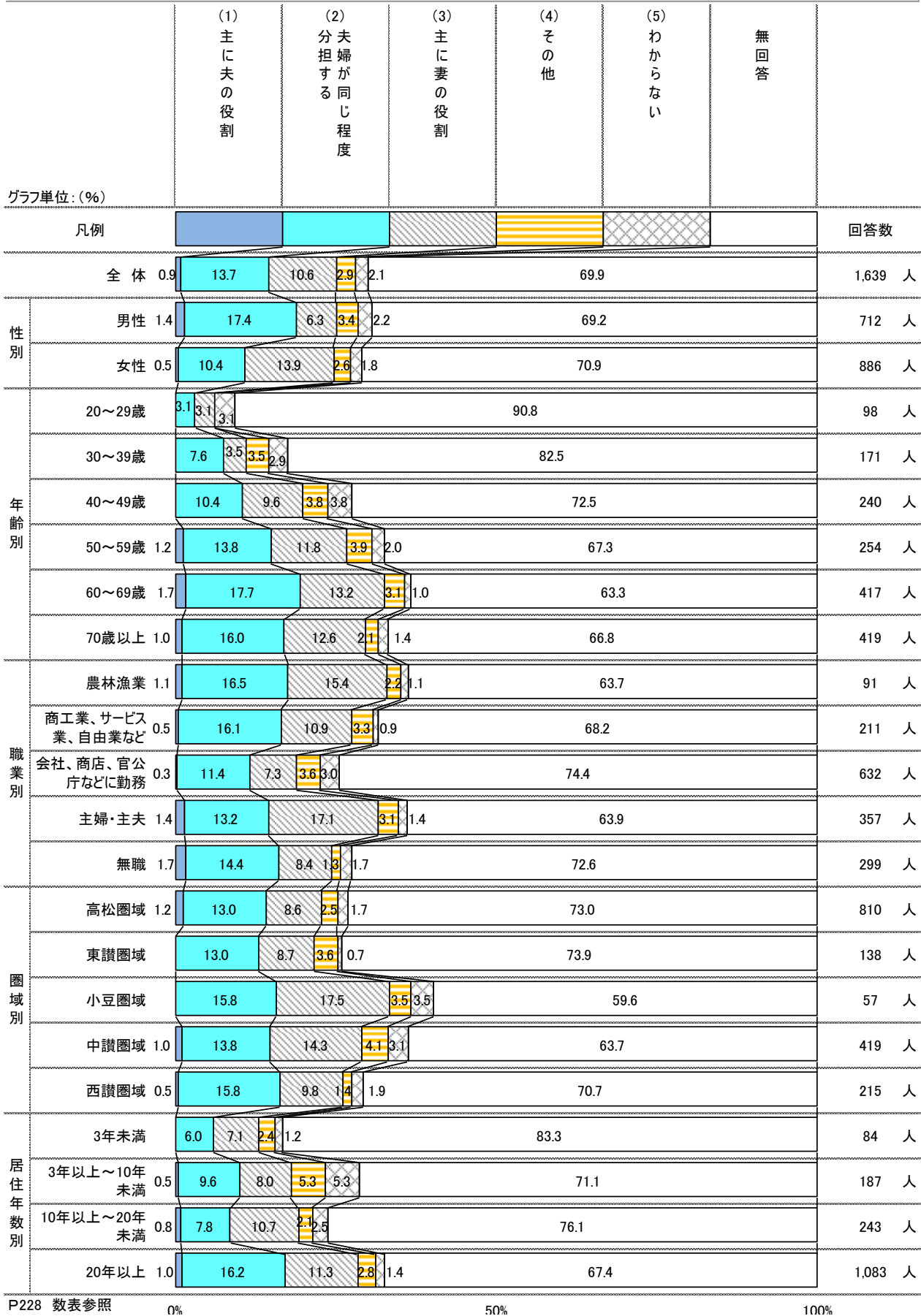
年齢別にみると、『60～69歳』において「夫婦が同じ程度分担する」(17.7%)と回答した人の割合は『20～29歳』(3.1%)、『30～39歳』(7.6%)に比べ10ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に妻の役割」(17.1%)と回答した人の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』(7.3%)、『無職』(8.4%)に比べ8ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「主に妻の役割」(17.5%)と回答した人の割合は『高松圏域』(8.6%)、『東讃圏域』(8.7%)、『西讃圏域』(9.8%)に比べ7ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において「夫婦が同じ程度分担する」(16.2%)と回答した人の割合は『3年未満』(6.0%)、『3年以上～10年未満』(9.6%)、『10年以上～20年未満』(7.8%)に比べ6ポイント以上上回っている。

図表 2-(3)-4 【親などの介護】(介護が必要とする方がいる場合のみ回答)



地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動について、性別にみると、『女性』において「主に妻の役割」(25.5%)と回答した人の割合は『男性』(13.1%)に比べ12.4ポイント上回っている。

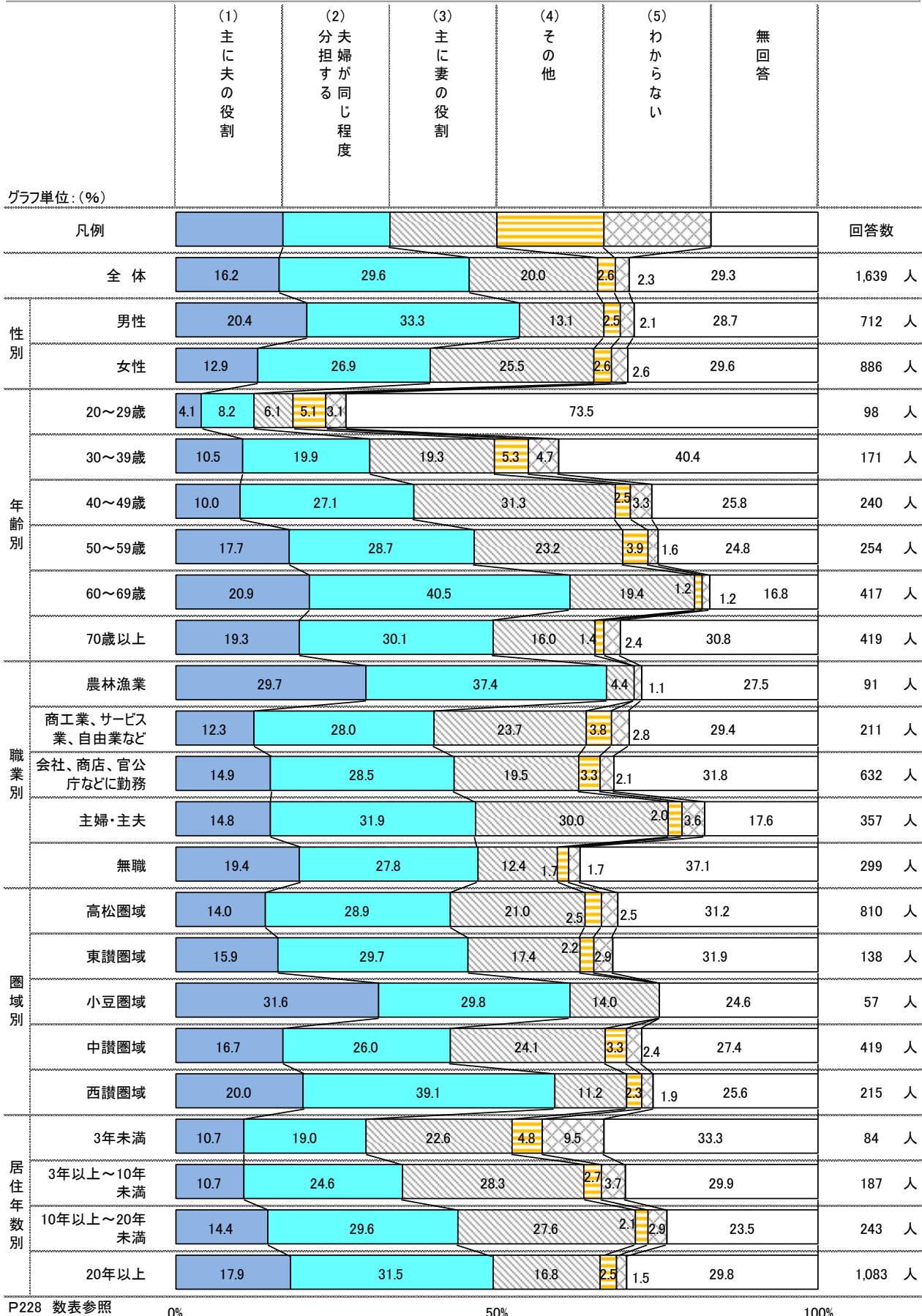
年齢別にみると、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『60～69歳』(40.5%)が最も高くなっている。

職業別にみると、『農林漁業』において「主に夫の役割」(29.7%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(12.3%)に比べ17.4ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「主に夫の役割」(31.6%)と回答した人の割合は『高松圏域』(14.0%)、『東讃圏域』(15.9%)、『中讃圏域』(16.7%)に比べ14ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「主に妻の役割」(28.3%)と回答した人の割合は『20年以上』(16.8%)に比べ11.5ポイント上回っている。

図表 2-(3)-5 【地域の行事、自治会、PTAなどの地域活動】



P228 数表参照

0%

50%

100%

収入を得ることについて、

性別にみると、大きな差はみられない。

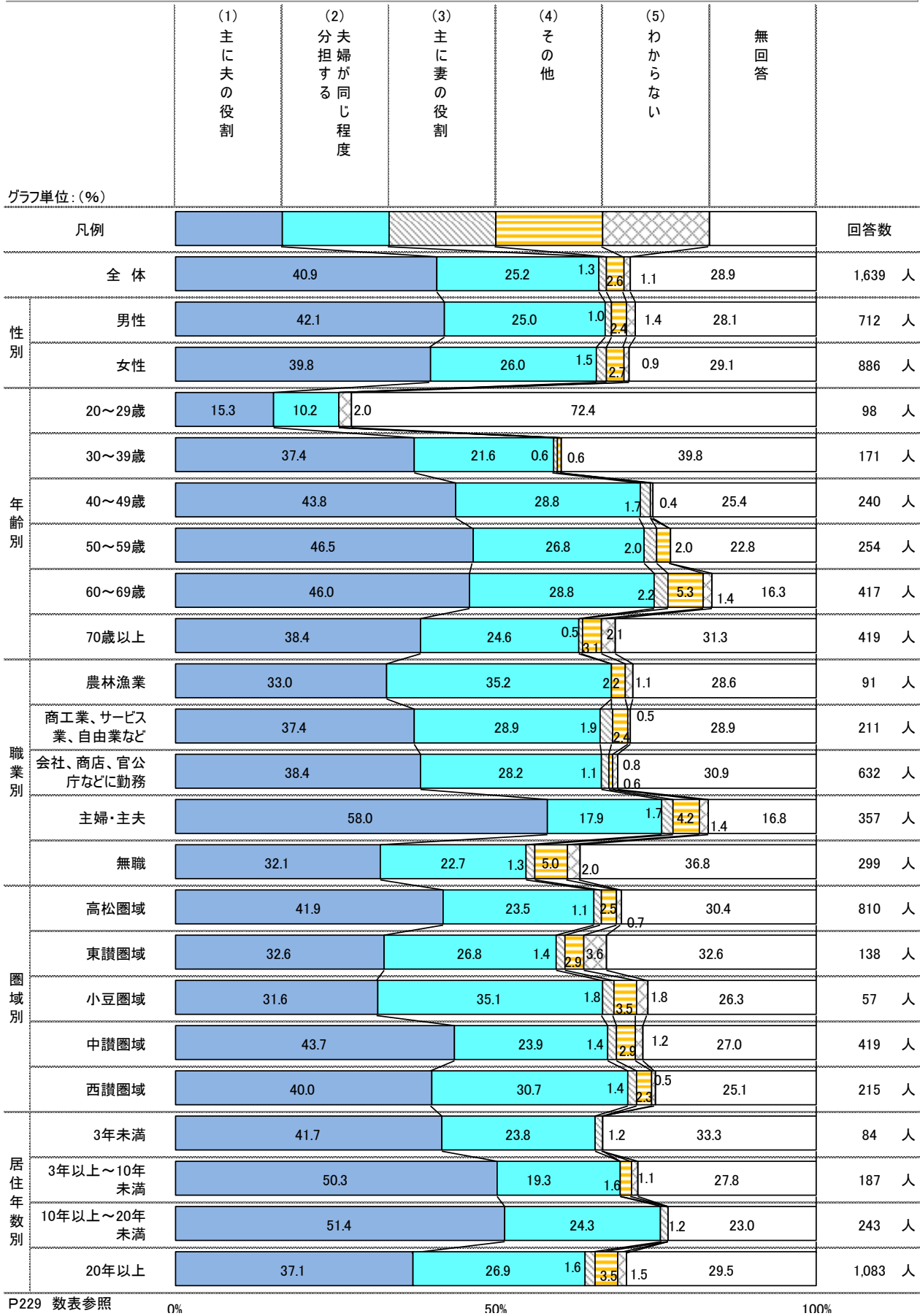
年齢別にみると、「主に夫の役割」と回答した人の割合は『40～49歳』（43.8%）、『50～59歳』（46.5%）、『60～69歳』（46.0%）が4割を超え『20～29歳』（15.3%）に比べ28ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において「夫婦が同じ程度分担する」（35.2%）と回答した人の割合は『主婦・主夫』（17.9%）に比べ17.3ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「夫婦が同じ程度分担する」（35.1%）と回答した人の割合は『高松圏域』（23.5%）、『中讃圏域』（23.9%）に比べ11ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、「主に夫の役割」と回答した人の割合は『3年以上～10年未満』（50.3%）、『10年以上～20年未満』（51.4%）が5割を超え『20年以上』（37.1%）に比べ13ポイント以上上回っている。

図表 2-(3)-6 【収入を得ること】



P229 数表参照

0%

50%

100%

家計の管理について、

性別にみると、大きな差はみられない。

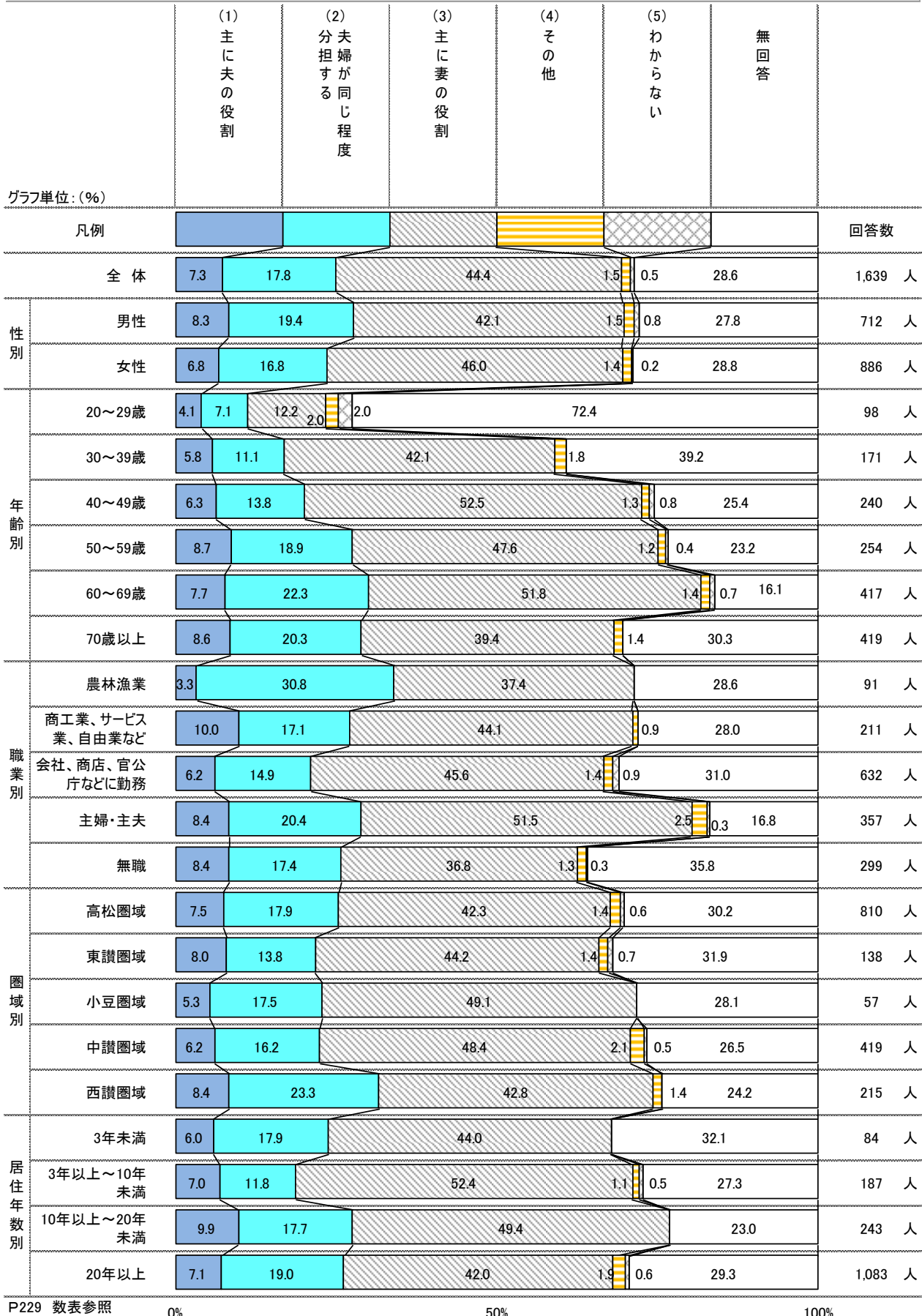
年齢別にみると、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『60～69歳』（22.3%）が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に妻の役割」（51.5%）と回答した人の割合は『無職』（36.8%）に比べ14.7ポイント上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』において「夫婦が同じ程度分担する」（23.3%）と回答した人の割合は『東讃圏域』（13.8%）に比べ9.5ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において「主に夫の役割」（9.9%）と回答した人の割合は『3年未満』（6.0%）に比べ3.9ポイント上回っている。

図表 2-(3)-7 【家計の管理】



P229 数表参照

0%

50%

100%



高額な商品や土地、家屋の購入の決定について、性別にみると、大きな差はみられない。

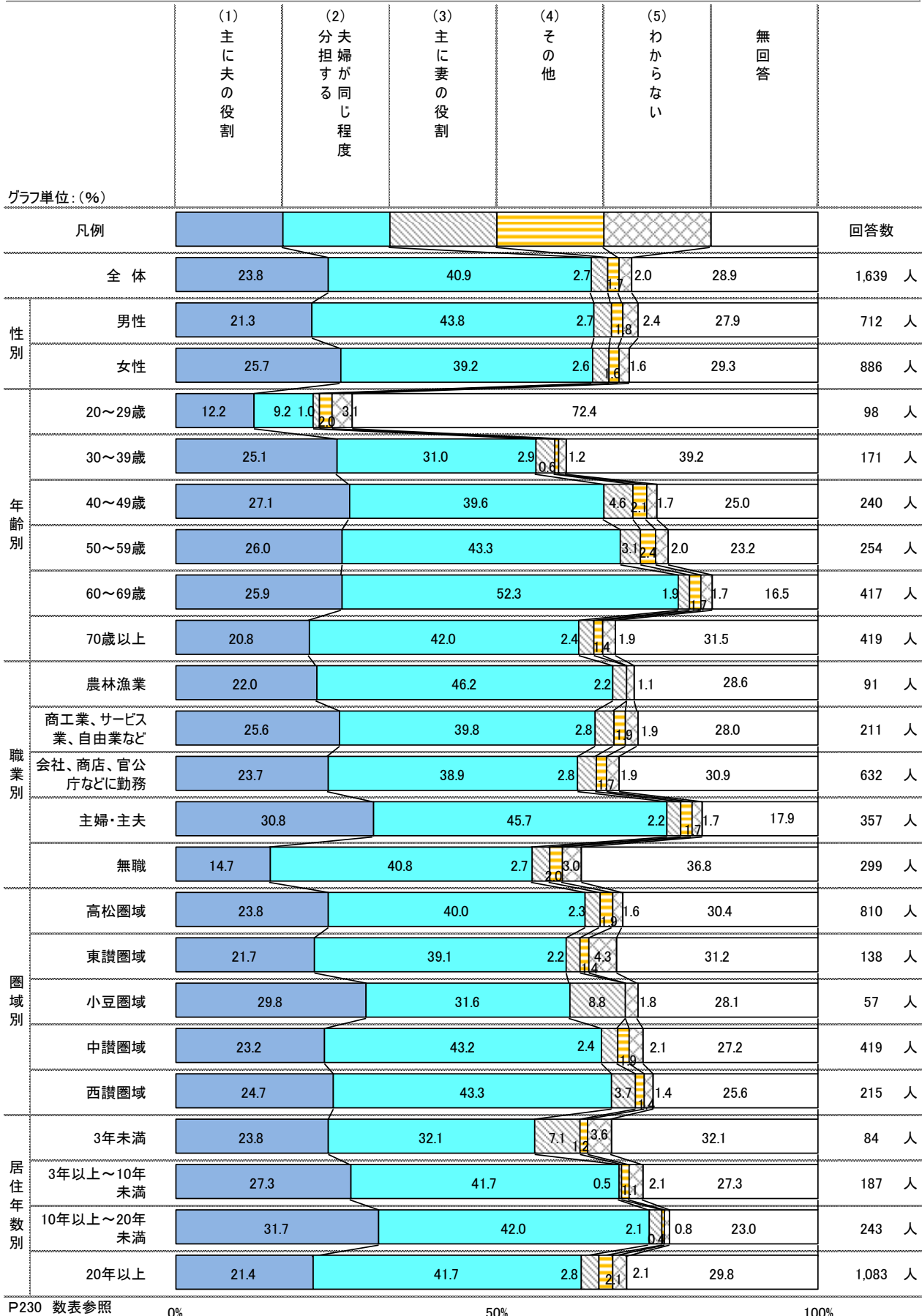
年齢別にみると、「夫婦が同じ程度分担する」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『60～69歳』（52.3%）が最も高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「主に夫の役割」（30.8%）と回答した人の割合は『無職』（14.7%）に比べ16.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』において「夫婦が同じ程度分担する」（43.3%）と回答した人の割合は『小豆圏域』（31.6%）に比べ11.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において「主に夫の役割」（31.7%）と回答した人の割合は『20年以上』（21.4%）に比べ10.3ポイント上回っている。

図表 2-(3)-8 【高額な商品や土地、家屋の購入の決定】



(4) 男女の地位の平等さについて

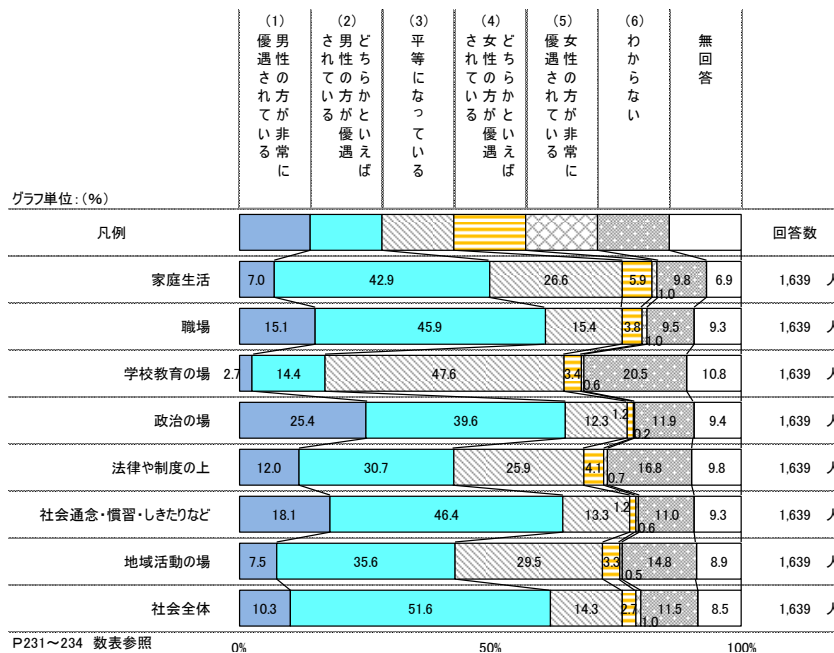
問6 あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。  
それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	① 男性の方が非常に優遇されている	② どちらかといえば男性の方が優遇されている	③ 平等になっている	④ どちらかといえば女性の方が優遇されている	⑤ 女性の方が非常に優遇されている	⑥ わからない	無回答
1 家庭生活	7.0	42.9	26.6	5.9	1.0	9.8	6.9
2 職場	15.1	45.9	15.4	3.8	1.0	9.5	9.3
3 学校教育の場	2.7	14.4	47.6	3.4	0.6	20.5	10.8
4 政治の場	25.4	39.6	12.3	1.2	0.2	11.9	9.4
5 法律や制度の上	12.0	30.7	25.9	4.1	0.7	16.8	9.8
6 社会通念・慣習・しきたりなど	18.1	46.4	13.3	1.2	0.6	11.0	9.3
7 地域活動の場	7.5	35.6	29.5	3.3	0.5	14.8	8.9
8 社会全体	10.3	51.6	14.3	2.7	1.0	11.5	8.5

男女の地位の平等さについて、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『政治の場』(65.0%)が最も多く、次いで『社会通念・慣習・しきたりなど』(64.5%)となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合は全ての項目で1割にも満たない結果となっている。

図表 2-(4)-1 男女の地位の平等さについて



家庭生活について、

性別にみると、『女性』において「男性の方が非常に優遇されている」(9.5%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(47.1%)を合わせた割合は56.6%と『男性』(42.7%)に比べ13.9ポイント上回っている。

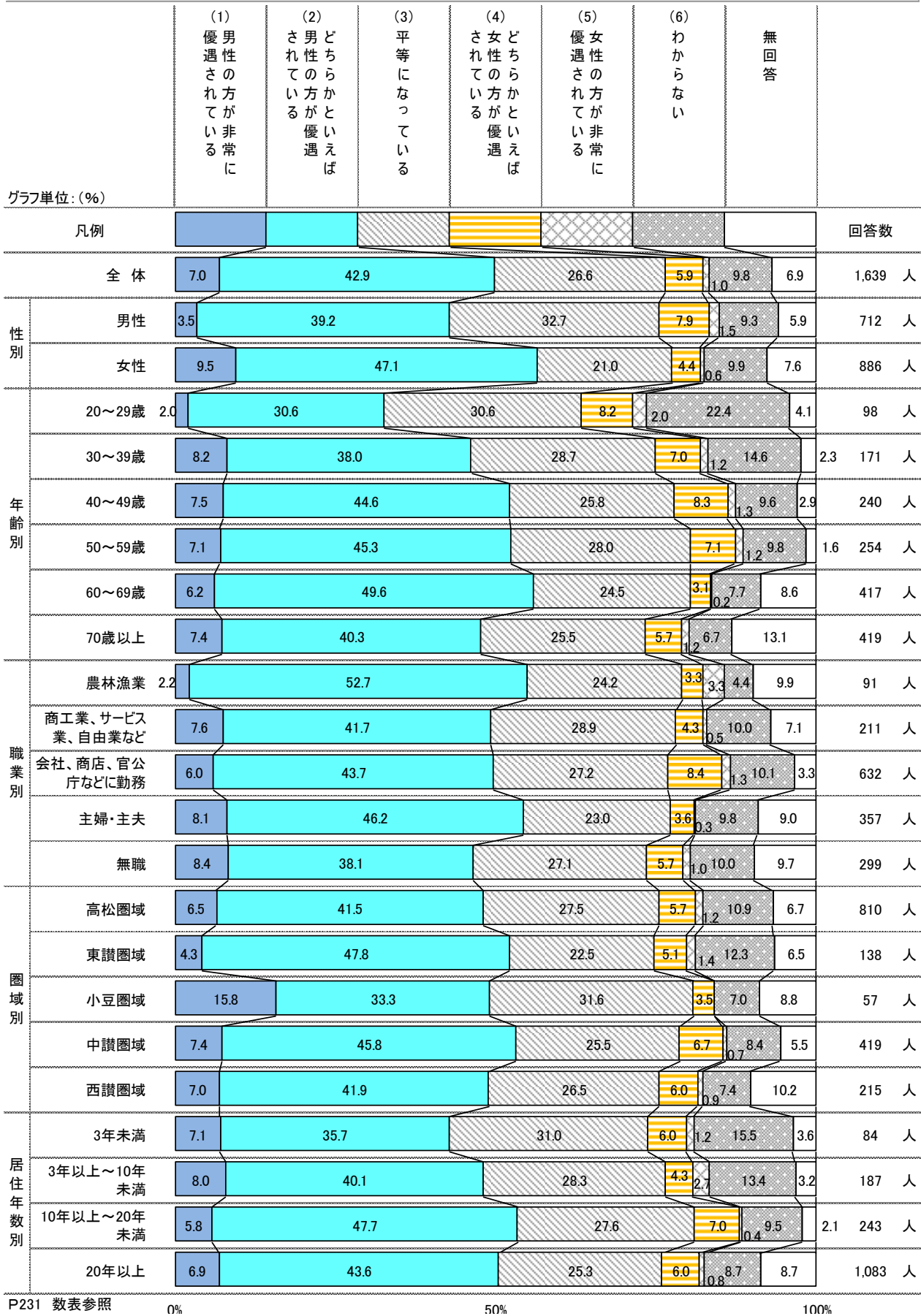
年齢別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『40～49歳』(52.1%)、『50～59歳』(52.4%)、『60～69歳』(55.8%)が5割を超える結果となっている。『20～29歳』において「女性の方が非常に優遇されている」(2.0%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.2%)を合わせた割合は10.2%と『60～69歳』(3.3%)に比べ6.9ポイント上回っている。

職業別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『農林漁業』(54.9%)、『主婦・主夫』(54.3%)が5割を超える結果となっている。『会社、商店、官公庁などに勤務』において「女性の方が非常に優遇されている」(1.3%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.4%)を合わせた割合は9.7%と『主婦・主夫』(3.9%)に比べ5.8ポイント上回っている。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『東讃圏域』(52.1%)、『中讃圏域』(53.2%)が5割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『10年以上～20年未満』(53.5%)、『20年以上』(50.5%)が5割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

図表 2-(4)-2 【家庭生活】



P231 数表参照

0%

50%

100%

職場について、

性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は男女ともに5割を超える結果となっている。

年齢別にみると、『70歳以上』において「男性の方が非常に優遇されている」(12.4%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.5%)を合わせた割合は49.9%と最も低くなっており、その他の年代別では6割を超える結果となっている。『20～29歳』において「女性の方が非常に優遇されている」(2.0%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(9.2%)を合わせた割合は11.2%と『70歳以上』(1.4%)に比べ9.8ポイント上回っている。

職業別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての職業別で5割を超える結果となっている。『会社、商店、官公庁などに勤務』において「女性の方が非常に優遇されている」(1.7%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(6.5%)を合わせた割合は8.2%と『農林漁業』(1.1%)、『無職』(1.7%)に比べ6ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての地域別で6割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての居住年数別で6割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。



学校教育の場について、

性別にみると、『男性』において「平等になっている」(53.1%)と回答した人の割合は『女性』(44.1%)に比べ9ポイント上回っている。

年齢別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は『20～29歳』(57.1%)、『30～39歳』(56.1%)、『40～49歳』(51.7%)、『50～59歳』(54.7%)が5割を超える結果となっている。

職業別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』(54.6%)が5割を超える結果となっている。『主婦・主夫』において「男性の方が非常に優遇されている」(2.8%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(17.4%)を合わせた割合は20.2%と『農林漁業』(13.2%)に比べ7ポイント上回っている。

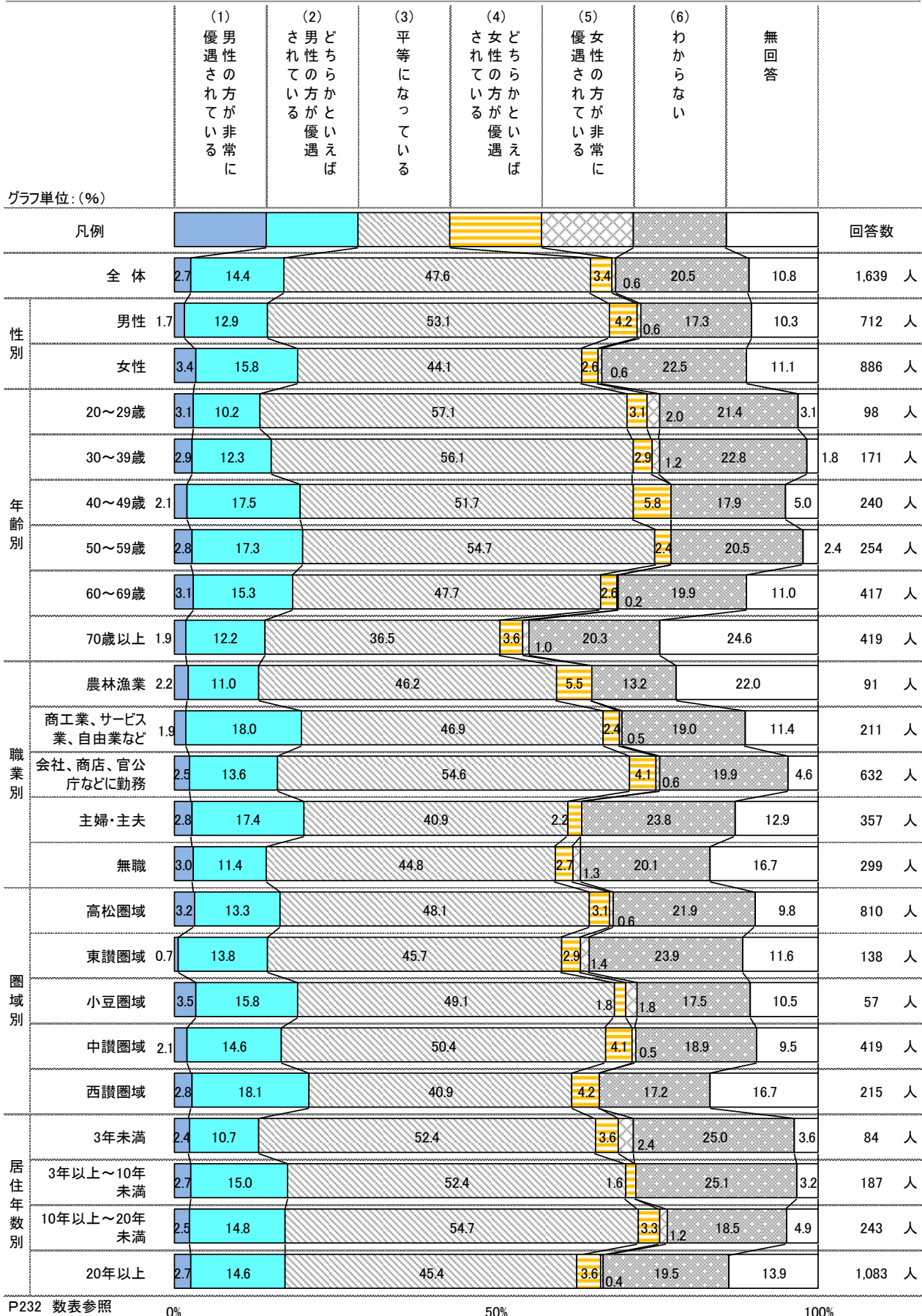
圏域別にみると、『西讃地域』において「男性の方が非常に優遇されている」(2.8%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(18.1%)を合わせた割合は20.9%と『東讃圏域』(14.5%)に比べ6.4ポイント上回っている。

「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「平等になっている」と回答した人の割合は『20年以上』(45.4%)を除く全ての居住年数別で5割を超える結果となっている。「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。



図表 2-(4)-4 【学校教育の場】



P232 数表参照

0%

50%

100%

政治の場について、

性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は男女ともに6割を超える結果となっている。

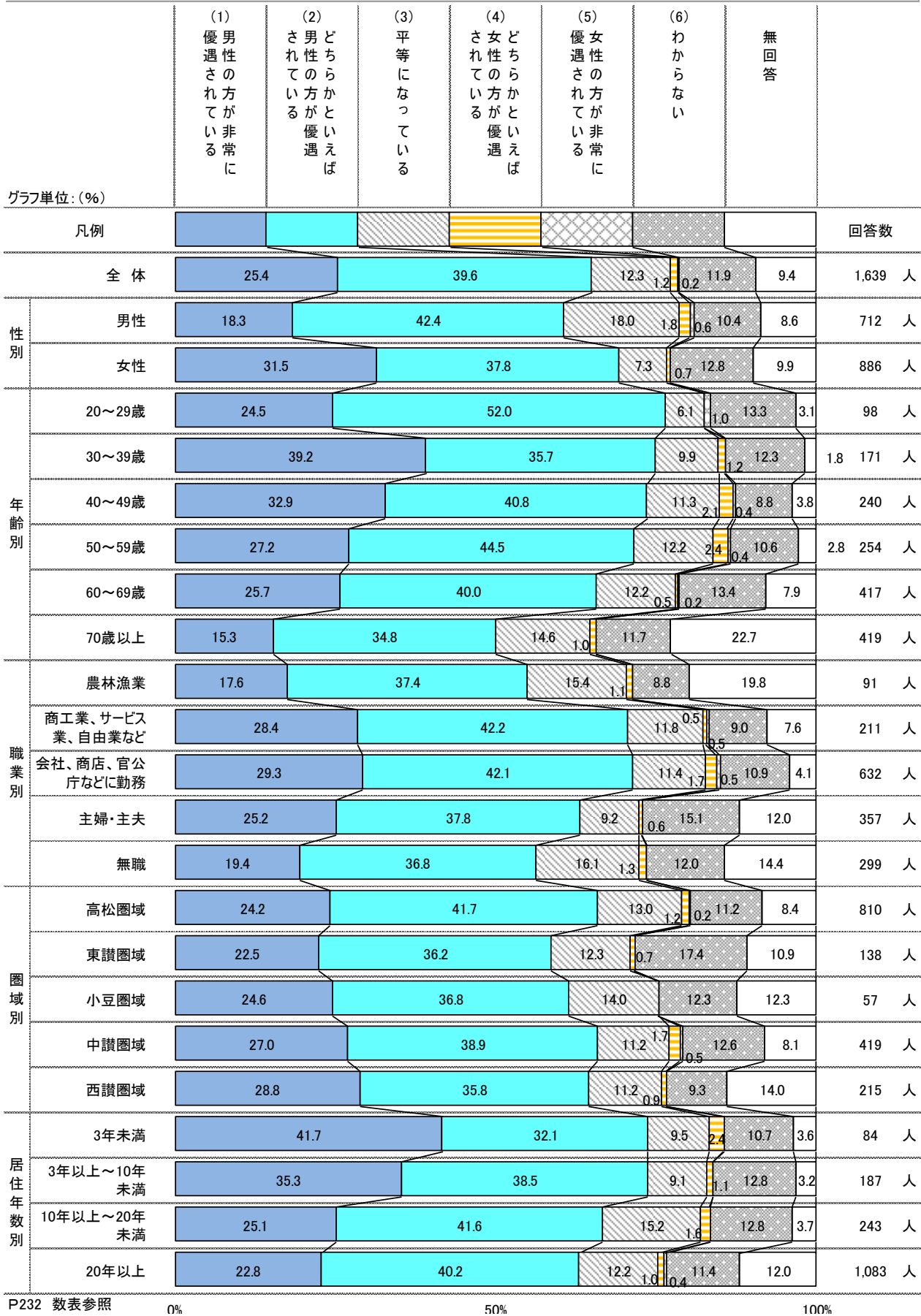
年齢別にみると、『70歳以上』において「男性の方が非常に優遇されている」(15.3%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(34.8%)を合わせた割合は50.1%と最も低くなっており、他の年代別では6割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

職業別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は『商工業、サービス業、自由業など』(70.6%)、『会社、商店、官公庁などに勤務』(71.4%)が7割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての地域別で5割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての居住年数別で6割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

図表 2-(4)-5 【政治の場】



法律や制度の上について、

性別にみると、『女性』において「男性の方が非常に優遇されている」(16.0%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(32.2%)を合わせた割合は48.2%と『男性』(36.5%)に比べ11.7ポイント上回っている。

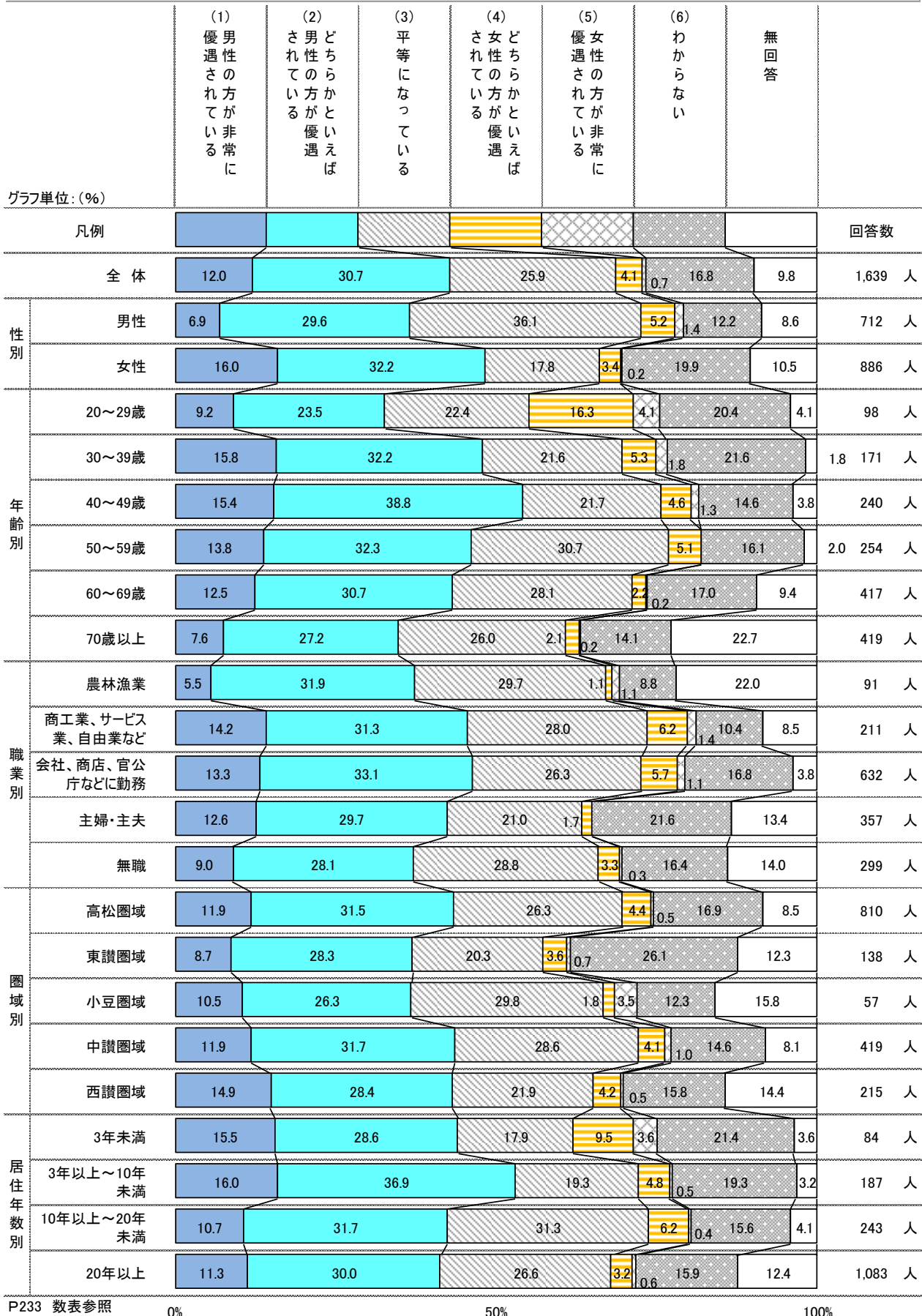
年齢別にみると、『40～49歳』において「男性の方が非常に優遇されている」(15.4%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(38.8%)を合わせた割合は54.2%と『20～29歳』(32.7%)に比べ21.5ポイント上回っている。『20～29歳』において「女性の方が非常に優遇されている」(4.1%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(16.3%)を合わせた割合は20.4%と『60～69歳』(2.4%)、『70歳以上』(2.3%)に比べ18ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「男性の方が非常に優遇されている」(13.3%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.1%)を合わせた割合は46.4%と『農林漁業』(37.4%)、『無職』(37.1%)に比べ9ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「男性の方が非常に優遇されている」(16.0%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(36.9%)を合わせた割合は52.9%と『20年以上』(41.3%)に比べ11.6ポイント上回っている。『3年未満』において「女性の方が非常に優遇されている」(3.6%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(9.5%)を合わせた割合は13.1%と『20年以上』(3.8%)に比べ9.3ポイント上回っている。

図表 2-(4)-6 【法律や制度の上】



社会通念・慣習・しきたりなどについて、

性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は男女ともに6割を超える結果となっている。

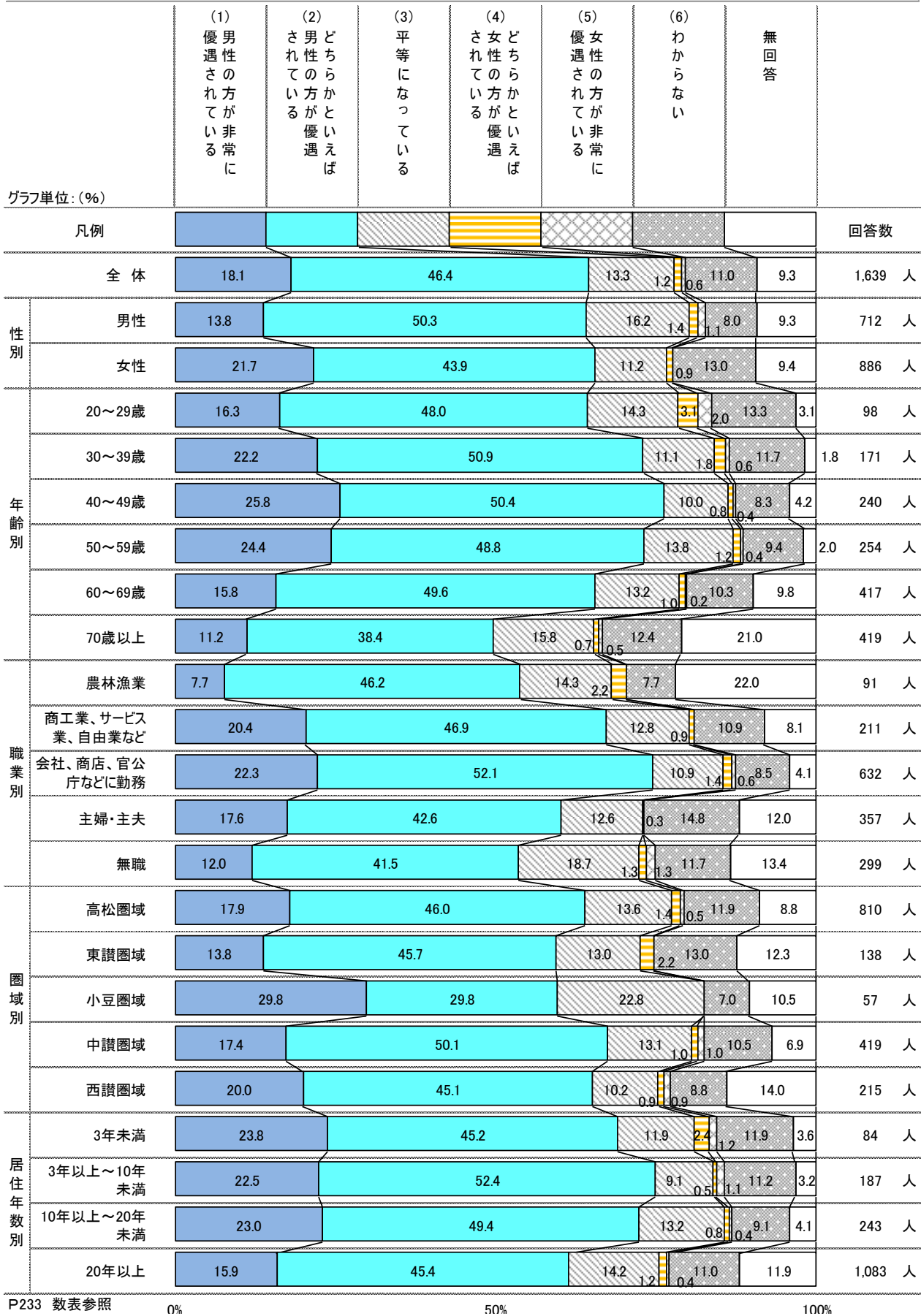
年齢別にみると、『40～49歳』において「男性の方が非常に優遇されている」(25.8%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(50.4%)を合わせた割合は76.2%と『70歳以上』(49.6%)に比べ26.6ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「男性の方が非常に優遇されている」(22.3%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(52.1%)を合わせた割合は74.4%と『農林漁業』(53.9%)、『無職』(53.5%)に比べ20ポイント以上上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、全ての地域別で5割を超える結果となっている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「男性の方が非常に優遇されている」(22.5%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(52.4%)を合わせた割合は74.9%と『20年以上』(61.3%)に比べ13.6ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

図表 2-(4)-7 【社会通念・慣習・しきたりなど】



P233 数表参照

0%

50%

100%

地域活動の場について、

性別にみると、『女性』において「男性の方が非常に優遇されている」(9.5%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(36.7%)を合わせた割合は46.2%と『男性』(39.9%)に比べ6.3ポイント上回っている。

年齢別にみると、『50～59歳』において「男性の方が非常に優遇されている」(11.8%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.4%)を合わせた割合は51.2%と『20～29歳』(24.5%)に比べ26.7ポイント上回っている。『20～29歳』において「女性の方が非常に優遇されている」(2.0%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.2%)を合わせた割合は10.2%と最も高くなっている。

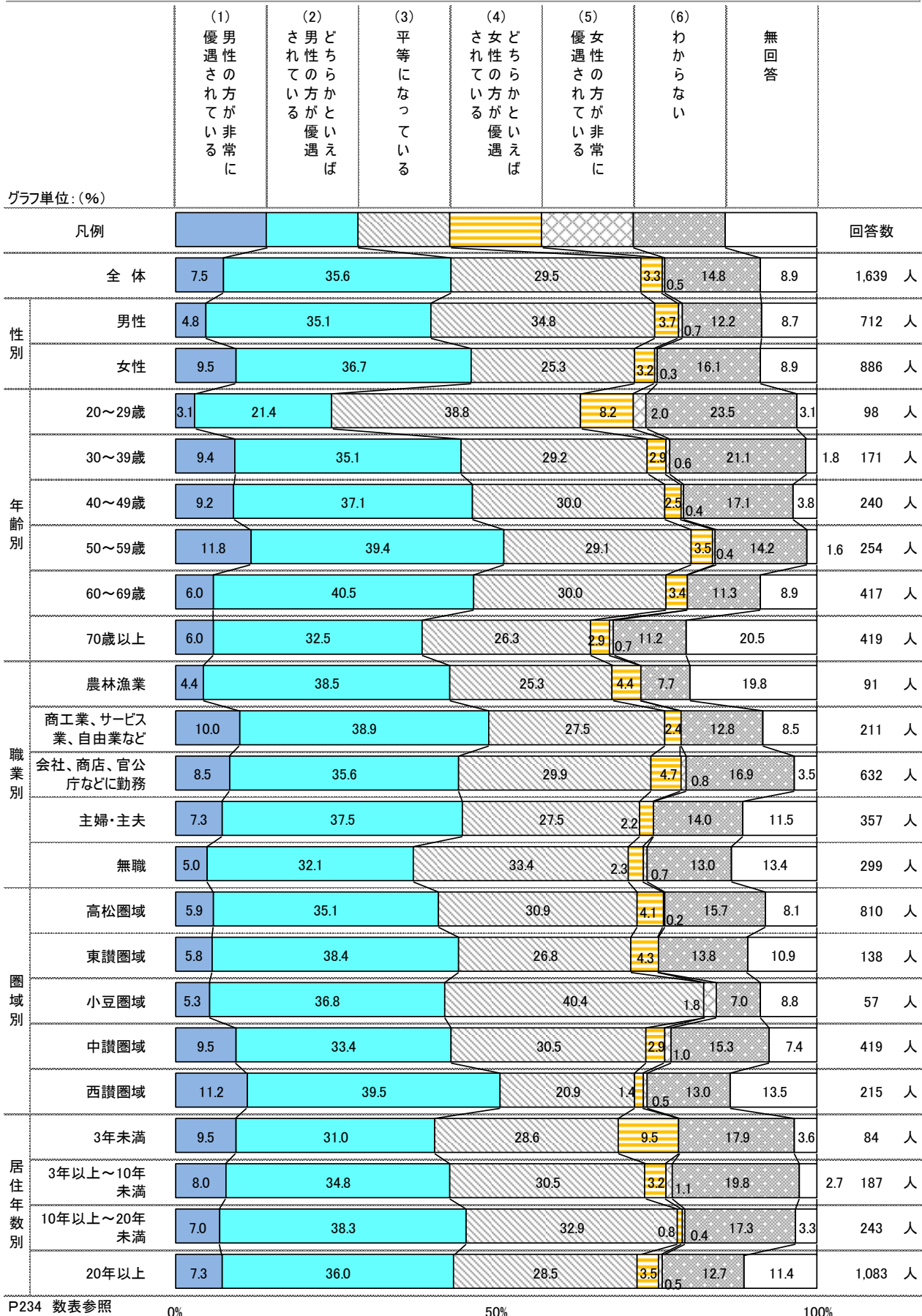
職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業』において「男性の方が非常に優遇されている」(10.0%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(38.9%)を合わせた割合は48.9%と『無職』(37.1%)に比べ11.8ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

圏域別にみると、『西讃圏域』において「男性の方が非常に優遇されている」(11.2%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.5%)を合わせた割合は50.7%と『高松圏域』(41.0%)に比べ9.7ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。



図表 2-(4)-8 【地域活動の場】



社会全体について、

性別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は男女ともに6割を超える結果となっている。

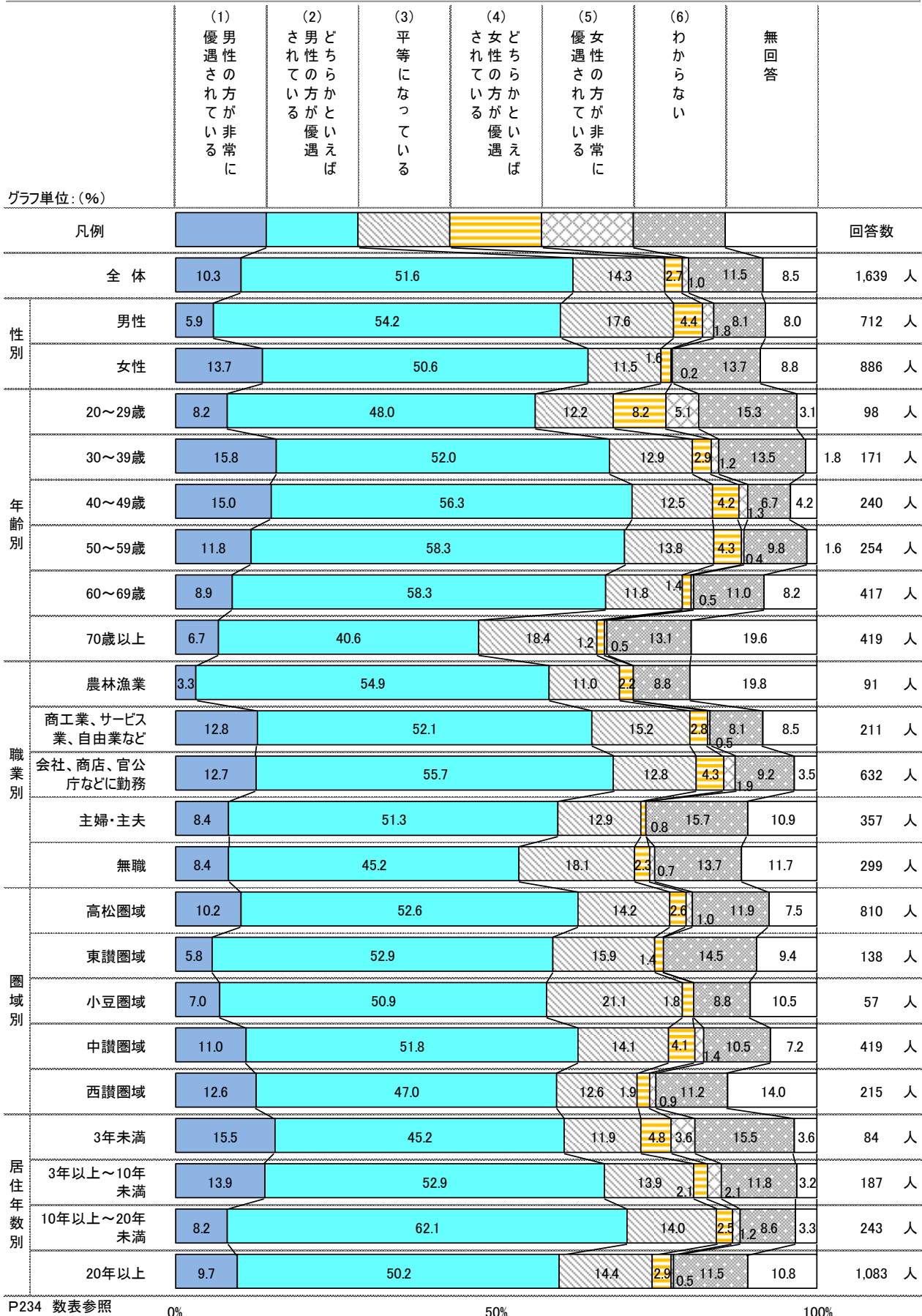
年齢別にみると、『40～49歳』において「男性の方が非常に優遇されている」(15.0%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(56.3%)を合わせた割合は71.3%と『70歳以上』(47.3%)に比べ24ポイント上回っている。『20～29歳』において「女性の方が非常に優遇されている」(5.1%)と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(8.2%)を合わせた割合は13.3%と『60～69歳』(1.9%)、『70歳以上』(1.7%)に比べ11ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「男性の方が非常に優遇されている」(12.7%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(55.7%)を合わせた割合は68.4%と『無職』(53.6%)に比べ14.8ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

圏域別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において「男性の方が非常に優遇されている」(8.2%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(62.1%)を合わせた割合は70.3%と『20年以上』(59.9%)に比べ10.4ポイント上回っている。「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた割合では、大きな差はみられない。

図表 2-(4)-9 【社会全体】



P234 数表参照

0%

50%

100%

(5) 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことはあるか

問7 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」、「男子生徒は理系、女子生徒は文系を選ぶべき」といった、男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがありましたか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1 進学のとときにあった	7.5%
2 就職のとときにあった	10.3%
3 仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった	14.1%
4 管理職等へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	2.3%
5 その他（具体的に： ）	1.8%
6 特にない	68.3%
(無回答)	4.5%

男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことはあるかについて、「特にない」(68.3%)が最も多く、次いで「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」(14.1%)、「就職のとときにあった」(10.3%)などとなっている。

図表 2-(5)-1 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことはあるか

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 進学のとときにあった	7.5	123 人
(2) 就職のとときにあった	10.3	168 人
(3) 仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった	14.1	231 人
(4) 管理職等へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	2.3	38 人
(5) その他	1.8	29 人
(6) 特にない	68.3	1,120 人
無回答	4.5	73 人

グラフ単位：(%)

男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことはあるかについて、

性別にみると、『女性』において「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」(20.2%)と回答した人の割合は『男性』(6.0%)に比べ14.2ポイント上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において「進学のときにあった」(10.3%)と回答した人の割合は『30～39歳』(5.3%)、『50～59歳』(4.3%)に比べ5ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「仕事を続けたかったが辞めざるを得なかったことがあった」(26.3%)と回答した人の割合は他の職業に比べ8ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「就職のときにあった」(11.6%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(5.3%)に比べ6.3ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において「就職のときにあった」(11.6%)と回答した人の割合は『3年未満』(6.0%)、『10年以上～20年未満』(6.2%)に比べ5ポイント以上上回っている。

図表 2-(5)-2 男女間の固定的な先入観を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことはあるか

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)		
		回答者数(人)	進学のと きに あった	就職の とき にあった	仕事を 続けた か つたが 辞め ざる を得 な か つ た こ と が あ っ た	管理職 等へ 昇進 した か つ た が 、 あ き ら め ざ る を 得 な か つ た	その他	特 に な い	無 回 答
単位: 比率(%)									
全体		1,639	7.5	10.3	14.1	2.3	1.8	68.3	4.5
性別	男性	712	5.3	10.0	6.0	1.8	0.4	78.5	3.7
	女性	886	8.9	10.4	20.2	2.4	2.9	61.1	4.7
年齢別	20～29歳	98	8.2	10.2	4.1	1.0	1.0	82.7	1.0
	30～39歳	171	5.3	4.7	10.5	4.1	3.5	74.9	1.2
	40～49歳	240	7.9	7.1	9.6	2.1	0.8	76.3	1.3
	50～59歳	254	4.3	9.4	15.4	2.0	2.4	72.4	2.8
	60～69歳	417	7.0	9.6	16.3	2.4	1.0	68.6	3.4
	70歳以上	419	10.3	15.5	16.7	1.7	2.4	56.6	9.5
職業別	農林漁業	91	7.7	14.3	17.6	2.2	-	60.4	8.8
	商工業、サービス業、 自由業など	211	7.1	12.3	11.8	1.4	0.5	70.1	5.2
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	6.3	7.8	7.6	2.5	2.1	77.5	2.1
	主婦・主夫	357	9.5	10.4	26.3	2.5	2.8	55.5	4.8
	無職	299	7.4	12.7	12.7	1.7	1.7	68.2	5.4
圏域別	高松圏域	810	7.7	10.6	12.8	2.3	1.7	69.6	4.1
	東讃圏域	138	6.5	11.6	18.8	3.6	1.4	65.2	3.6
	小豆圏域	57	3.5	5.3	12.3	1.8	5.3	70.2	7.0
	中讃圏域	419	8.4	10.5	15.5	2.6	1.9	67.3	3.3
	西讃圏域	215	7.0	8.8	13.5	0.9	0.9	67.0	7.9
居住年数別	3年未満	84	10.7	6.0	9.5	2.4	4.8	73.8	-
	3年以上～10年未満	187	6.4	9.6	12.8	1.6	1.6	72.2	1.1
	10年以上～20年未満	243	5.3	6.2	14.4	2.9	2.9	73.3	2.9
	20年以上	1,083	7.8	11.6	14.3	2.1	1.4	66.9	5.3

(6) 女性が職業を持つことについて

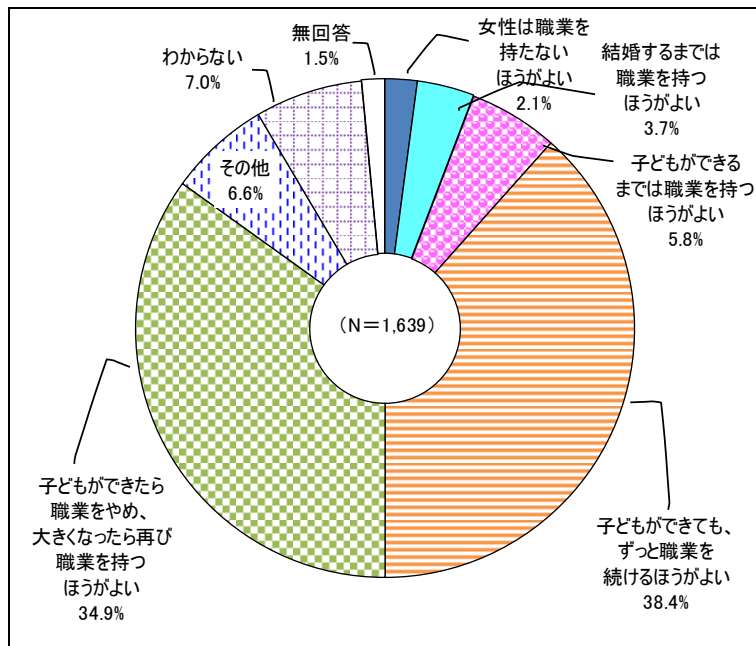
問8 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	女性は職業を持たないほうがよい	2.1%
2	結婚するまでは職業を持つほうがよい	3.7%
3	子どもができるまでは職業を持つほうがよい	5.8%
4	子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	38.4%
5	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい	34.9%
6	その他（具体的に： )	6.6%
7	わからない	7.0%
	(無回答)	1.5%

女性が職業を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」(38.4%)が最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(34.9%)、「わからない」(7.0%)、「その他」(6.6%)などとなっている。

図表 2-(6)-1 女性が職業を持つことについて



女性が職業を持つことについて、  
性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『70 歳以上』において「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(39.4%)と回答した人の割合は『30～39 歳』(25.7%)、『40～49 歳』(29.6%)に比べ9ポイント以上上回っている。

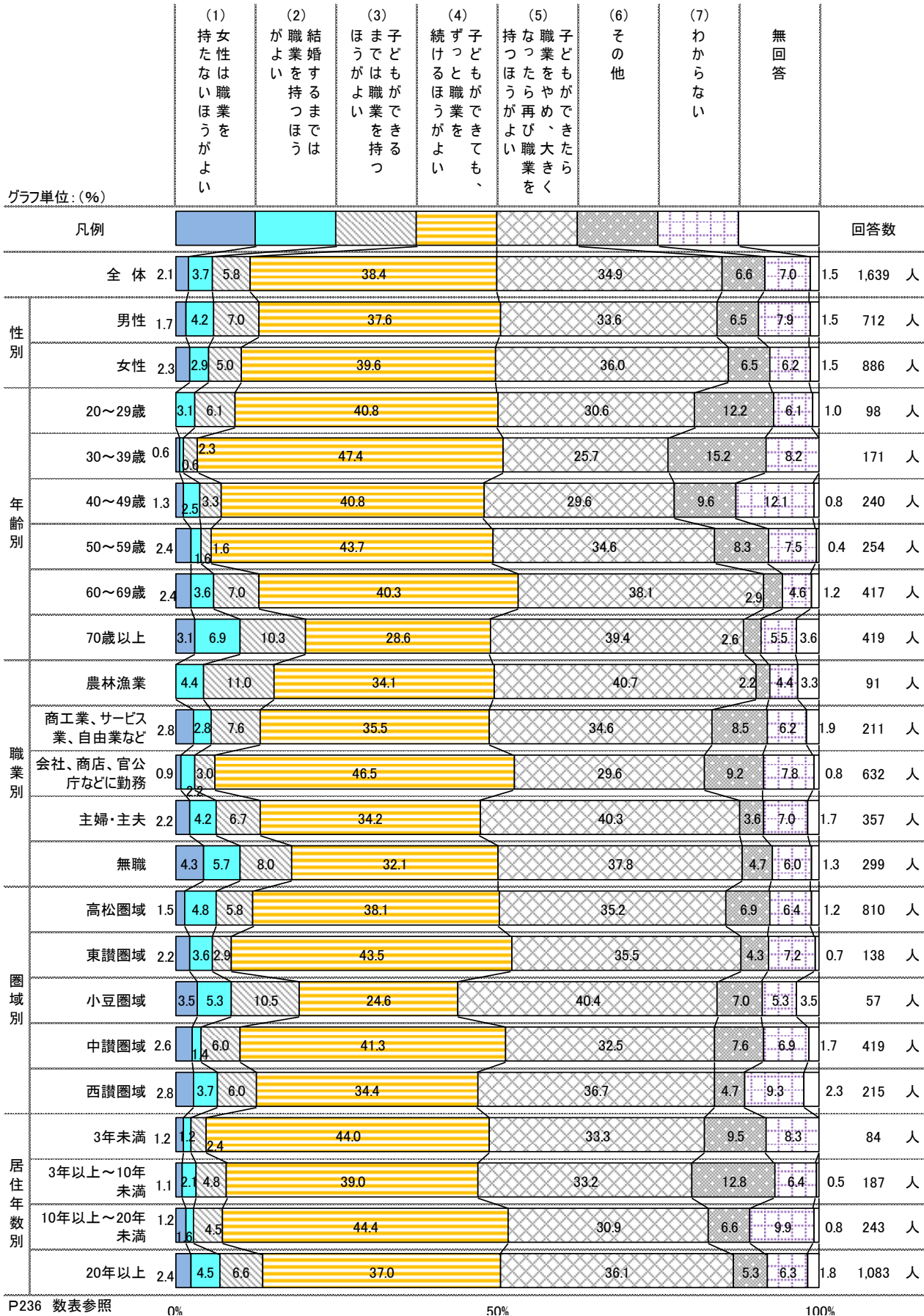
職業別にみると、『農林漁業』において「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」(11.0%)と回答した人の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』(3.0%)に比べ8ポイント、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(40.7%)と回答した人の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』(29.6%)に比べ11.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」(10.5%)と回答した人の割合は『東讃圏域』(2.9%)に比べ7.6ポイント、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(40.4%)と回答した人の割合は『中讃圏域』(32.5%)に比べ7.9ポイント上回っている。

居住年数別にみると、大きな差はみられない。



図表 2-(6)-2 女性が職業を持つことについて



(7) 企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由

問9 あなたは、企業や地域社会、また政治や行政において、企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1	家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識	38.3%
2	男性優位の組織運営	54.3%
3	家族の支援や協力が得られない	34.3%
4	女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分	28.9%
5	女性の活動を支援するネットワークの不足	20.4%
6	女性側の積極性が十分でない	27.0%
7	女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない	38.4%
8	その他（具体的に： )	2.9%
9	わからない	10.0%
	(無回答)	3.0%

企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由について、「男性優位の組織運営」(54.3%)が最も多く、次いで「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」(38.4%)、「家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識」(38.3%)、「家族の支援や協力が得られない」(34.3%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由

		回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識	38.3	628 人
(2) 男性優位の組織運営	54.3	890 人
(3) 家族の支援や協力が得られない	34.3	562 人
(4) 女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分	28.9	473 人
(5) 女性の活動を支援するネットワークの不足	20.4	335 人
(6) 女性側の積極性が十分でない	27.0	443 人
(7) 女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない	38.4	630 人
(8) その他	2.9	48 人
(9) わからない	10.0	164 人
無回答	3.0	49 人

グラフ単位：(%)

企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由について、

性別にみると、『女性』において「家族の支援や協力が得られない」(39.4%)と回答した人の割合は『男性』(28.5%)に比べ10.9ポイント上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において「家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識」(45.6%)と回答した人の割合は『70歳以上』(29.4%)に比べ16.2ポイント、「男性優位の組織運営」(65.5%)と回答した人の割合は『20～29歳』(44.9%)に比べ20.6ポイント上回っている。『50～59歳』において「家族の支援や協力が得られない」(44.9%)と回答した人の割合は『20～29歳』(28.6%)、『70歳以上』(25.5%)に比べ16ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性差別の意識」(41.8%)と回答した人の割合は『無職』(32.1%)に比べ9.7ポイント、「男性優位の組織運営」(58.2%)と回答した人の割合は『農林漁業』(49.5%)に比べ8.7ポイント上回っている。『主婦・主夫』において「家族の支援や協力が得られない」(38.9%)と回答した人の割合は『無職』(24.1%)に比べ14.8ポイント、「女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分」(31.9%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(23.7%)に比べ8.2ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「家族の支援や協力が得られない」(38.4%)と回答した人の割合は『西讃圏域』(28.4%)に比べ10ポイント、「女性の参画を積極的に進めよう」と意識している人が少ない」(41.3%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(33.3%)に比べ8ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「家族の支援や協力が得られない」(44.0%)と回答した人の割合は『20年以上』(31.1%)に比べ12.9ポイント、「女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分」(35.7%)と回答した人の割合は『3年以上10年未満』(23.0%)に比べ12.7ポイント、「女性の活動を支援するネットワークの不足」(32.1%)と回答した人の割合は『3年以上10年未満』(17.6%)に比べ14.5ポイント上回っている。

図表 2-(7)-2 企画立案や方針決定の過程に指導的立場の女性が少ない理由

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		回答者数 (人)	家庭、職場、地域における性別による固定的役割分担や性別の意識	男性優位の組織運営	家族の支援や協力が得られない	女性の能力開発やキャリアアップの機会が不十分	女性の活動を支援するネットワークの不足	女性側の積極性が十分でない	女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない	その他	わからない	無回答
単位: 比率(%)												
全体		1,639	38.3	54.3	34.3	28.9	20.4	27.0	38.4	2.9	10.0	3.0
性別	男性	712	36.4	53.2	28.5	29.5	18.3	29.6	39.7	4.6	8.6	2.0
	女性	886	40.5	55.6	39.4	28.3	21.8	25.7	37.6	1.5	10.7	3.6
年齢別	20～29歳	98	42.9	44.9	28.6	20.4	14.3	27.6	27.6	4.1	12.2	-
	30～39歳	171	45.6	65.5	41.5	29.8	18.7	22.8	38.6	4.7	4.1	1.2
	40～49歳	240	39.2	60.4	37.5	22.9	17.9	20.4	33.8	5.0	8.3	0.8
	50～59歳	254	45.3	56.7	44.9	31.1	22.0	31.1	38.2	3.5	5.5	0.4
	60～69歳	417	39.3	57.1	34.3	32.1	24.2	29.3	45.1	1.9	8.2	2.9
	70歳以上	419	29.4	46.1	25.5	29.8	18.6	29.1	37.7	1.2	16.2	6.9
職業別	農林漁業	91	37.4	49.5	31.9	29.7	17.6	31.9	41.8	2.2	12.1	1.1
	商工業、サービス業、自由業など	211	37.4	56.4	37.0	23.7	17.5	25.6	37.4	3.8	4.3	5.2
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	41.8	58.2	36.9	28.3	19.6	26.6	36.1	3.6	7.6	0.9
	主婦・主夫	357	38.7	53.5	38.9	31.9	22.7	26.1	40.9	1.7	11.5	4.8
	無職	299	32.1	49.8	24.1	31.1	21.7	31.1	40.8	2.3	15.1	3.3
圏域別	高松圏域	810	37.8	54.7	34.0	28.9	21.6	27.5	37.0	3.0	10.1	2.8
	東讃圏域	138	39.1	52.2	38.4	29.0	17.4	26.8	41.3	2.9	12.3	5.1
	小豆圏域	57	42.1	50.9	36.8	26.3	19.3	26.3	33.3	5.3	5.3	3.5
	中讃圏域	419	39.6	53.7	36.3	32.2	19.3	28.4	40.3	2.9	9.3	1.7
	西讃圏域	215	36.3	56.3	28.4	22.8	20.5	22.8	39.5	2.3	10.7	4.7
居住年数別	3年未満	84	41.7	61.9	44.0	35.7	32.1	26.2	41.7	2.4	7.1	1.2
	3年以上～10年未満	187	41.7	57.2	42.2	23.0	17.6	26.7	36.4	3.2	6.4	-
	10年以上～20年未満	243	40.3	53.9	40.3	31.3	20.6	28.0	36.2	3.7	8.2	1.2
	20年以上	1,083	37.3	53.8	31.1	29.1	19.9	27.3	39.2	2.6	10.8	3.8

**(8)男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきか**

問10 あなたは、男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1	法律や制度の面で見直しを行う	26.1%
2	女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する	36.5%
3	企業や地域社会の女性のリーダーを養成する	34.7%
4	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う	30.3%
5	女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	37.6%
6	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	58.3%
7	学校や社会教育、生涯学習の場で男女平等と相互理解や協力についての学習を充実する	24.9%
8	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの施設を整備・充実する	20.8%
9	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	9.3%
10	行政自身が率先して男女共同参画の取り組みを行う	29.7%
11	その他（具体的に： )	2.7%
12	わからない	7.7%
	(無回答)	3.5%

男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきかについて、「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(58.3%)が最も多く、次いで「女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する」(37.6%)、「女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する」(36.5%)、「企業や地域社会の女性のリーダーを養成する」(34.7%)などとなっている。

図表 2-(8)-1 男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきか

		回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 法律や制度の面で見直しを行う	26.1	427 人
(2) 女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する	36.5	599 人
(3) 企業や地域社会の女性のリーダーを養成する	34.7	568 人
(4) 職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う	30.3	496 人
(5) 女性の就労の機会を増やしたり、従来女性が就労していなかった分野への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	37.6	617 人
(6) 保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	58.3	955 人
(7) 学校や社会教育、生涯学習の場で男女平等と相互理解や協力についての学習を充実する	24.9	408 人
(8) 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの施設を整備・充実する	20.8	341 人
(9) 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	9.3	152 人
(10) 行政自身が率先して男女共同参画の取組みを行う	29.7	487 人
(11) その他	2.7	44 人
(12) わからない	7.7	126 人
無回答	3.5	57 人

グラフ単位：(%)

男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきかについて、

性別にみると、『女性』において「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(62.3%)と回答した人の割合は『男性』(53.5%)に比べ8.8ポイント上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』において「企業や地域社会の女性のリーダーを育成する」(42.9%)と回答した人の割合は『20～29歳』(25.5%)、『40～49歳』(27.9%)に比べ15ポイント以上、「行政自身が率先して男女共同参画の取組みを行う」(37.2%)と回答した人の割合は『40～49歳』(22.1%)に比べ15.1ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(63.0%)と回答した人の割合は『農林漁業』(50.5%)に比べ12.5ポイント上回っている。『農林漁業』において「行政自身が率先して男女共同参画の取組みを行う」(37.4%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(26.5%)に比べ10.9ポイント上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「法律や制度の面で見直しを行う」(28.2%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(14.0%)に比べ14.2ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの施設を整備・充実する」(25.0%)と回答した人の割合は『3年以上～10年未満』(14.4%)に比べ10.6ポイント、「各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する」(16.7%)と回答した人の割合は『3年以上10年未満』(8.0%)、『20年以上』(8.8%)に比べ7ポイント以上上回っている。

図表 2-(8)-2 男女共同参画社会を形成していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきか

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	法律や制度の面で見直しを行う	女性を政策・方針決定の場に積極的に登用する	企業や地域社会の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な待遇の確保について周知徹底を行う	女性の就労の機会を増やしたり、従来の女性が就労していなかった分野への女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	学校や社会教育、生涯学習の場で男女平等と相互理解や協力についての学習を充実する	男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの施設を整備・充実する	各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する	行政自身が率先して男女共同参画の取組みを行う	その他	わからない	無回答
単位: 比率(%)															
全体		1,639	26.1	36.5	34.7	30.3	37.6	58.3	24.9	20.8	9.3	29.7	2.7	7.7	3.5
性別	男性	712	28.7	37.4	35.8	28.8	37.4	53.5	25.1	23.5	8.6	32.2	3.5	6.2	2.0
	女性	886	24.0	36.5	34.4	31.0	38.3	62.3	24.9	18.8	9.9	28.4	1.9	8.8	4.2
年齢別	20～29歳	98	30.6	31.6	25.5	32.7	41.8	54.1	18.4	14.3	8.2	23.5	3.1	6.1	-
	30～39歳	171	30.4	32.7	31.6	31.6	32.7	63.2	28.1	16.4	9.9	24.6	4.1	7.0	2.3
	40～49歳	240	24.6	33.8	27.9	27.5	33.8	58.8	26.7	13.8	8.3	22.1	3.3	6.7	0.8
	50～59歳	254	27.2	34.3	34.3	33.1	40.2	61.4	26.8	22.8	9.4	28.7	3.9	5.1	1.2
	60～69歳	417	24.2	43.2	42.9	35.0	39.1	59.7	27.6	26.4	11.0	37.2	1.9	5.8	2.9
	70歳以上	419	25.1	37.0	35.8	24.1	38.9	54.2	20.8	22.2	8.4	32.2	1.4	11.9	7.2
職業別	農林漁業	91	20.9	41.8	39.6	30.8	33.0	50.5	24.2	27.5	8.8	37.4	1.1	9.9	1.1
	商工業、サービス業、自由業など	211	25.6	35.1	30.3	29.4	37.0	63.0	24.6	22.3	12.3	26.5	1.4	4.7	4.3
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	27.8	34.0	33.5	31.2	38.0	60.3	25.2	17.7	7.4	29.3	3.6	5.7	1.4
	主婦・主夫	357	21.8	37.8	35.0	31.9	38.7	60.2	23.8	21.0	9.8	28.9	0.8	9.8	5.0
	無職	299	29.1	41.1	41.1	26.4	38.8	52.8	26.8	24.7	11.0	33.1	3.7	10.0	4.3
圏域別	高松圏域	810	27.7	36.4	34.9	30.2	37.5	60.6	24.8	21.7	11.4	29.4	2.6	8.0	3.0
	東讃圏域	138	23.9	39.9	36.2	31.9	36.2	55.1	26.8	20.3	7.2	23.9	1.4	6.5	7.2
	小豆圏域	57	14.0	33.3	26.3	31.6	33.3	52.6	22.8	28.1	10.5	33.3	3.5	10.5	7.0
	中讃圏域	419	28.2	35.6	34.8	31.5	41.5	56.3	26.0	18.9	7.4	31.7	2.9	6.4	2.1
	西讃圏域	215	20.5	37.7	34.4	26.5	32.6	56.7	22.3	19.5	6.0	29.8	3.3	8.8	4.7
居住年数別	3年未満	84	36.9	41.7	32.1	38.1	33.3	56.0	25.0	25.0	16.7	22.6	1.2	11.9	1.2
	3年以上～10年未満	187	27.3	34.8	32.1	26.7	37.4	62.0	20.3	14.4	8.0	25.7	5.3	7.0	-
	10年以上～20年未満	243	26.3	35.8	35.4	31.7	37.4	59.7	25.9	18.9	10.7	28.0	3.3	7.4	2.5
	20年以上	1,083	24.8	36.9	35.9	29.7	38.3	57.9	25.6	22.3	8.8	31.9	1.9	7.5	4.0



### 3. 消費生活について

#### (1) 消費者問題に関心があるか

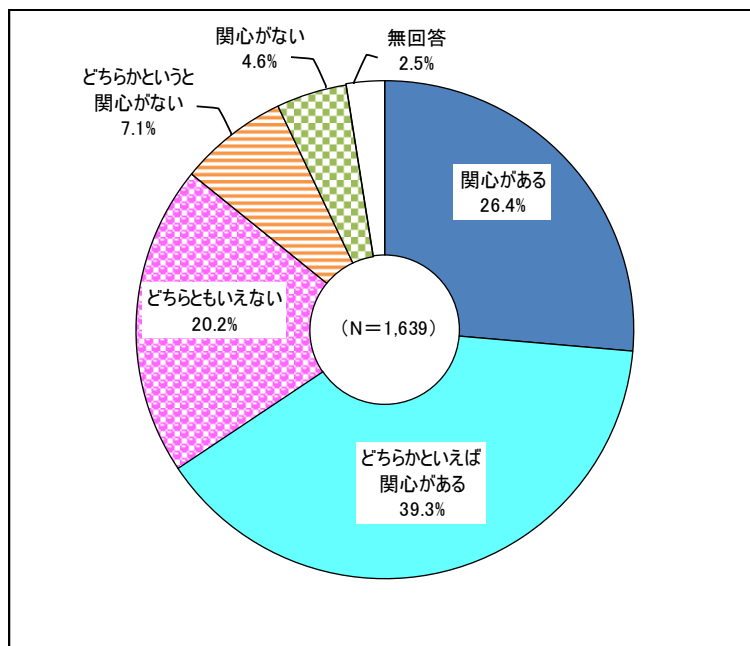
問11 消費者問題に関心がありますか。次に中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1 関心がある	⇒ 付問4にお進みください	26.4%
2 どちらかといえば関心がある	⇒ 付問4にお進みください	39.3%
3 どちらともいえない		20.2%
4 どちらかというに関心がない		7.1%
5 関心がない		4.6%
(無回答)		2.5%

消費者問題に関心があるかについて、「どちらかといえば関心がある」(39.3%)が最も多く、次いで「関心がある」(26.4%)、「どちらともいえない」(20.2%)、「どちらかというに関心がない」(7.1%)などとなっている。

図表 3-(1)-1 消費者問題に関心があるか



消費者問題に関心があるかについて、

性別にみると、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は男女ともに6割を超える結果となっている。

年齢別にみると、『60～69歳』において「関心がある」(31.9%)と「どちらかといえば関心がある」(39.1%)を合わせた割合は71.0%と『20～29歳』(50.0%)に比べ21.0ポイント上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「関心がある」(31.9%)と「どちらかといえば関心がある」(41.2%)を合わせた割合は73.1%と『会社、商店、官公庁などに勤務』(60.9%)に比べ12.2ポイント上回っている。

圏域別にみると、全ての地域別において「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合は6割を超える結果となっている。

居住年数別にみると、『20年以上』において「関心がある」(27.5%)と「どちらかといえば関心がある」(40.2%)を合わせた割合は67.7%と『3年未満』(59.5%)に比べ8.2ポイント上回っている。



(2) 関心がある消費者問題

【問11で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問4 関心がある消費者問題はなんですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。【回答者数=1,076】

1	食品の安全性	85.4%
2	製品事故	35.8%
3	悪質商法	60.3%
4	詐欺	48.0%
5	資源・エネルギー	41.1%
6	環境	45.4%
7	金融	25.4%
8	多重債務	8.9%
9	その他（具体的に： )	0.8%
	(無回答)	0.5%

関心がある消費者問題について、「食品の安全性」(85.4%)が最も多く、次いで「悪質商法」(60.3%)、「詐欺」(48.0%)などとなっている。

図表 3-(2)-1 関心がある消費者問題

		回答数
全体	100.0	1,076 人
(1) 食品の安全性	85.4	919 人
(2) 製品事故	35.8	385 人
(3) 悪質商法	60.3	649 人
(4) 詐欺	48.0	517 人
(5) 資源・エネルギー	41.1	442 人
(6) 環境	45.4	488 人
(7) 金融	25.4	273 人
(8) 多重債務	8.9	96 人
(9) その他	0.8	9 人
無回答	0.5	5 人

グラフ単位：(%)

関心がある消費者問題について、

性別にみると、男女ともに「食品の安全性」が7割を超え最も高く、特に『女性』（90.3%）は9割を占める結果となっている。

年齢別にみると、『30～39歳』において「悪質商法」（62.5%）と回答した人の割合は『20～29歳』（36.7%）に比べ25.8ポイント、「詐欺」（60.4%）と回答した人の割合は『20～29歳』（36.7%）に比べ23.7ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「詐欺」（52.2%）と回答した人の割合は『農林漁業』（38.7%）に比べ13.5ポイント、「金融」（31.9%）と回答した人の割合は『農林漁業』（19.4%）に比べ12.5ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「製品事故」（44.0%）と回答した人の割合は『小豆圏域』（30.6%）、『中讃圏域』（32.3%）に比べ11ポイント以上上回っている。『小豆圏域』において「悪質商法」（75.0%）と回答した人の割合は『高松圏域』（59.2%）、『東讃圏域』（57.1%）に比べ15ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「資源・エネルギー」（52.0%）と回答した人の割合は『3年以上～10年未満』（40.7%）、『20年以上』（40.4%）に比べ11ポイント以上、「多重債務」（18.0%）と回答した人の割合は『10年以上20年未満』（7.7%）、『20年以上』（8.3%）に比べ9ポイント以上上回っている。

図表 3-(2)-2 関心がある消費者問題

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
		回答者数 (人)	食品の 安全性	製品 事故	悪質 商法	詐欺	資源・ エネルギー	環境	金融	多重 債務	その他	無 回答
単位: 比率(%)												
全体		1,076	85.4	35.8	60.3	48.0	41.1	45.4	25.4	8.9	0.8	0.5
性別	男性	467	79.9	37.0	62.7	51.4	43.3	42.6	28.7	10.9	0.6	1.1
	女性	587	90.3	35.1	58.4	45.8	40.4	47.9	22.8	7.3	0.9	-
年齢別	20～29歳	49	73.5	36.7	36.7	36.7	36.7	36.7	30.6	12.2	-	2.0
	30～39歳	96	78.1	29.2	62.5	60.4	45.8	45.8	26.0	14.6	-	-
	40～49歳	148	85.1	41.9	54.7	58.1	45.9	50.7	34.5	10.8	0.7	0.7
	50～59歳	173	78.0	27.2	60.1	48.0	48.6	53.2	27.2	11.0	1.2	0.6
	60～69歳	296	90.9	39.9	61.1	44.9	43.9	52.4	27.0	5.4	0.7	0.3
	70歳以上	293	89.8	35.8	65.9	44.7	32.4	33.1	17.4	7.8	1.0	0.3
職業別	農林漁業	62	85.5	35.5	66.1	38.7	35.5	45.2	19.4	3.2	3.2	-
	商工業、サービス業、 自由業など	138	83.3	34.8	58.7	52.2	47.1	47.8	31.9	11.6	-	0.7
	会社、商店、官公庁 などに勤務	385	81.0	30.9	54.8	48.6	44.2	47.5	29.1	9.6	0.5	0.3
	主婦・主夫	261	93.5	38.3	65.1	46.0	40.2	45.6	21.1	7.3	0.8	-
	無職	203	85.7	42.9	64.0	51.2	37.4	41.4	22.2	8.9	1.0	1.5
圏域別	高松圏域	554	85.2	35.6	59.2	48.2	40.8	44.9	25.3	9.7	1.1	0.5
	東讃圏域	84	85.7	44.0	57.1	47.6	48.8	46.4	19.0	9.5	-	-
	小豆圏域	36	83.3	30.6	75.0	55.6	33.3	33.3	19.4	13.9	-	-
	中讃圏域	257	84.4	32.3	60.3	45.9	41.2	47.1	27.2	8.2	1.2	0.8
	西讃圏域	145	88.3	39.3	62.8	49.7	39.3	46.2	27.6	5.5	-	-
居住年数別	3年未満	50	86.0	40.0	64.0	58.0	52.0	48.0	34.0	18.0	-	-
	3年以上～10年未満	113	80.5	31.0	50.4	49.6	40.7	48.7	30.1	10.6	0.9	-
	10年以上～20年未満	155	89.0	36.8	63.2	52.3	45.8	51.0	29.0	7.7	0.6	0.6
	20年以上	733	85.7	36.0	61.4	46.7	40.4	44.1	23.5	8.3	0.8	0.5

(3) 消費者トラブルにあった際の相談先

問12 消費者トラブルにあった際の相談先はどこですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1	商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など	39.8%
2	商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口	54.2%
3	家族・知人・同僚など身近な人	33.1%
4	県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口	46.6%
5	警察	24.5%
6	弁護士や司法書士	7.6%
7	国民生活センター	31.1%
8	消費者団体	12.5%
9	その他（具体的に： )	0.7%
10	相談しない ⇒ 付問5にお進みください (無回答)	2.7% 5.7%

消費者トラブルにあった際の相談先について、「商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口」(54.2%)が最も多く、次いで「県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口」(46.6%)、「商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など」(39.8%)などとなっている。

図表 3-(3)-1 消費者トラブルにあった際の相談先

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など	39.8	653 人
(2) 商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口	54.2	888 人
(3) 家族・知人・同僚など身近な人	33.1	543 人
(4) 県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口	46.6	764 人
(5) 警察	24.5	401 人
(6) 弁護士や司法書士	7.6	125 人
(7) 国民生活センター	31.1	510 人
(8) 消費者団体	12.5	205 人
(9) その他	0.7	12 人
(10) 相談しない	2.7	44 人
無回答	5.7	94 人

グラフ単位：(%)

消費者トラブルにあった際の相談先について、

性別にみると、『女性』において「家族・知人・同僚など身近な人」（38.0%）と回答した人の割合は『男性』（27.9%）に比べ10.1ポイント上回っている。

年齢別にみると、『20～29歳』において「商品・サービスの提供元のメーカーのお客さま相談窓口」（67.3%）と回答した人の割合は『70歳以上』（41.1%）に比べ26.2ポイント上回っている。『70歳以上』において「県や市町の消費生活センターの行政機関の相談窓口」（53.7%）と回答した人の割合は『20～29歳』（30.6%）に比べ23.1ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など」（44.6%）と回答した人の割合は『無職』（32.1%）に比べ12.5ポイント、「商品・サービスの提供元のメーカーのお客さま相談窓口」（58.9%）と回答した人の割合は『農林漁業』（45.1%）に比べ13.8ポイント上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「商品・サービスの提供元のメーカーのお客さま相談窓口」（58.5%）と回答した人の割合は『東讃圏域』（47.1%）に比べ11.4ポイント、「家族・知人・同僚など身近な人」（36.3%）と回答した人の割合は『小豆圏域』（24.6%）に比べ11.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「弁護士や司法書士」（13.1%）と回答した人の割合は『20年以上』（6.6%）に比べ6.5ポイント上回っている。『20年以上』において「消費者団体」（13.9%）と回答した人の割合は『3年未満』（4.8%）に比べ9.1ポイント上回っている。



図表 3-(3)-2 消費者トラブルにあった際の相談先

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)		
		回答者数(人)	商品・サービスの勧誘や販売を行う販売店や代理店など	商品・サービスの提供元のメーカーのお客様相談窓口	家族・知人・同僚など身近な人	県や市町の消費生活センター等の行政機関の相談窓口	警察	弁護士や司法書士	国民生活センター	消費者団体	その他	相談しない	無回答
単位: 比率(%)													
全体		1,639	39.8	54.2	33.1	46.6	24.5	7.6	31.1	12.5	0.7	2.7	5.7
性別	男性	712	41.2	56.0	27.9	45.9	27.1	8.8	31.9	13.5	1.1	2.5	4.5
	女性	886	39.3	53.3	38.0	47.9	22.8	6.8	30.9	12.0	0.3	2.7	6.1
年齢別	20～29歳	98	43.9	67.3	38.8	30.6	27.6	10.2	17.3	12.2	-	2.0	5.1
	30～39歳	171	45.0	55.6	45.6	39.8	30.4	8.8	28.1	3.5	1.2	2.9	4.7
	40～49歳	240	50.0	65.8	40.0	40.8	25.0	10.0	31.7	11.3	0.8	0.4	4.2
	50～59歳	254	47.2	59.4	36.6	43.3	26.8	12.2	30.7	10.6	0.8	2.0	3.9
	60～69歳	417	39.6	55.2	29.0	53.2	20.9	6.7	34.5	14.6	0.7	1.9	5.3
	70歳以上	419	27.4	41.1	26.3	53.7	23.9	3.6	32.9	16.7	0.5	5.0	7.4
職業別	農林漁業	91	40.7	45.1	28.6	46.2	23.1	4.4	23.1	11.0	-	1.1	9.9
	商工業、サービス業、自由業など	211	42.7	56.9	29.9	46.4	28.0	10.9	34.1	12.3	0.9	4.7	5.7
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	44.6	58.9	35.8	41.3	26.4	9.2	30.9	9.8	1.1	1.1	4.6
	主婦・主夫	357	37.0	53.8	38.1	53.8	19.0	6.2	31.4	14.0	-	3.6	7.0
	無職	299	32.1	48.5	27.1	51.8	25.4	4.7	33.1	17.1	0.7	3.7	4.0
圏域別	高松圏域	810	40.0	54.1	32.5	49.3	22.5	8.1	32.1	14.1	0.6	2.7	5.3
	東讃圏域	138	36.2	47.1	31.9	45.7	30.4	6.5	29.0	12.3	-	3.6	8.7
	小豆圏域	57	43.9	52.6	24.6	42.1	24.6	1.8	33.3	12.3	-	-	8.8
	中讃圏域	419	42.5	58.5	36.3	42.0	25.8	9.1	30.5	10.0	1.2	2.4	4.1
	西讃圏域	215	35.3	51.2	32.6	47.4	25.6	5.1	29.3	11.6	0.9	3.3	7.9
居住年数別	3年未満	84	48.8	64.3	41.7	41.7	26.2	13.1	27.4	4.8	-	4.8	1.2
	3年以上～10年未満	187	45.5	57.2	34.8	40.6	23.5	11.2	29.9	10.7	1.6	2.7	5.3
	10年以上～20年未満	243	39.9	63.4	37.9	41.2	25.1	8.2	32.1	11.9	1.6	1.6	6.2
	20年以上	1,083	38.3	51.2	31.7	50.0	24.6	6.6	31.8	13.9	0.4	2.7	5.6

(4) 相談しなかった理由

【問12で「10」と答えた方にお聞きします】

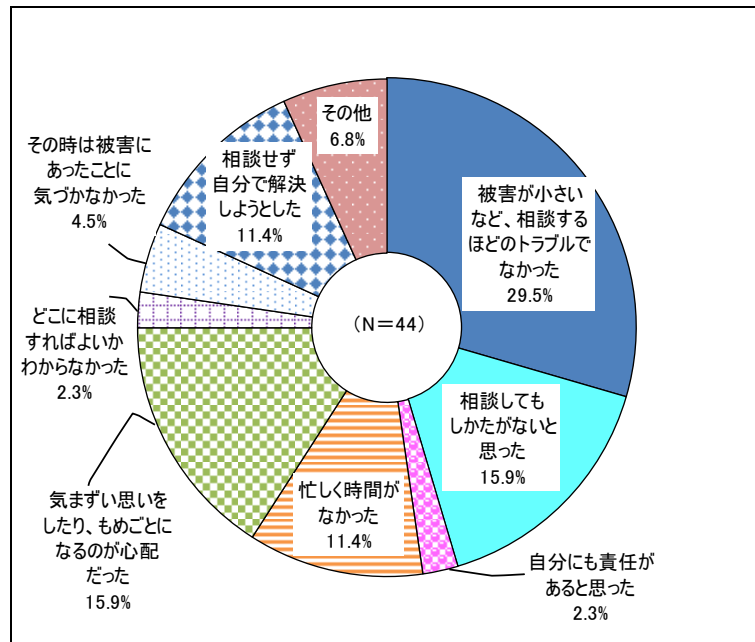
付問5 相談しなかった理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=44】

1	被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった	29.5%
2	相談してもしかたがないと思った	15.9%
3	自分にも責任があると思った	2.3%
4	忙しく時間がなかった	11.4%
5	気まずい思いをしたり、もめごとになるのが心配だった	15.9%
6	恥ずかしいので、誰にも言えなかった	0.0%
7	どこに相談すればよいかわからなかった	2.3%
8	その時は被害にあったことに気づけなかった	4.5%
9	相談せず自分で解決しようとした	11.4%
10	その他（具体的に： （無回答）	6.8% 0.0%

相談しなかった理由について、「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」（29.5%）が最も多く、次いで「相談してもしかたがないと思った」「気まずい思いをしたり、もめごとになるのが心配だった」（ともに15.9%）、「忙しく時間がなかった」「相談せず自分で解決しようとした」（ともに11.4%）などとなっている。

図表 3-(4)-1 相談しなかった理由

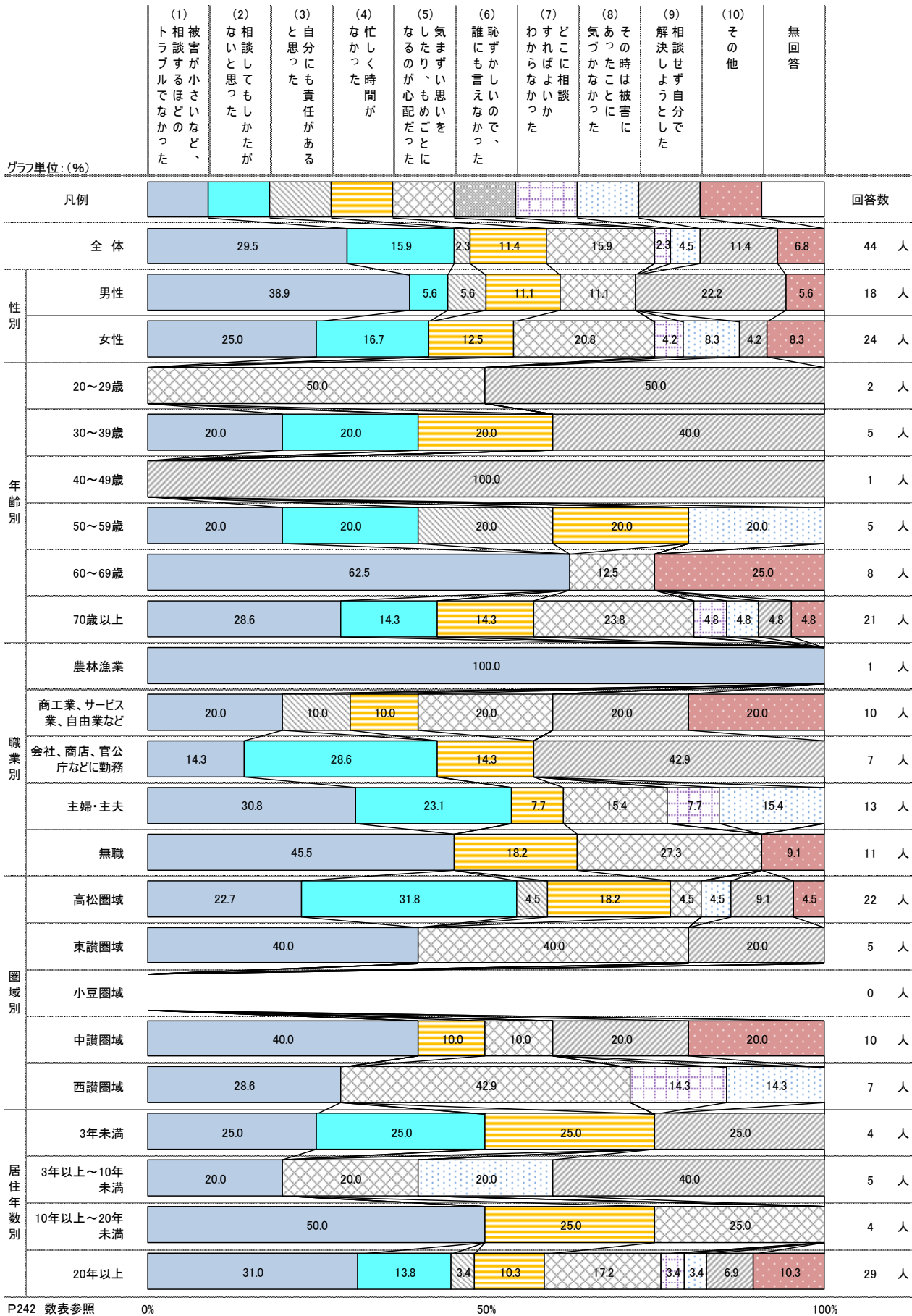


相談しなかった理由について、

性別にみると、『男性』において「被害が小さいなど、相談するほどのトラブルでなかった」(38.9%)と回答した人の割合は『女性』(25.0%)に比べ13.9ポイント、「相談せずとも自分で解決しようとした」(22.2%)と回答した人の割合は『女性』(4.2%)に比べ18.0ポイント上回っている。『女性』において「相談してもしかたがないと思った」(16.7%)と回答した人の割合は『男性』(5.6%)に比べ11.1ポイント、「気まずい思いをしたり、もめごとになるのが心配だった」(20.8%)と回答した人の割合は『男性』(11.1%)に比べ9.7ポイント上回っている。

年齢別、職業別、圏域別、居住年数別にみると、問12で「10」と回答した人が少なかったため、大きな差はみられない。

図表 3-(4)-2 相談しなかった理由



P242 数表参照

0%

50%

100%

(5) 消費者教育を受けた経験の有無

問13 消費者教育(学校の授業、各種講座や出前講座等)を受けた経験がありますか。

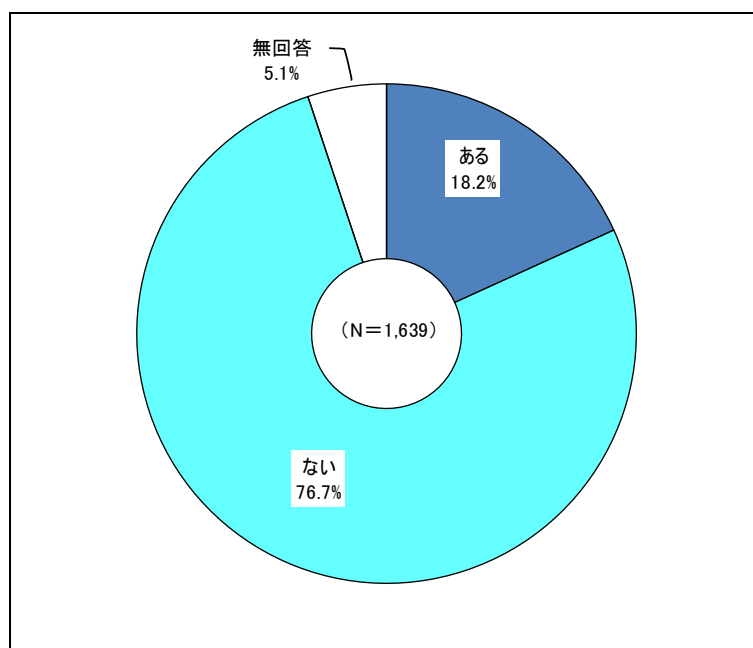
次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	ある	18.2%
2	ない	76.7%
	(無回答)	5.1%

消費者教育を受けた経験の有無について、「ある」(18.2%)、「ない」(76.7%)となっている。

図表 3-(5)-1 消費者教育を受けた経験の有無



消費者教育を受けた経験の有無について、

性別にみると、『女性』において「ある」(20.4%)と回答した人の割合は『男性』(15.9%)に比べ4.5ポイント上回っている。

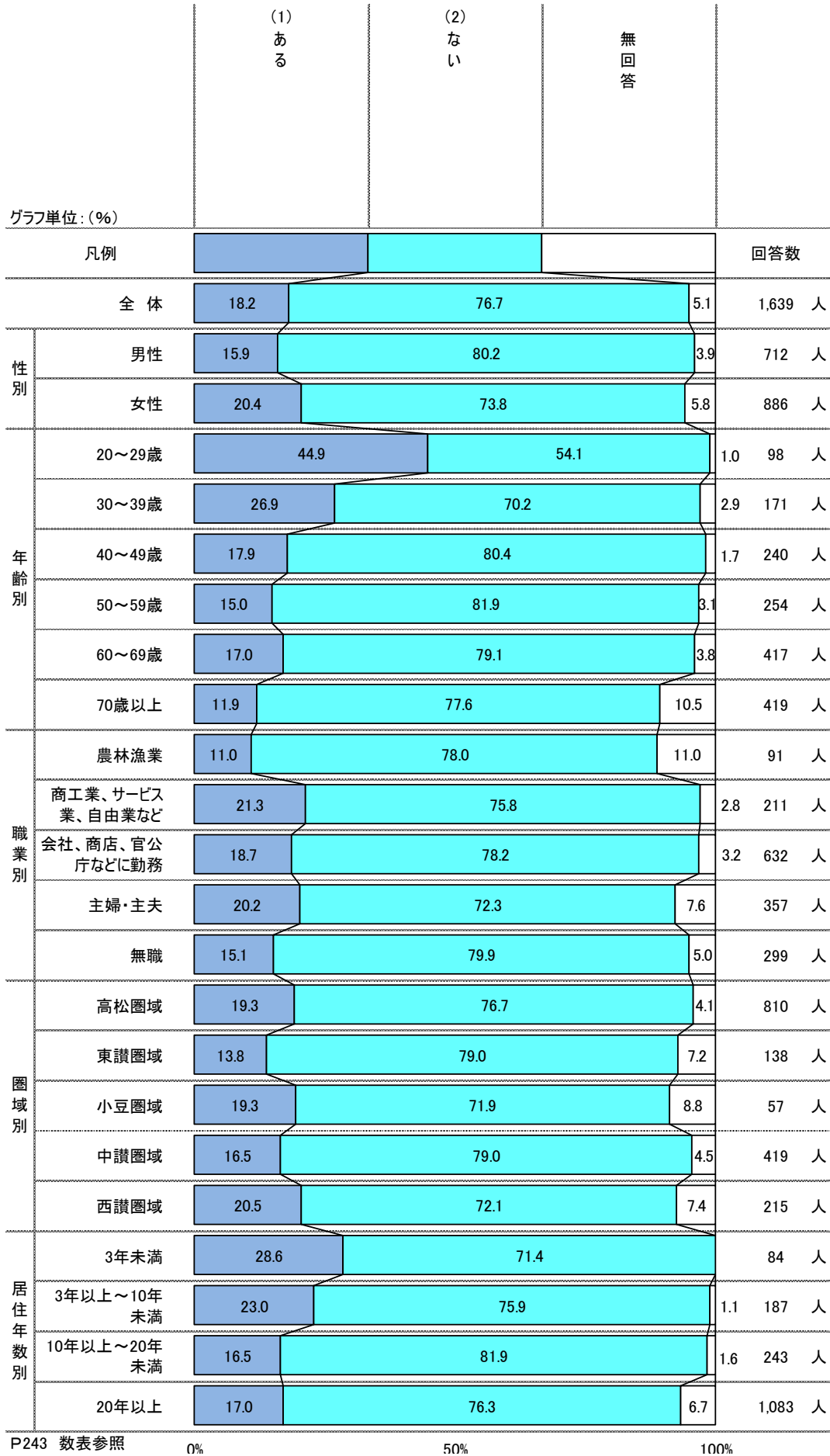
年齢別にみると、『20～29歳』において「ある」(44.9%)と回答した人の割合は『70歳以上』(11.9%)に比べ33.0ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「ある」(21.3%)と回答した人の割合は『農林漁業』(11.0%)に比べ10.3ポイント上回っている。

圏域別にみると、『西讃圏域』において「ある」(20.5%)と回答した人の割合は『東讃圏域』(13.8%)に比べ6.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「ある」(28.6%)と回答した人の割合は『10年以上～20年未満』(16.5%)に比べ12.1ポイント上回っている。

図表 3-(5)-2 消費者教育を受けた経験の有無



(6)どのような消費者教育を受けたか

【問13で「1」と答えた方にお聞きします】

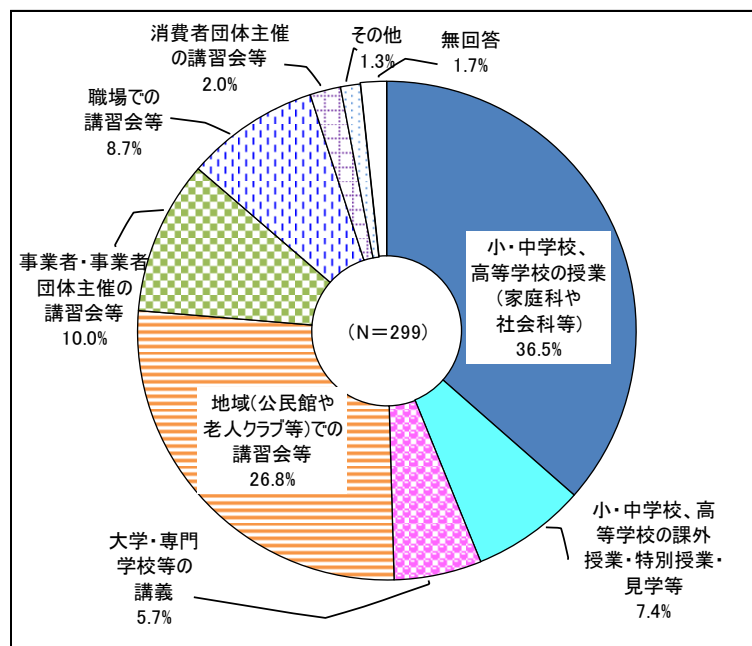
付問6 あなたは、どのような消費者教育を受けましたか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=299】

1	小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)	36.5%
2	小・中学校、高等学校の課外授業・特別授業・見学等	7.4%
3	大学・専門学校等の講義	5.7%
4	地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等	26.8%
5	事業者・事業者団体主催の講習会等	10.0%
6	職場での講習会等	8.7%
7	消費者団体主催の講習会等	2.0%
8	その他(具体的に： )	1.3%
	(無回答)	1.7%

どのような消費者教育を受けたかについて、「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」(36.5%)が最も多く、次いで「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」(26.8%)、「事業者・事業者団体主催の講習会等」(10.0%)、「職場での講習会等」(8.7%)などとなっている。

図表 3-(6)-1 どのような消費者教育を受けたか





どのような消費者教育を受けたかについて、

性別にみると、『男性』において「事業者・事業者団体主催の講習会等」(16.8%)と回答した人の割合は『女性』(6.1%)に比べ10.7ポイント上回っている。『女性』において「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」(31.5%)と回答した人の割合は『男性』(16.8%)に比べ14.7ポイント上回っている。

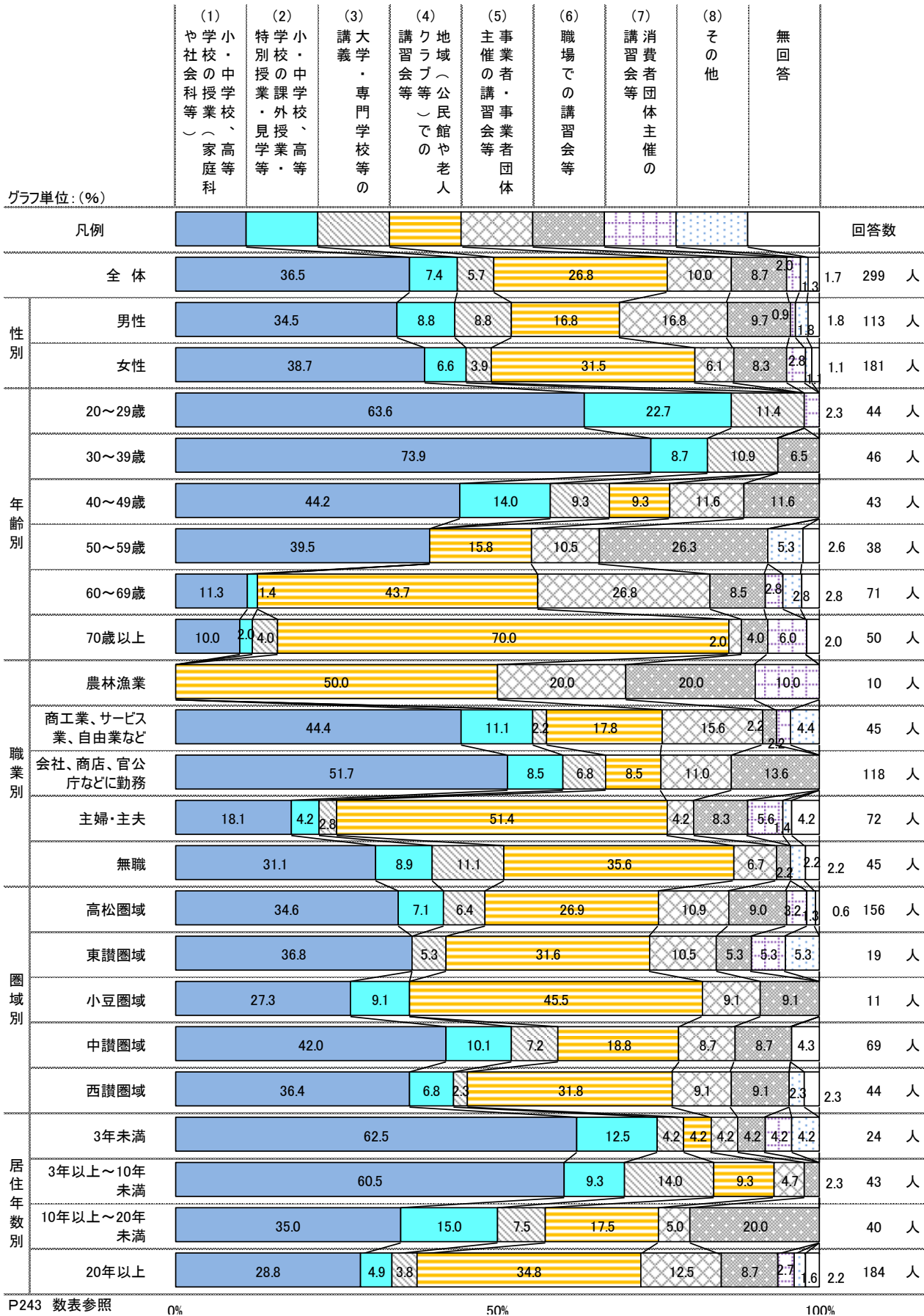
年齢別にみると、『30～39歳』において「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」(73.9%)と回答した人の割合は『60～69歳』(11.3%)、『70歳以上』(10.0%)に比べ62ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」(51.4%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(17.8%)、『会社、商店、官公庁などに勤務』(8.5%)に比べ33ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「小・中学校、高等学校の授業(家庭科や社会科等)」(42.0%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(27.3%)に比べ14.7ポイント上回っている。『小豆圏域』において「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」(45.5%)と回答した人の割合は『中讃圏域』(18.8%)に比べ26.7ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「大学・専門学校等の講義」(14.0%)と回答した人の割合は他の居住年数別に比べ6ポイント以上上回っている。『20年以上』において「地域(公民館や老人クラブ等)での講習会等」(34.8%)と回答した人の割合は他の居住年数別に比べ17ポイント以上上回っている。

図表 3-(6)-2 どのような消費者教育を受けたか



## 4. 食品廃棄物について

### (1) 食品ロスという言葉の認知度

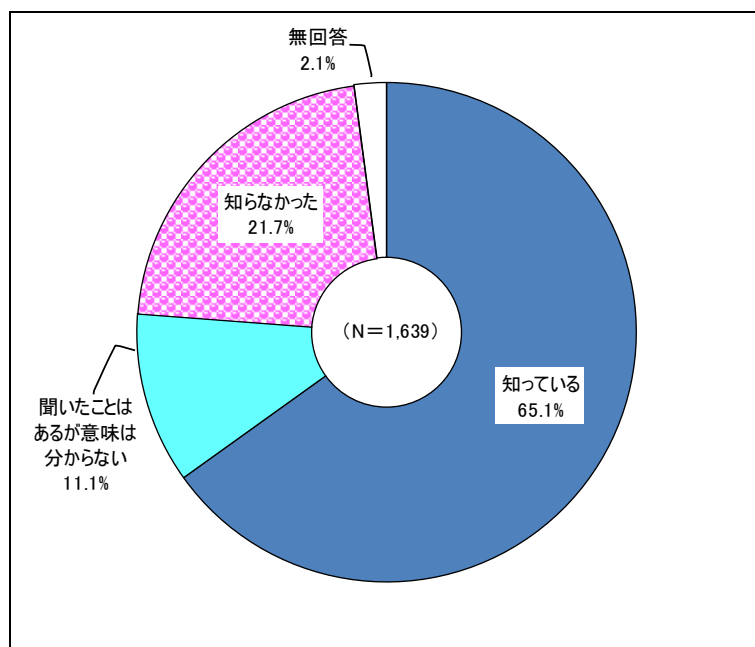
問14 食品ロスという言葉を知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1 知っている	65.1%
2 聞いたことはあるが意味は分からない	11.1%
3 知らなかった	21.7%
(無回答)	2.1%

食品ロスという言葉の認知度について、「知っている」(65.1%)が最も多く、次いで「知らなかった」(21.7%)、「聞いたことはあるが意味は分からない」(11.1%)などとなっている。

図表 4-(1)-1 食品ロスという言葉の認知度



食品ロスという言葉の認知度について、

性別にみると、「知っている」と回答した人の割合は男性（69.8%）、女性（62.1%）ともに6割を超えているが、男性の方が7.7ポイント上回っている。

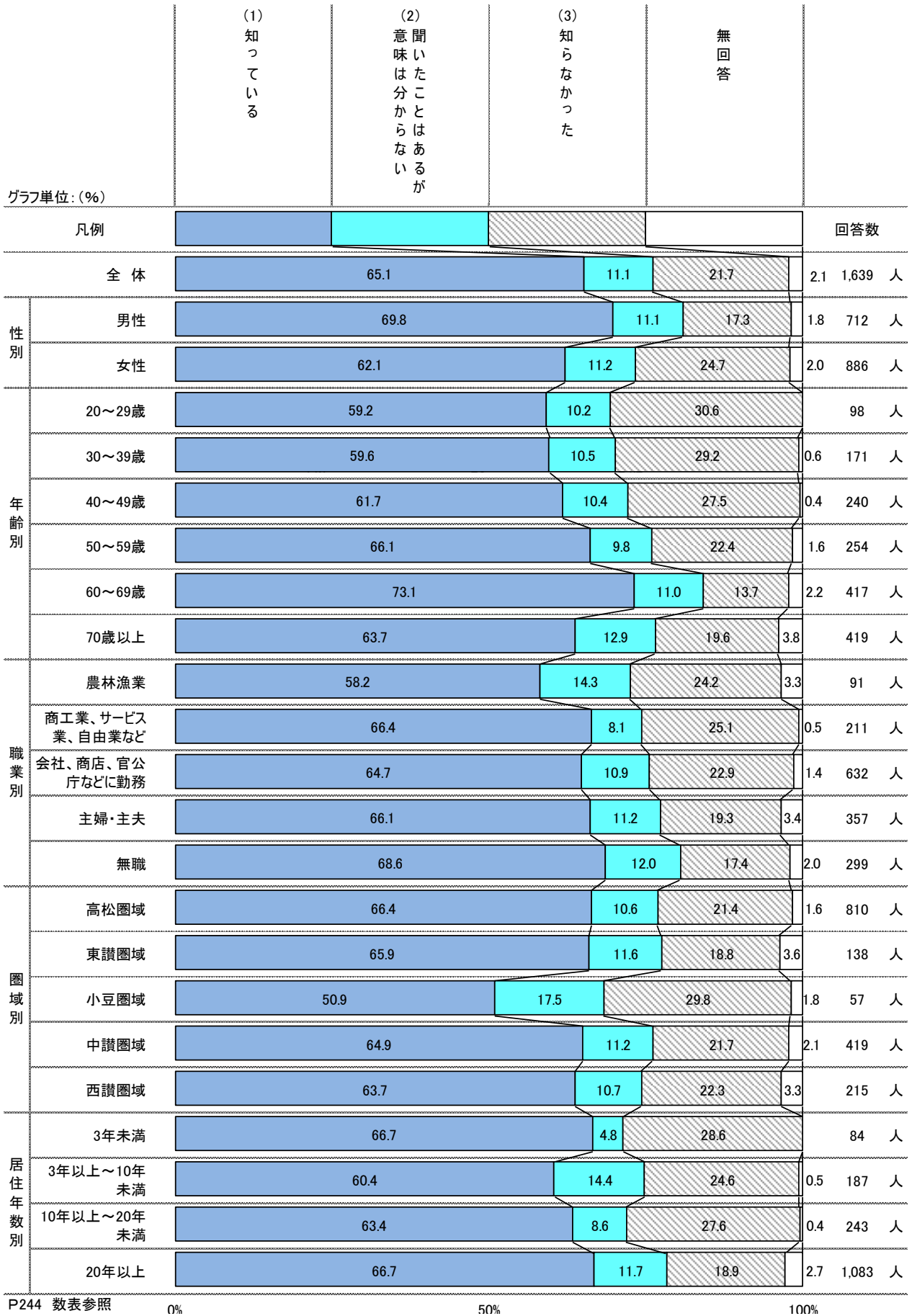
年齢別にみると、「知っている」と回答した人の割合は『70歳以上』を除いて年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『60～69歳』（73.1%）が最も高くなっている。

職業別にみると、『無職』において「知っている」（68.6%）と回答した人の割合が最も高く、「知らなかった」（17.4%）と回答した人の割合も最も低くなっている。

圏域別にみると、「知っている」と回答した人の割合は『小豆圏域』（50.9%）が、他の圏域（63.7%～66.4%）に比べて12ポイント以上下回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「聞いたことはあるが意味は分からない」（14.4%）と回答した人の割合は『3年未満』（4.8%）、『10年以上～20年未満』（8.6%）に比べ5ポイント以上上回っている。

図表 4-(1)-2 食品ロスという言葉の認知度



(2) 家庭から出される食品ロスであなたがよく出してしまうもの

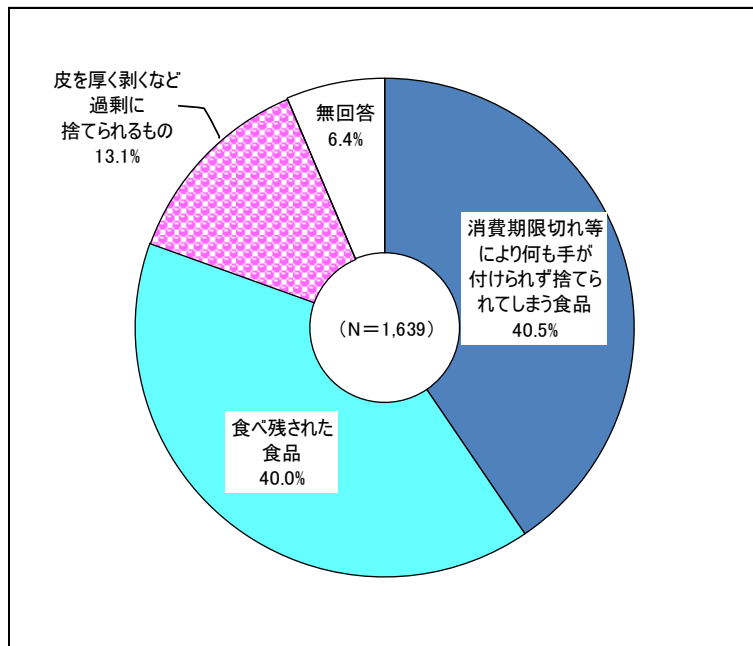
問15 家庭から出される食品ロスには、「消費期限切れ等により何も手が付けられず捨てられてしまう食品」、「食べ残された食品」、「皮を厚く剥くなど過剰に捨てられるもの」の3種類がありますが、あなたがよく出してしまうものは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1 消費期限切れ等により何も手が付けられず捨てられてしまう食品	40.5%
2 食べ残された食品	40.0%
3 皮を厚く剥くなど過剰に捨てられるもの	13.1%
(無回答)	6.4%

家庭から出される食品ロスでよく出してしまうものについて、「消費期限切れ等により何も手が付けられず捨てられてしまう食品」(40.5%)が最も多く、次いで「食べ残された食品」(40.0%)、「皮を厚く剥くなど過剰に捨てられるもの」(13.1%)、などとなっている。

図表 4-(2)-1 家庭から出される食品ロスであなたがよく出してしまうもの



家庭から出される食品ロスでよく出してしまうものについて、性別にみると、『男性』において「食べ残された食品」(44.8%)と回答した人の割合は『女性』(36.3%)に比べ8.5ポイント上回っている。『女性』において「皮を厚く剥くなど過剰に捨てられるもの」(15.3%)と回答した人の割合は『男性』(10.5%)に比べ4.8ポイント上回っている。

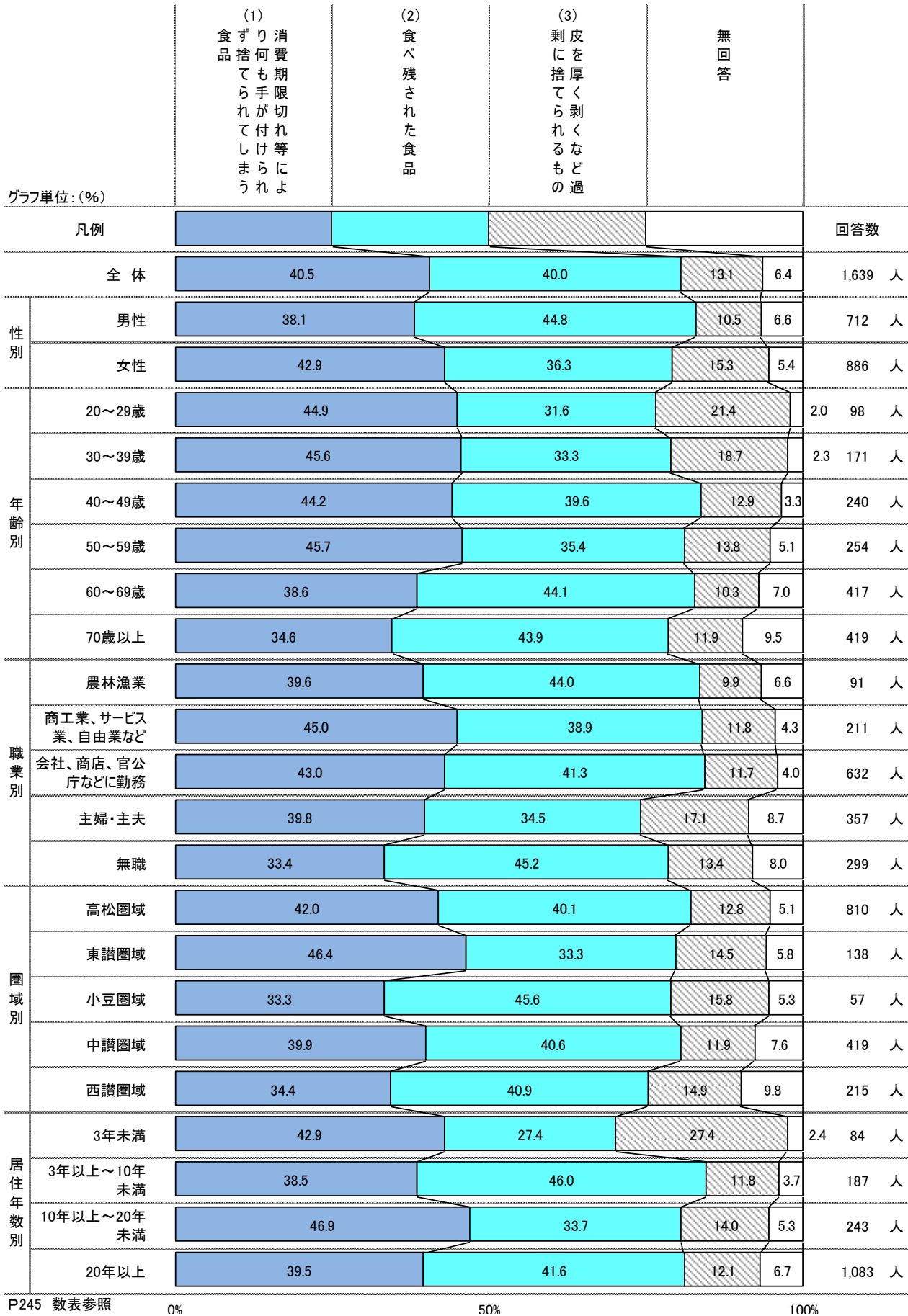
年齢別にみると、「食べ残された食品」と回答した人の割合は、最も割合の高い『60～69歳』(44.1%)が、最も割合の低い『20～29歳』(31.6%)に比べ12.5ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「消費期限切れ等により何も手が付けられず捨てられてしまう食品」(45.0%)と回答した人の割合は『無職』(33.4%)に比べ11.6ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「消費期限切れ等により何も手が付けられず捨てられてしまう食品」(46.4%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(33.3%)、『西讃圏域』(34.4%)に比べ12ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「食べ残された食品」(46.0%)と回答した人の割合は『3年未満』(27.4%)に比べ18.6ポイント上回っている。『3年未満』において「皮を厚く剥くなど過剰に捨てられるもの」(27.4%)と回答した人の割合は他の居住年数別に比べ13ポイント以上上回っている。

図表 4-(2)-2 家庭から出される食品ロスであなたがよく出してしまうもの





(3) 食品ロス削減の取組みについての考え

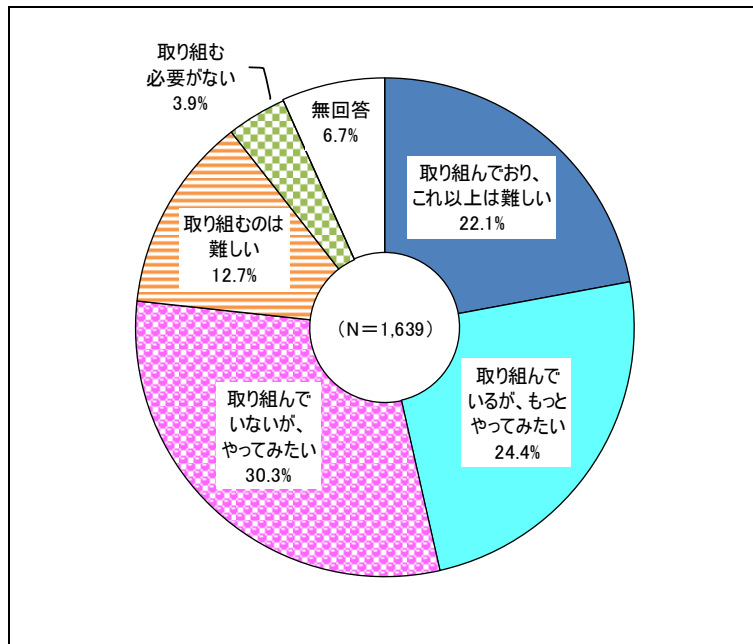
問16 食品ロス削減の取組みについてどう考えますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	取り組んでおり、これ以上は難しい	⇒ 付問7にお進みください	22.1%
2	取り組んでいるが、もっとやってみたい	⇒ 付問7、8にお進みください	24.4%
3	取り組んでいないが、やってみたい	⇒ 付問8にお進みください	30.3%
4	取り組むのは難しい	⇒ 付問9にお進みください	12.7%
5	取り組む必要がない	⇒ 付問10にお進みください	3.9%
	(無回答)		6.7%

食品ロス削減の取組みについての考えについては、「取り組んでいないが、やってみたい」(30.3%)が最も多く、次いで「取り組んでいるが、もっとやってみたい」(24.4%)、「取り組んでおり、これ以上は難しい」(22.1%)、「取り組むのは難しい」(12.7%)などとなっている。

図表 4-(3)-1 食品ロス削減の取組みについての考え



食品ロス削減の取組みについての考えについて、

性別にみると、『女性』において「取り組んでおり、これ以上は難しい」(22.6%)、「取り組んでいるが、もっとやってみたい」(27.9%)と回答した人の割合は『男性』(21.9%、20.2%)に比べ若干上回っている。

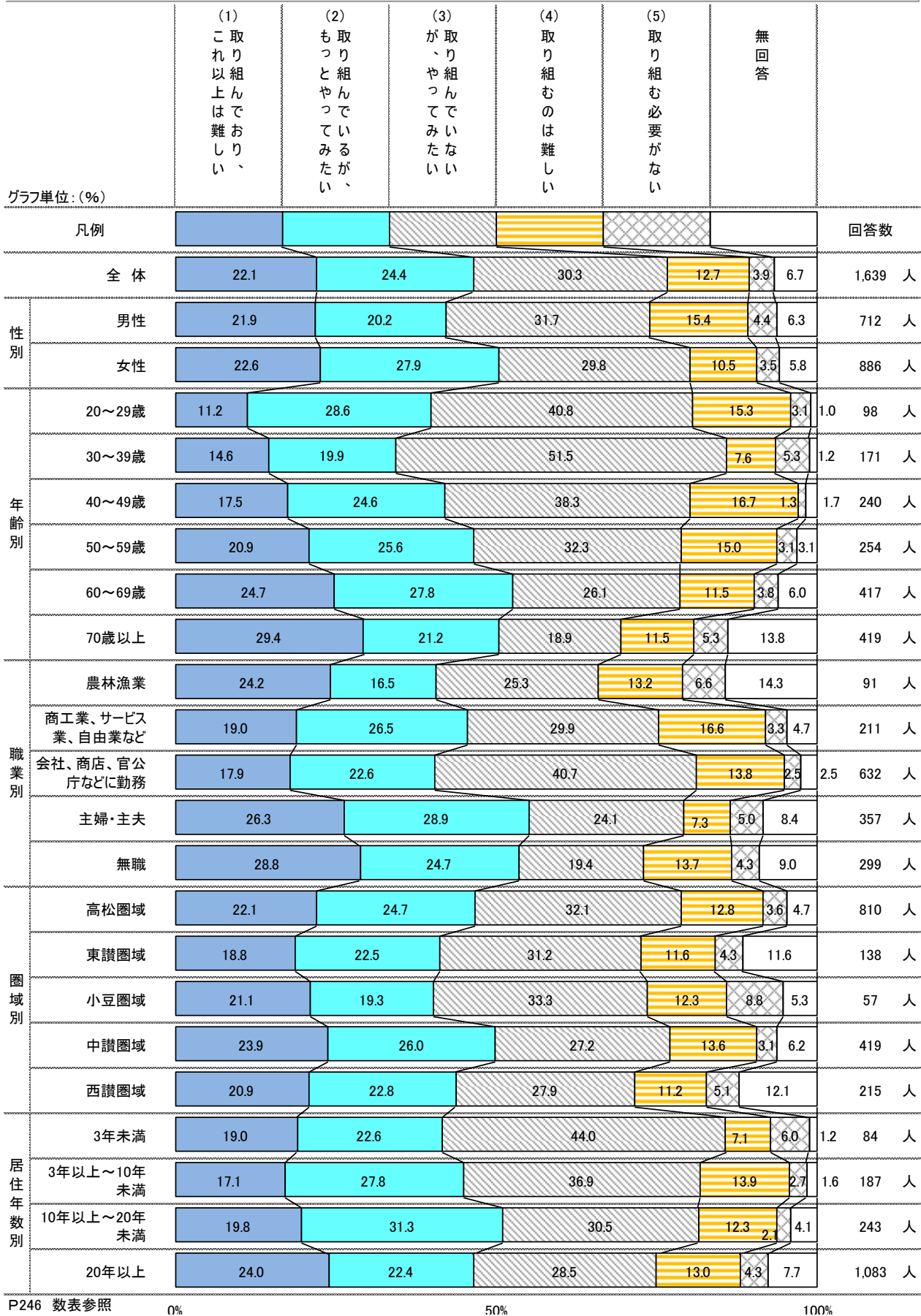
年齢別にみると、既に取り組みを行っている方々である「取り組んでおり、これ以上は難しい」、「取り組んでいるが、もっとやってみたい」と回答した人の割合の合計は、『60～69歳』(52.5%)が最も高く、最も低い『30～39歳』(34.5%)に比べて18ポイント上回っている。また、“やってみたい”と意欲的な回答をされている方々である「取り組んでいるが、もっとやってみたい」、「取り組んでいないがやってみたい」と回答した人の割合の合計は、『30～39歳』(71.4%)が最も高く、最も低い『70歳以上』(40.1%)に比べて31.3ポイント上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』・『無職』において、既に取り組みを行っている方々である「取り組んでおり、これ以上は難しい」、「取り組んでいるが、もっとやってみたい」と回答した人の割合の合計はそれぞれ55.2%、53.5%となっており、他の職業(40.5%～45.5%)に比べて8ポイント以上上回っている。また、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「取り組んでいないが、やってみたい」(40.7%)と回答した人の割合は他の職業別に比べ10ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、『10年以上～20年未満』において「取り組んでいるが、もっとやってみたい」(31.3%)と回答した人の割合は『3年未満』(22.6%)、『20年以上』(22.4%)に比べ8ポイント以上上回っている。『3年未満』において「取り組んでいないが、やってみたい」(44.0%)と回答した人の割合は『10年以上～20年未満』(30.5%)、『20年以上』(28.5%)に比べ13ポイント以上上回っている。

図表 4-(3)-2 食品ロス削減の取組みについての考え



#### (4) 外食時の食べ残しの有無

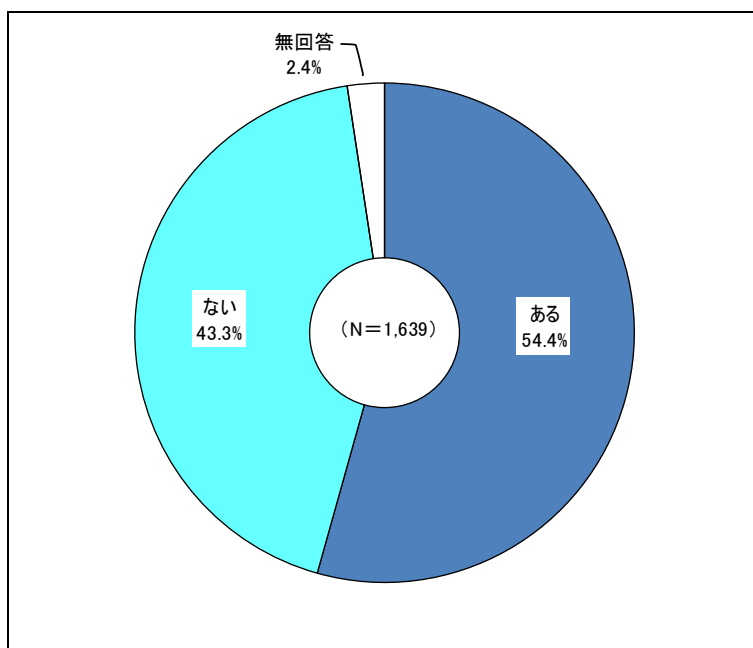
問17 外食時に食べ残したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	ある	⇒付問11にお進みください	54.4%
2	ない		43.3%
	(無回答)		2.4%

外食時の食べ残しの有無について、「ある」(54.4%)が過半数を占めるものの、「ない」(43.3%)も4割を超えている。

図表 4-(4)-1 外食時の食べ残しの有無



外食時の食べ残しの有無について、

性別にみると、『女性』において「ある」(61.4%)と回答した人の割合は、『男性』(45.9%)に比べて15.5ポイント上回っている。

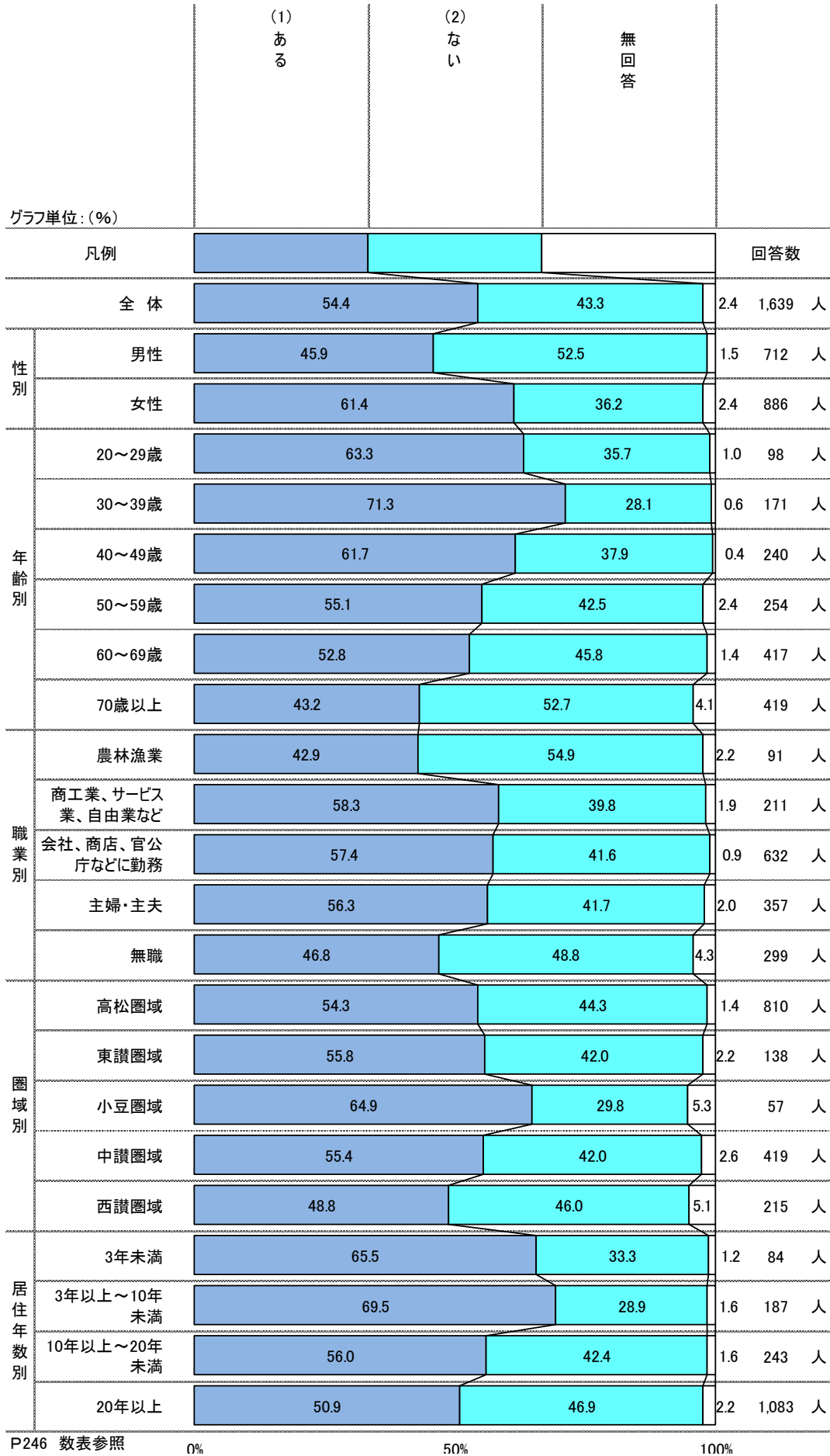
年齢別にみると、食べ残しの経験は『20～29歳』を除いて年代が上がるほど低くなる傾向となっており、『70歳以上』において「ある」(43.2%)と回答した人の割合は『30～39歳』(71.3%)に比べ28.1ポイント下回っている。

職業別にみると、『農林漁業』において「ない」(54.9%)と回答した人の割合は『商工業、サービス業、自由業など』(39.8%)、『会社、商店、官公庁などに勤務』(41.6%)、『主婦・主夫』(41.7%)に比べ13ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「ある」(64.9%)と回答した人の割合は、他の圏域(48.8%～55.8%)に比べ、9ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』において「ある」と回答した人の割合は、6割を超えている。

図表 4-(4)-2 外食時の食べ残しの有無



(5) 外食時に食べ残した理由

【問17で「1」と答えた方にお聞きします】

付問11 外食時に食べ残した理由はなんですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=891】

1	ボリュームが多くて、食べ切れなかった	76.8%
2	食べられないものが含まれていた(苦手な食材やアレルギー)	26.2%
3	飽きた	1.5%
4	味が好みでなかった	31.3%
5	その他(具体的に： (無回答)	4.6% 1.0%

外食時に食べ残した理由について、「ボリュームが多くて、食べ切れなかった」(76.8%)が最も多く、次いで「味が好みでなかった」(31.3%)、「食べられないものが含まれていた(苦手な食材やアレルギー)」(26.2%)などとなっている。

図表 4-(5)-1 外食時に食べ残した理由

	回答数
全体	1000 891 人
(1) ボリュームが多くて、食べ切れなかった	76.8 684 人
(2) 食べられないものが含まれていた(苦手な食材やアレルギー)	26.2 233 人
(3) 飽きた	1.5 13 人
(4) 味が好みでなかった	31.3 279 人
(5) その他	4.6 41 人
無回答	1.0 9 人

グラフ単位：(%)

外食時に食べ残した理由について、

性別にみると、『女性』において「ボリュームが多くて、食べ切れなかった」(82.4%)と回答した人の割合は『男性』(68.2%)に比べ14.2ポイント上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において「食べられないものが含まれていた(苦手な食材やアレルギー)」(33.6%)と回答した人の割合は『70歳以上』(16.0%)に比べ17.6ポイント上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「味が好みでなかった」(38.2%)と回答した人の割合は『農林漁業』(28.2%)、『会社、商店、官公庁などに勤務』(26.7%)に比べ10ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「味が好みでなかった」(43.2%)と回答した人の割合は『高松圏域』(28.2%)に比べ15ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「食べられないものが含まれていた(苦手な食材やアレルギー)」(32.3%)と回答した人の割合は『3年未満』(23.6%)、『20年以上』(24.1%)に比べ8ポイント以上上回っている。



図表 4-(5)-2 外食時に食べ残した理由

			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	
		回答者数 (人)	ボリュームが多くて、 食べ切れなかった	食べられないものが 含まれていた(苦手な 食材やアレ)	飽きた	味が好みでなかった	その他	無回答
		単位: 比率(%)						
全体		891	76.8	26.2	1.5	31.3	4.6	1.0
性別	男性	327	68.2	25.4	2.8	34.6	6.4	1.8
	女性	544	82.4	26.8	0.6	29.8	3.7	0.2
年齢別	20～29歳	62	82.3	30.6	4.8	25.8	8.1	-
	30～39歳	122	82.0	33.6	1.6	25.4	4.9	-
	40～49歳	148	79.7	22.3	1.4	31.1	6.8	0.7
	50～59歳	140	77.1	29.3	1.4	32.9	4.3	0.7
	60～69歳	220	70.0	29.5	1.4	39.1	5.5	0.5
	70歳以上	181	79.6	16.0	-	27.1	1.1	2.2
職業別	農林漁業	39	64.1	30.8	-	28.2	2.6	-
	商工業、サービス業、 自由業など	123	78.0	26.0	1.6	38.2	3.3	-
	会社、商店、官公庁 などに勤務	363	79.1	27.0	1.4	26.7	5.5	0.6
	主婦・主夫	201	79.6	25.4	1.5	36.8	6.0	-
	無職	140	72.1	23.6	1.4	32.9	2.9	2.1
圏域別	高松圏域	440	78.4	28.9	1.6	28.2	5.0	0.9
	東讃圏域	77	80.5	18.2	1.3	35.1	2.6	1.3
	小豆圏域	37	67.6	29.7	2.7	43.2	-	2.7
	中讃圏域	232	74.1	22.4	0.9	32.3	5.2	1.3
	西讃圏域	105	76.2	27.6	1.9	35.2	4.8	-
居住年数別	3年未満	55	81.8	23.6	1.8	23.6	3.6	-
	3年以上～10年未満	130	83.1	32.3	1.5	31.5	7.7	0.8
	10年以上～20年未満	136	77.9	29.4	2.2	30.1	5.9	-
	20年以上	551	75.0	24.1	1.1	32.7	3.6	1.1

(6) 外食時の食べ残しを減らす取組みについて、効果があると思われるもの

問18 外食時の食べ残しを減らす取組みについて、効果があると思われるものはどれですか。次の中からあてはまるもの3つ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	同じメニューでもボリュームが選べるようにする(ハーフサイズ等)	76.6%
2	食べ残したものを持ち帰ることができる	66.7%
3	食べ残した場合は追加料金を徴収する仕組みがある	9.8%
4	こまめに注文する(注文しすぎない)	52.7%
5	宴会時、席に着いて食べる時間を設ける	18.5%
6	メニューに使用している食材の記載がある	18.1%
7	その他(具体的に：)	2.9%
	(無回答)	5.1%

外食時の食べ残しを減らす取組みで、効果があると思われるものについて、「同じメニューでもボリュームが選べるようにする(ハーフサイズ等)」(76.6%)が最も多く、次いで「食べ残したものを持ち帰ることができる」(66.7%)、「こまめに注文する(注文しすぎない)」(52.7%)、「宴会時、席に着いて食べる時間を設ける」(18.5%)などとなっている。

図表 4-(6)-1 外食時の食べ残しを減らす取組みについて、効果があると思われるもの

		回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 同じメニューでもボリュームが選べるようにする(ハーフサイズ等)	76.6	1,255 人
(2) 食べ残したものを持ち帰ることができる	66.7	1,094 人
(3) 食べ残した場合は追加料金を徴収する仕組みがある	9.8	161 人
(4) こまめに注文する(注文しすぎない)	52.7	863 人
(5) 宴会時、席に着いて食べる時間を設ける	18.5	304 人
(6) メニューに使用している食材の記載がある	18.1	296 人
(7) その他	2.9	48 人
無回答	5.1	84 人

グラフ単位：(%)

外食時の食べ残しを減らす取組みで、効果があると思われるものについて、

性別にみると、『女性』において「同じメニューでもボリュームが選べるようにする（ハーフサイズ等）」（80.1%）、「食べ残したものを持ち帰ることができる」（67.4%）、「メニューに使用している食材の記載がある」（20.8%）と回答した人の割合は『男性』に比べ上回っている。

年齢別にみると、『40～49歳』において「食べ残した場合は追加料金を徴収する仕組みがある」（19.2%）と回答した人の割合は『50～59歳』（8.7%）、『60～69歳』（7.2%）、『70歳以上』（4.3%）に比べ10ポイント以上上回っている。

職業別にみると、大きな差は見られない。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「食べ残した場合は追加料金を徴収する仕組みがある」（2.2%）と回答した人の割合は、他の圏域（7.4%～11.4%）に比べて5ポイント以上下回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において「こまめに注文する（注文しすぎない）」（56.0%）と回答した人の割合は『3年未満』（36.9%）に比べ19.1ポイント上回っている。

図表 4-(6)-2 外食時の食べ残しを減らす取組みについて、効果があると思われるもの

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回答	
		回答者数(人)	同じメニューでもボリュームが選べるようにする (ハーフサイズ等)	食べ残したものを持ち帰ることができる	食べ残した場合は追加料金を徴収する仕組みがある	こまめに注文する(注文しすぎない)	宴会時、席に着いて食べる時間を設ける	メニューに使用している食材の記載がある	その他	
単位: 比率(%)										
全体		1,639	76.6	66.7	9.8	52.7	18.5	18.1	2.9	5.1
性別	男性	712	73.2	67.1	12.5	54.1	20.8	15.0	3.7	4.4
	女性	886	80.1	67.4	7.9	52.1	16.9	20.8	2.5	5.0
年齢別	20~29歳	98	85.7	80.6	18.4	46.9	14.3	27.6	4.1	1.0
	30~39歳	171	78.4	73.1	14.6	42.7	16.4	24.6	3.5	1.8
	40~49歳	240	77.1	74.2	19.2	48.3	19.6	19.2	3.8	2.1
	50~59歳	254	78.0	67.3	8.7	46.1	21.3	17.3	3.9	7.1
	60~69歳	417	80.6	67.4	7.2	60.2	20.4	17.5	2.9	3.6
	70歳以上	419	70.2	57.8	4.3	58.7	17.2	14.3	1.7	7.9
職業別	農林漁業	91	68.1	61.5	7.7	63.7	24.2	15.4	1.1	7.7
	商工業、サービス業、自由業など	211	78.2	63.5	14.7	53.6	19.9	14.7	2.4	3.8
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	79.0	72.3	12.2	49.5	19.1	19.8	3.5	3.0
	主婦・主夫	357	79.0	64.1	6.7	53.8	18.5	20.2	3.1	5.9
	無職	299	72.9	65.2	7.0	56.5	16.4	16.1	3.0	6.0
圏域別	高松圏域	810	78.1	64.8	11.4	50.9	19.0	19.1	3.0	4.4
	東讃圏域	138	78.3	68.1	2.2	57.2	18.1	13.8	2.9	5.8
	小豆圏域	57	75.4	68.4	8.8	49.1	24.6	24.6	-	1.8
	中讃圏域	419	75.2	68.0	10.7	54.7	17.9	18.1	3.1	4.1
	西讃圏域	215	72.6	70.2	7.4	53.5	16.7	14.9	3.3	10.2
居住年数別	3年未満	84	85.7	72.6	25.0	36.9	13.1	28.6	4.8	2.4
	3年以上~10年未満	187	77.0	71.7	10.7	47.1	15.5	20.9	3.7	3.2
	10年以上~20年未満	243	78.6	71.6	13.2	50.2	19.3	16.5	3.7	5.3
	20年以上	1,083	76.1	65.0	7.9	56.0	19.5	17.4	2.6	5.0

## 5. 高齢者の保健福祉について

### (1) 介護保険のあり方について、あなたの考えに最も近いもの

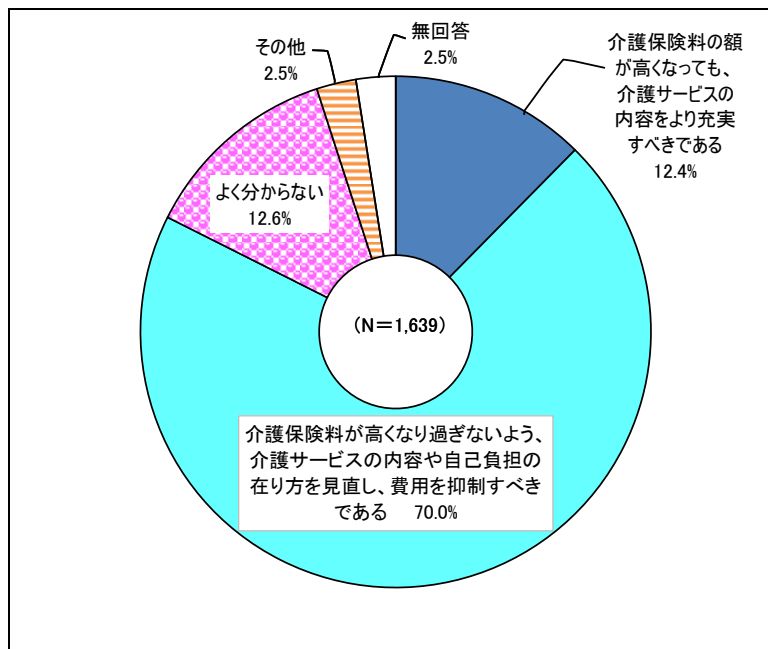
問19 介護サービスを利用する人が増えたり、1人あたりのサービス利用額が増えたりすると、各市町において、3年ごとに定める介護保険料の額は高くなる仕組みになっています。このことを踏まえたうえで、介護保険のあり方について、あなたの考え方に最も近いものを、次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

- |  |       |
|--|-------|
| 1 介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである                  | 12.4% |
| 2 介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである | 70.0% |
| 3 よく分からない  | 12.6% |
| 4 その他（具体的に： )  | 2.5%  |
| (無回答)  | 2.5%  |

介護保険のあり方について、あなたの考えに最も近いものについて、「介護保険料が高くなり過ぎないように、介護サービスの内容や自己負担の在り方を見直し、費用を抑制すべきである」(70.0%) が最も多く、次いで「よく分からない」(12.6%)、「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」(12.4%) などとなっている。

図表 5-(1)-1 介護保険のあり方について、あなたの考えに最も近いもの



介護保険のあり方について、あなたの考えに最も近いものについて、性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『20～29歳』において「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」(20.4%)と回答した人の割合は『60～69歳』(8.4%)、『70歳以上』(9.8%)に比べ10ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」(18.0%)と回答した人の割合は『農林漁業』(5.5%)、『主婦・主夫』(9.8%)、『無職』(9.0%)に比べ8ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」(15.0%)と回答した人の割合は『東讃圏域』(8.0%)、『小豆圏域』(8.8%)に比べ6ポイント以上上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において「介護保険料の額が高くなっても、介護サービスの内容をより充実すべきである」(19.3%)と回答した人の割合は『3年未満』(7.1%)に比べ12.2ポイント上回っている。

図表 5-(1)-2 介護保険のあり方について、あなたの考えに最も近いもの



(2) 将来の住まいと介護サービスの利用について、あなたの考えに最も近いもの

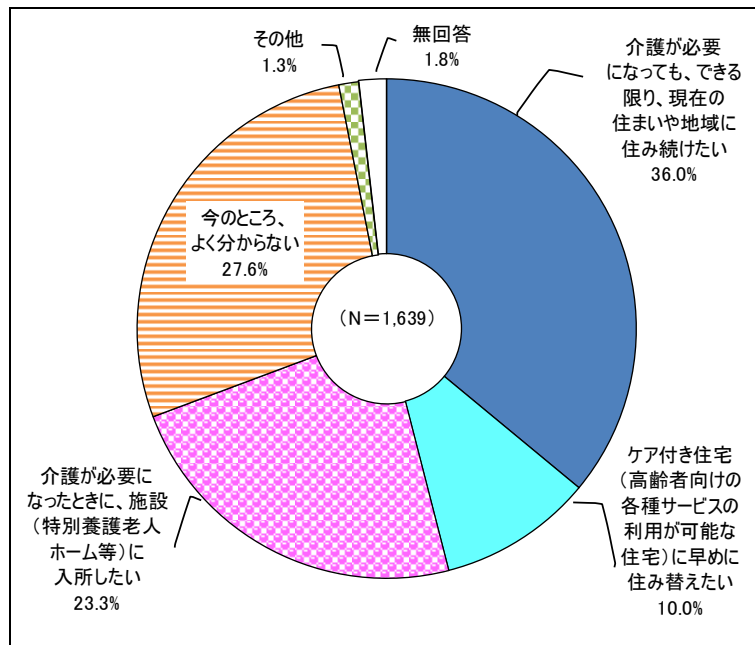
問20 将来の住まいと介護サービスの利用について、どのように考えていますか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

- |   |       |
|---|-------|
| 1 介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい       | 36.0% |
| 2 ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい | 10.0% |
| 3 介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい       | 23.3% |
| ⇒ 付問12にお進みください                            |       |
| 4 今のところ、よく分からない                           | 27.6% |
| 5 その他（具体的に：                               | 1.3%  |
| （無回答）                                     | 1.8%  |

将来の住まいと介護サービスの利用について、あなたの考えに最も近いものについて、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」（36.0%）が最も多く、次いで「今のところ、よく分からない」（27.6%）、「介護が必要になったときに、施設（特別養護老人ホーム等）に入所したい」（23.3%）、「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」（10.0%）などとなっている。

図表 5-(2)-1 将来の住まいと介護サービスの利用について、あなたの考えに最も近いもの





将来の住まいと介護サービスの利用について、あなたの考えに最も近いものについて、性別にみると、『男性』において「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」（39.2%）と回答した人の割合は『女性』（33.4%）に比べ5.8ポイント上回っている。

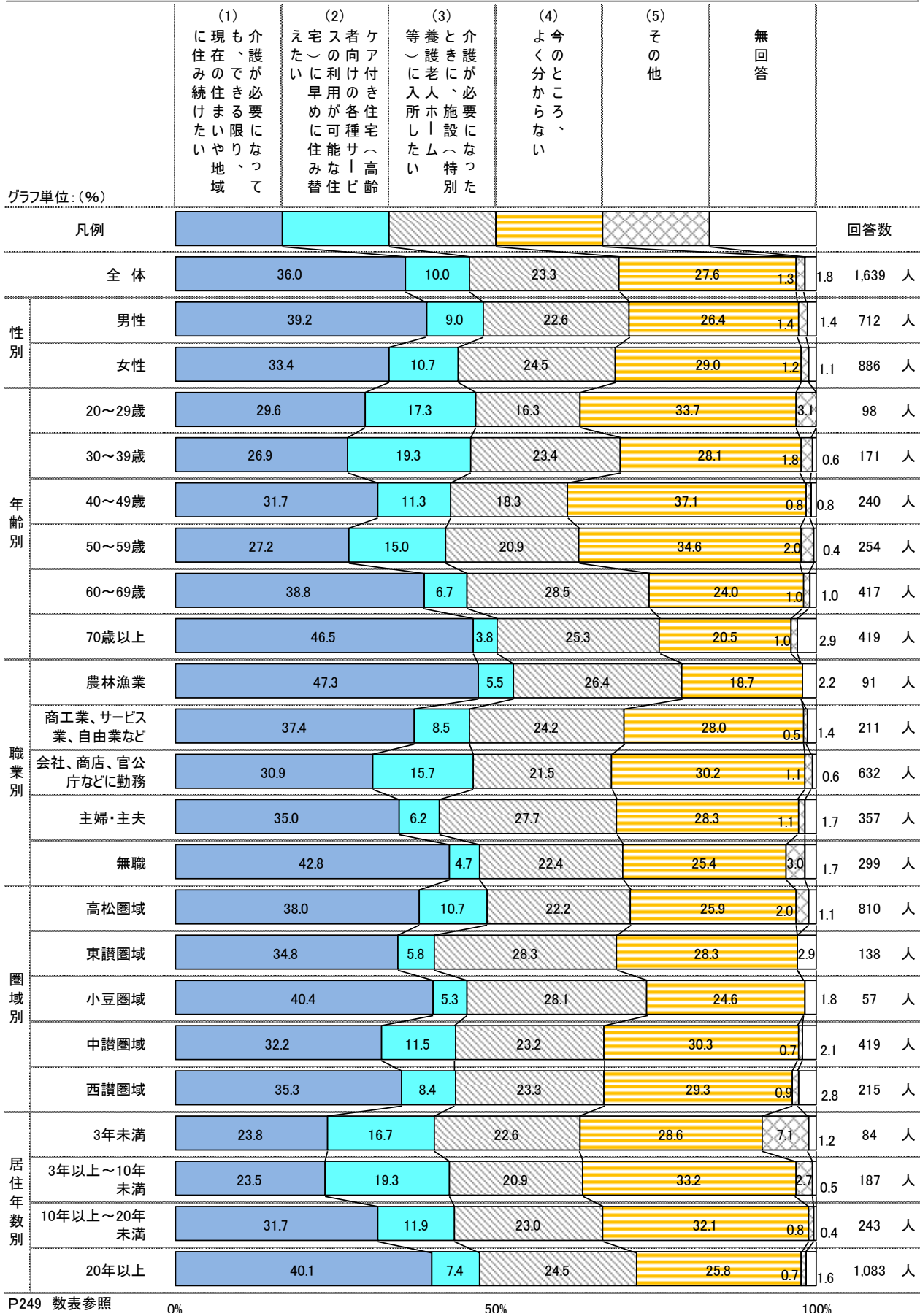
年齢別にみると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合は、『60～69歳』（38.8%）、『70歳以上』（46.5%）が若年層に比べて比較的高くなっている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「ケア付き住宅（高齢者向けの各種サービスの利用が可能な住宅）に早めに住み替えたい」（15.7%）と回答した人の割合は他の職業別に比べて7ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、大きな差はみられない。

居住年数別にみると、「介護が必要になっても、できる限り、現在の住まいや地域に住み続けたい」と回答した人の割合は、居住年数が長くなるほど高くなる傾向になっており、『20年以上』（40.1%）がもっとも高くなっている。

図表 5-(2)-2 将来の住まいと介護サービスの利用について、あなたの考えに最も近いもの



P249 数表参照

0% 50% 100%

(3) 施設入所を希望される理由

【問20で「3」と答えた方にお聞きします】

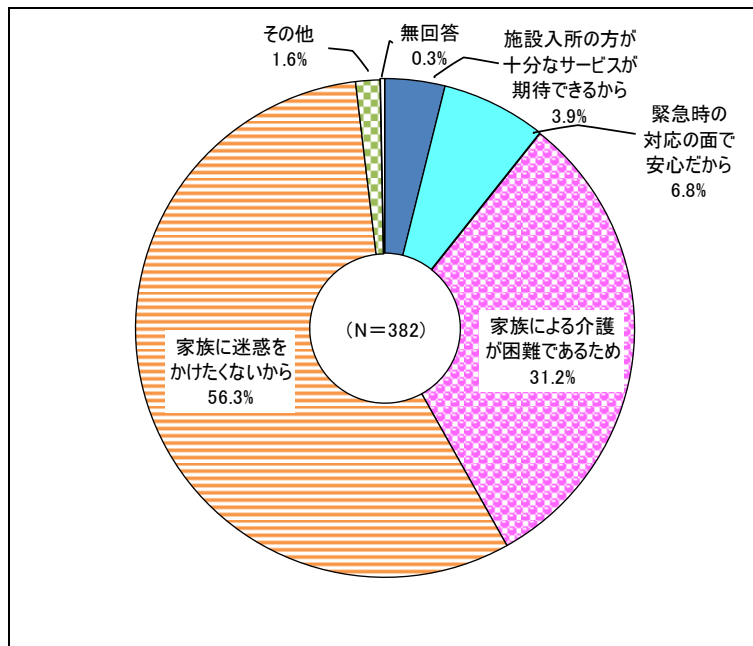
付問12 施設入所を希望される理由について教えてください。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=382】

1 施設入所の方が十分なサービスが期待できるから	3.9%
2 緊急時の対応の面で安心だから	6.8%
3 家族による介護が困難であるため	31.2%
4 家族に迷惑をかけたくないから	56.3%
5 その他（具体的に： （無回答）	1.6% 0.3%

施設入所を希望される理由について、「家族に迷惑をかけたくないから」(56.3%)が最も多く、次いで「家族による介護が困難であるため」(31.2%)、「緊急時の対応の面で安心だから」(6.8%)、「施設入所の方が十分なサービスが期待できるから」(3.9%)などとなっている。

図表 5-(3)-1 施設入所を希望される理由



施設入所を希望される理由について、

性別にみると、「家族に迷惑をかけたくないから」と回答した人の割合は男女ともに5割を超える結果となっている。

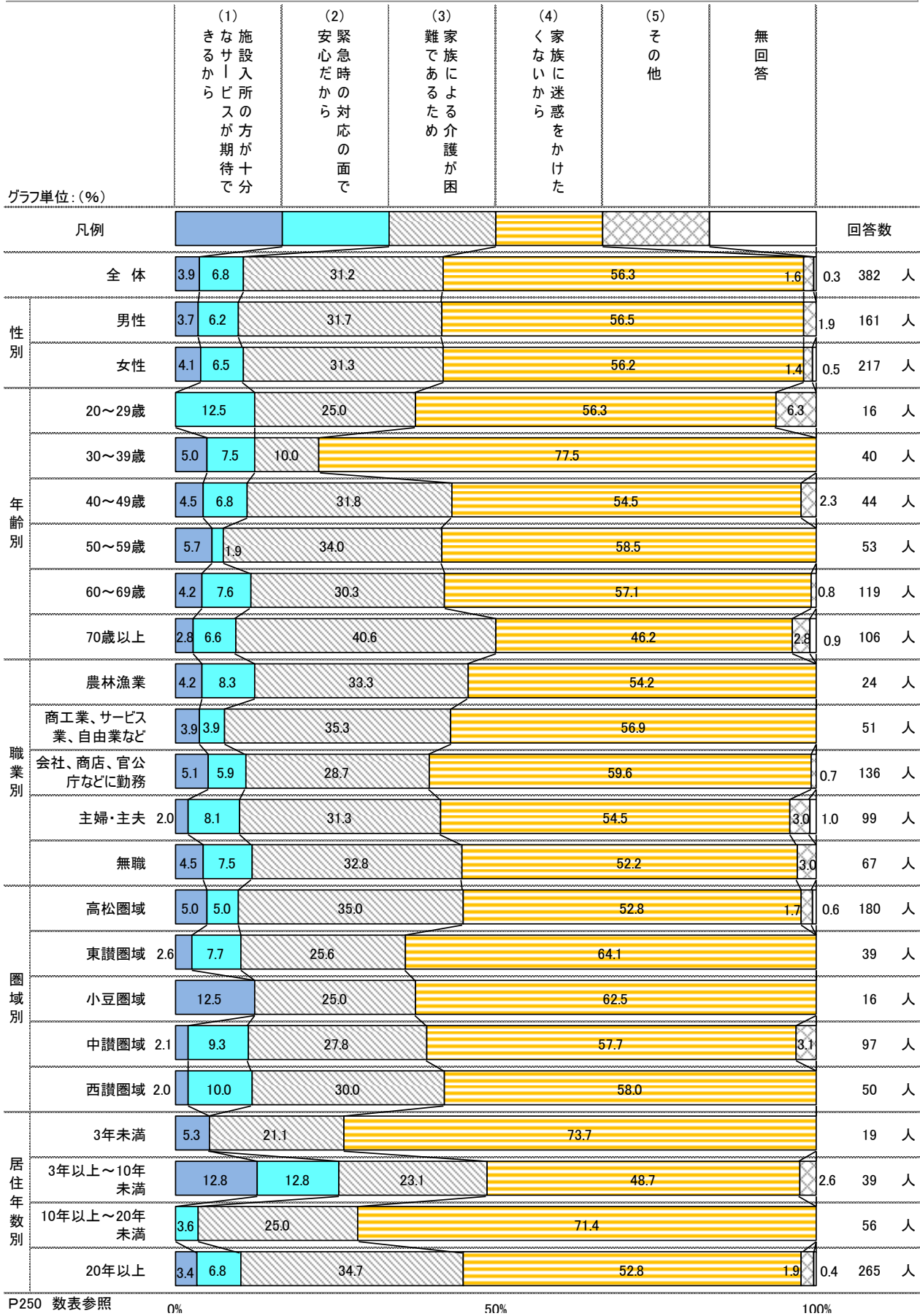
年齢別にみると、「家族による介護が困難であるため」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『70歳以上』（40.6%）がもっとも高くなっている。

職業別にみると、大きな差はみられない。

圏域別にみると、全ての地域別に置いて「家族に迷惑をかけたくないから」と回答した人の割合は5割を超えており、迷惑をかけたくない意識が高くなっている。

居住年数別にみると、いずれも「家族に迷惑をかけたくないから」が最も高く、『3年未満』、『10年以上～20年未満』においては70%を超えている。

図表 5-(3)-2 施設入所を希望される理由



(4)一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに最も近いもの

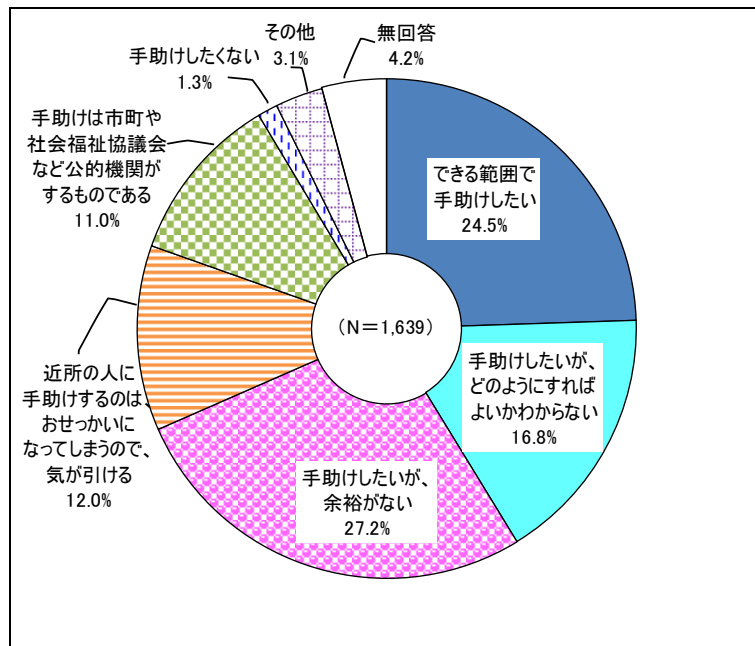
問21 地域で何らかの日常生活上の支援を必要としている一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考え方に最も近いものはどれですか。次の中から1つだけ選んでください。

【回答者数=1,639】

1	できる範囲で手助けしたい	24.5%
2	手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない	16.8%
3	手助けしたいが、余裕がない	27.2%
4	近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける	12.0%
5	手助けは市町や社会福祉協議会など公的機関がするものである	11.0%
6	手助けしたくない	1.3%
7	その他（具体的に：	3.1%
	（無回答）	4.2%

一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに最も近いものについて、「手助けしたいが、余裕がない」(27.2%)が最も多く、次いで「できる範囲で手助けしたい」(24.5%)、「手助けしたいが、どのようにすればよいかわからない」(16.8%)、「近所の人に手助けするのは、おせっかいになってしまうので、気が引ける」(12.0%)などとなっている。

図表 5-(4)-1 一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに最も近いもの



一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに最も近いものについて、性別にみると、大きな差はみられない。

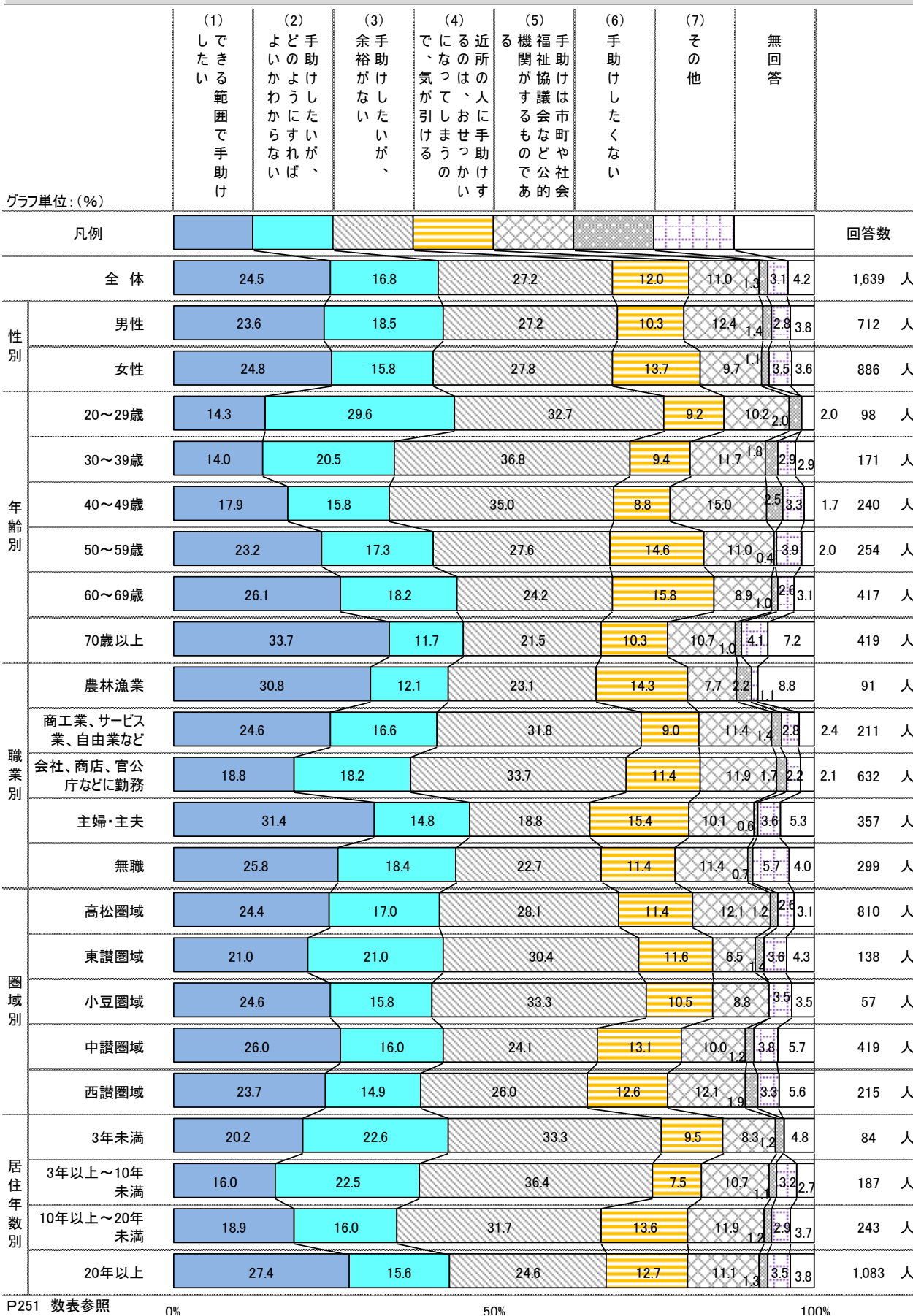
年齢別にみると、「できる範囲で手助けしたい」と回答した人の割合は、年代が上がるほど高くなる傾向になっており、『70歳以上』（33.7%）がもっとも高くなっている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「手助けしたいが、余裕がない」（18.8%）と回答した人の割合は『会社、商店、官公庁などに勤務』（33.7%）に比べ14.9ポイント低くなっている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において「手助けしたいが、余裕がない」（24.1%）と回答した人の割合は『小豆圏域』（33.3%）に比べ9.2ポイント低くなっている。

居住年数別にみると、『3年未満』、『3年以上～10年未満』、『10年以上～20年未満』においては、「手助けしたいが、余裕がない」が3割を超え最も高いが、『20年以上』においては、「できる範囲で手助けしたい」が最も高く、27.4%となっている。

図表 5-(4)-2 一人暮らしの高齢者などへの手助けについて、あなたの考えに最も近いもの





(5) 認知症施策で関心のあること

問22 認知症施策で関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	45.5%
2	認知症の予防に向けた取組み	57.6%
3	できるだけ早い段階からの医療・介護等のサポートを利用できる仕組みづくり	41.9%
4	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	47.5%
5	認知症を治せる薬や治療法の開発	53.8%
6	認知症の人が利用できる介護施設の充実	45.1%
7	家族の身体的・精神的負担を減らす取組み	60.2%
8	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み	51.8%
9	認知症の人を地域で見守る体制の充実	33.7%
10	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取組み	28.0%
11	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.9%
12	その他（具体的に： )	0.9%
13	特にない	1.3%
14	わからない	2.0%
	(無回答)	2.8%

認知症施策で関心のあることについて、「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」(60.2%)が最も多く、次いで「認知症の予防に向けた取組み」(57.6%)、「認知症を治せる薬や治療法の開発」(53.8%)、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」(51.8%) などとなっている。

図表 5-(5)-1 認知症施策に関心のあること

		回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	45.5	746 人
(2) 認知症の予防に向けた取り組み	57.6	944 人
(3) できるだけ早い段階からの医療・介護等のサポートを利用できる仕組みづくり	41.9	687 人
(4) 認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	47.5	778 人
(5) 認知症を治せる薬や治療法の開発	53.8	882 人
(6) 認知症の人が利用できる介護施設の充実	45.1	739 人
(7) 家族の身体的・精神的負担を減らす取り組み	60.2	987 人
(8) 家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取り組み	51.8	849 人
(9) 認知症の人を地域で見守る体制の充実	33.7	552 人
(10) 悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取り組み	28.0	459 人
(11) 日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	16.9	277 人
(12) その他	0.9	14 人
(13) 特にない	1.3	22 人
(14) わからない	2.0	33 人
無回答	2.8	46 人

グラフ単位：(%)

認知症施策で関心のあることについて、

性別にみると、『女性』において「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」(63.9%)、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」(56.3%)と回答した人の割合は『男性』(57.0%、47.5%)比べ6ポイント以上上回っている。

年齢別にみると、『60～69歳』において「認知症の人が利用できる介護施設の充実」(50.8%)と回答した人の割合は『20～29歳』(26.5%)に比べ24.3ポイント上回っている。『50～59歳』において「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」(61.0%)と回答した人の割合は『70歳以上』(40.8%)に比べ20.2ポイント上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において「家族の身体的・精神的負担を減らす取組み」(66.5%)と回答した人の割合は『農林漁業』(48.4%)に比べ18.1ポイント、「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」(58.2%)と回答した人の割合は『無職』(43.1%)に比べ15.1ポイント上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において「家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を減らす取組み」(59.4%)と回答した人の割合は『小豆圏域』(38.6%)に比べ20.8ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供」(53.6%)と回答した人の割合は『3年以上～10年未満』(39.0%)に比べ14.6ポイント、「認知症の予防に向けた取組み」(67.9%)と回答した人の割合は他の居住年数に比べ9ポイント以上上回っている。

図表 5-(5)-2 認知症施策に関心のあること

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)		
		回答者数(人)	認知症に関する正しい知識と理解の啓発・情報提供	認知症の予防に向けた取組み	できるだけ早い段階からの医療・介護等のサポートを利 用できる仕組みづくり	認知症のことを相談できる窓口・体制の充実	認知症を治せる薬や治療法の開発	認知症の人が利用できる介護施設の充実	家族の身体的・精神的負担を減らす取組み	家族の仕事と介護の両立支援などを含めた経済的負担を 減らす取組み	認知症の人を地域で見守る体制の充実	悪質商法や詐欺的な勧誘による被害を防止するための取 組み	日常生活の中で必要となる財産管理などへの支援の充実	その他	特にな い	わから ない	無回 答
単位: 比率(%)																	
全体		1,639	45.5	57.6	41.9	47.5	53.8	45.1	60.2	51.8	33.7	28.0	16.9	0.9	1.3	2.0	2.8
性別	男性	712	47.2	58.6	41.4	47.5	58.3	42.4	57.0	47.5	31.2	28.4	17.8	1.3	1.7	2.2	2.0
	女性	886	44.8	57.9	43.2	48.0	50.9	48.0	63.9	56.3	35.8	28.0	16.1	0.6	1.1	1.8	2.3
年齢別	20～29歳	98	45.9	66.3	34.7	40.8	59.2	26.5	63.3	54.1	33.7	23.5	17.3	3.1	4.1	5.1	1.0
	30～39歳	171	43.9	60.2	41.5	39.8	57.3	41.5	67.8	55.6	28.7	32.2	14.6	-	1.8	0.6	2.3
	40～49歳	240	49.2	56.3	43.3	50.8	57.9	42.9	69.6	60.0	32.9	32.9	18.8	1.7	0.4	3.8	0.4
	50～59歳	254	50.4	59.1	45.7	52.4	55.9	47.2	69.3	61.0	31.1	29.9	20.1	0.4	0.8	1.2	0.4
	60～69歳	417	46.5	58.5	43.2	51.8	55.9	50.8	58.0	52.3	36.9	25.7	17.5	0.5	1.0	1.2	1.7
	70歳以上	419	41.8	55.6	41.3	44.4	46.5	46.5	49.9	40.8	35.1	26.3	13.8	1.0	1.9	2.1	4.8
職業別	農林漁業	91	42.9	57.1	38.5	47.3	56.0	48.4	48.4	45.1	27.5	18.7	11.0	-	1.1	1.1	2.2
	商工業、サービス業、 自由業など	211	48.3	64.5	40.3	46.0	51.7	46.4	56.4	51.2	32.7	31.3	19.0	1.4	0.9	1.9	0.9
	会社、商店、官公庁 などに勤務	632	46.7	59.7	43.0	49.2	58.2	41.5	66.5	58.2	33.9	27.2	18.2	0.6	1.3	2.2	1.1
	主婦・主夫	357	45.4	54.9	43.4	48.2	49.3	51.3	62.2	52.1	37.8	29.7	15.1	0.8	1.1	2.0	3.4
	無職	299	44.8	55.5	42.8	45.8	53.5	45.5	53.8	43.1	32.1	28.8	16.4	1.3	2.3	2.0	3.3
圏域別	高松圏域	810	45.8	58.3	43.3	46.4	53.0	43.7	60.7	53.0	34.4	29.0	16.7	1.0	1.2	2.0	1.7
	東讃圏域	138	41.3	55.1	44.9	52.9	58.0	51.4	63.8	59.4	32.6	30.4	12.3	-	1.4	1.4	3.6
	小豆圏域	57	42.1	57.9	40.4	45.6	45.6	40.4	56.1	38.6	31.6	26.3	19.3	1.8	1.8	-	5.3
	中讃圏域	419	47.3	59.7	38.4	48.2	56.3	44.9	60.9	50.6	34.1	27.0	17.7	1.0	1.4	1.4	3.8
	西讃圏域	215	44.7	52.6	41.9	47.0	51.6	47.9	55.8	48.4	31.2	25.1	18.6	0.5	1.4	4.2	3.7
居住年数別	3年未満	84	53.6	67.9	41.7	45.2	54.8	38.1	64.3	54.8	32.1	35.7	25.0	2.4	2.4	2.4	3.6
	3年以上～10年未満	187	39.0	58.8	43.9	44.9	51.3	41.7	61.5	51.9	33.7	28.3	12.3	0.5	1.6	2.1	1.1
	10年以上～20年未満	243	53.1	53.9	44.4	51.0	58.4	48.6	65.0	56.4	33.7	28.0	17.3	1.6	-	3.7	1.6
	20年以上	1,083	45.0	58.3	41.6	47.6	53.6	46.1	59.2	51.2	34.0	27.5	16.9	0.6	1.6	1.6	2.3

**(6) 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策**

問23 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策を次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

【回答者数=1,639】

1 健康づくりや介護予防	58.4%
2 高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）	44.7%
3 地域で支え合う体制の充実	40.3%
4 介護サービスの質の向上	41.8%
5 介護サービス施設などの量的充実	47.1%
6 住宅や交通などの住環境の充実	32.1%
7 地域医療の充実	40.9%
8 災害時の援護体制の整備	29.3%
9 交通安全の確保	18.3%
10 犯罪被害の防止	21.4%
11 高齢者虐待の防止	20.6%
12 認知症高齢者施策の推進	37.9%
（無回答）	3.3%

今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策について、「健康づくりや介護予防」（58.4%）が最も多く、次いで「介護サービス施設などの量的充実」（47.1%）、「高齢者活躍の場の確保（活躍の場への誘導）」（44.7%）、「介護サービスの質の向上」（41.8%）などとなっている。

図表 5-(6)-1 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策

		回答数
全体	100.0	1,639 人
(1) 健康づくりや介護予防	58.4	957 人
(2) 高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	44.7	732 人
(3) 地域で支え合う体制の充実	40.3	660 人
(4) 介護サービスの質の向上	41.8	685 人
(5) 介護サービス施設などの量的充実	47.1	772 人
(6) 住宅や交通などの住環境の充実	32.1	526 人
(7) 地域医療の充実	40.9	671 人
(8) 災害時の援護体制の整備	29.3	480 人
(9) 交通安全の確保	18.3	300 人
(10) 犯罪被害の防止	21.4	351 人
(11) 高齢者虐待の防止	20.6	337 人
(12) 認知症高齢者施策の推進	37.9	622 人
無回答	3.3	54 人

グラフ単位：(%)

今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策について、性別にみると、大きな差はみられない。

年齢別にみると、『70歳以上』において「地域で支え合う体制の充実」(44.9%)と回答した人の割合は『20～29歳』(33.7%)、『30～39歳』(33.9%)に比べ11ポイント以上上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において「住宅や交通などの住環境の充実」(39.2%)と回答した人の割合は『農林漁業』(25.3%)、『無職』(28.8%)に比べ10ポイント以上上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において「地域医療の充実」(45.6%)と回答した人の割合は『中讃圏域』(38.4%)に比べ7.2ポイント、「災害時の援護体制の整備」(35.1%)と回答した人の割合は『高松圏域』(27.5%)に比べ7.6ポイント上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において「交通安全の確保」(31.0%)と回答した人の割合は他の居住年数に比べ12ポイント以上上回っている。

図表 5-(6)-2 今後も高齢化が進行していく社会において、あなたが重要と思われる方策

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)		
		回答者数(人)	健康づくりや介護予防	高齢者活躍の場の確保(活躍の場への誘導)	地域で支え合う体制の充実	介護サービスの質の向上	介護サービス施設などの量的充実	住宅や交通などの住環境の充実	地域医療の充実	災害時の援護体制の整備	交通安全の確保	犯罪被害の防止	高齢者虐待の防止	認知症高齢者施策の推進	無回答
単位: 比率(%)															
全体		1,639	58.4	44.7	40.3	41.8	47.1	32.1	40.9	29.3	18.3	21.4	20.6	37.9	3.3
性別	男性	712	59.3	45.2	39.5	38.9	49.9	30.2	43.5	28.4	20.4	22.9	18.5	37.4	2.2
	女性	886	58.4	44.9	41.2	44.9	45.7	33.9	40.0	30.5	17.0	20.4	22.2	39.2	3.0
年齢別	20~29歳	98	62.2	54.1	33.7	44.9	36.7	19.4	29.6	26.5	19.4	19.4	22.4	28.6	3.1
	30~39歳	171	50.3	54.4	33.9	40.9	52.6	23.4	33.3	24.6	21.6	26.3	24.6	32.7	4.1
	40~49歳	240	57.9	55.0	37.5	44.6	52.1	37.9	40.8	32.5	22.5	24.2	25.8	47.5	0.8
	50~59歳	254	59.1	48.8	40.9	44.9	44.5	35.0	41.3	30.3	14.2	20.1	15.4	39.0	1.2
	60~69歳	417	59.0	40.5	42.2	42.9	51.1	34.1	45.8	30.7	16.3	17.0	19.9	37.9	1.9
	70歳以上	419	61.6	36.0	44.9	38.2	43.2	32.7	43.2	29.1	19.6	23.6	19.3	37.9	4.8
職業別	農林漁業	91	59.3	40.7	46.2	27.5	44.0	25.3	41.8	26.4	14.3	16.5	17.6	30.8	2.2
	商工業、サービス業、自由業など	211	58.8	45.0	37.4	42.7	52.1	31.3	39.8	30.3	19.0	23.7	19.0	41.7	1.9
	会社、商店、官公庁などに勤務	632	56.3	52.5	39.6	44.5	50.2	31.8	38.9	29.3	17.9	20.3	22.0	37.8	1.7
	主婦・主夫	357	62.2	38.4	43.1	42.0	42.9	39.2	44.0	31.9	19.6	21.3	20.4	36.7	4.8
	無職	299	59.5	38.8	40.1	41.1	46.2	28.8	44.8	27.8	19.4	24.4	20.1	41.8	2.7
圏域別	高松圏域	810	58.0	45.6	40.2	40.4	46.5	30.7	41.4	27.5	16.9	21.7	19.1	37.2	2.3
	東讃圏域	138	57.2	48.6	39.9	49.3	49.3	34.8	42.8	30.4	23.2	15.9	18.1	37.7	2.2
	小豆圏域	57	56.1	36.8	36.8	33.3	42.1	26.3	45.6	35.1	12.3	14.0	12.3	38.6	3.5
	中讃圏域	419	59.9	45.1	39.6	43.4	45.6	34.8	38.4	30.8	18.6	24.1	23.4	39.4	4.3
	西讃圏域	215	58.1	40.0	42.8	41.4	52.1	31.6	41.9	30.7	21.4	20.5	24.2	38.1	5.6
居住年数別	3年未満	84	59.5	59.5	40.5	41.7	46.4	31.0	35.7	31.0	31.0	31.0	27.4	39.3	4.8
	3年以上~10年未満	187	53.5	52.9	34.2	42.2	48.1	28.3	38.0	27.8	16.6	24.6	23.5	36.4	2.1
	10年以上~20年未満	243	57.2	49.0	39.5	43.6	46.9	31.7	39.5	26.3	16.9	19.3	20.2	41.6	2.5
	20年以上	1,083	60.1	41.5	41.9	41.9	47.7	33.2	43.0	30.5	18.2	20.6	19.7	38.0	2.7



## 6. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている24の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていくうえでどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

### ※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から平成32年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(1)成長する香川（重要度）

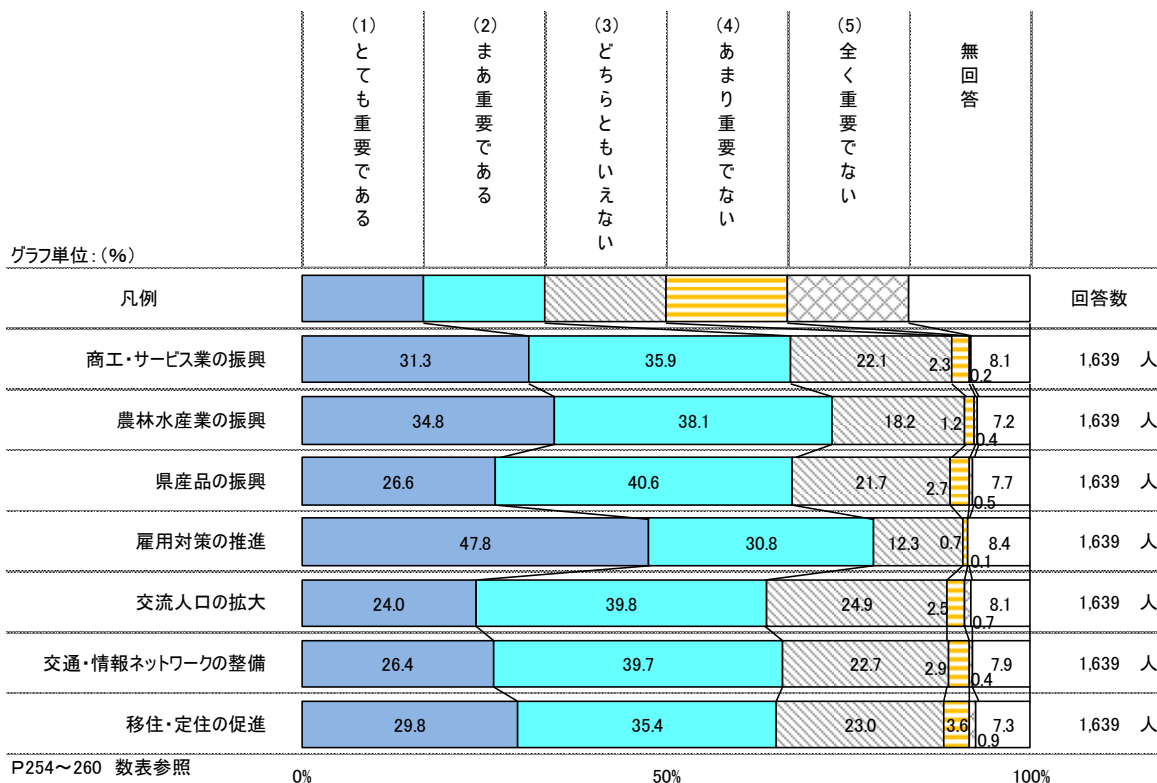
問24 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。  
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの<重要度>を、  
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項 目	重要度					
	① とても 重要である	② まあ 重要である	③ どちらとも いえ ない	④ あまり 重要でない	⑤ 全く 重要でない	無 回 答
1 商工・サービス業の振興	31.3	35.9	22.1	2.3	0.2	8.1
2 農林水産業の振興	34.8	38.1	18.2	1.2	0.4	7.2
3 県産品の振興	26.6	40.6	21.7	2.7	0.5	7.7
4 雇用対策の推進	47.8	30.8	12.3	0.7	0.1	8.4
5 交流人口の拡大	24.0	39.8	24.9	2.5	0.7	8.1
6 交通・情報ネットワークの整備	26.4	39.7	22.7	2.9	0.4	7.9
7 移住・定住の促進	29.8	35.4	23.0	3.6	0.9	7.3

「成長する香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた割合は、「雇用対策の推進」(78.6%)が最も多く、次いで「農林水産業の振興」(72.9%)となっている。

図表 6-(1) 成長する香川（重要度）



(2)成長する香川（満足度）

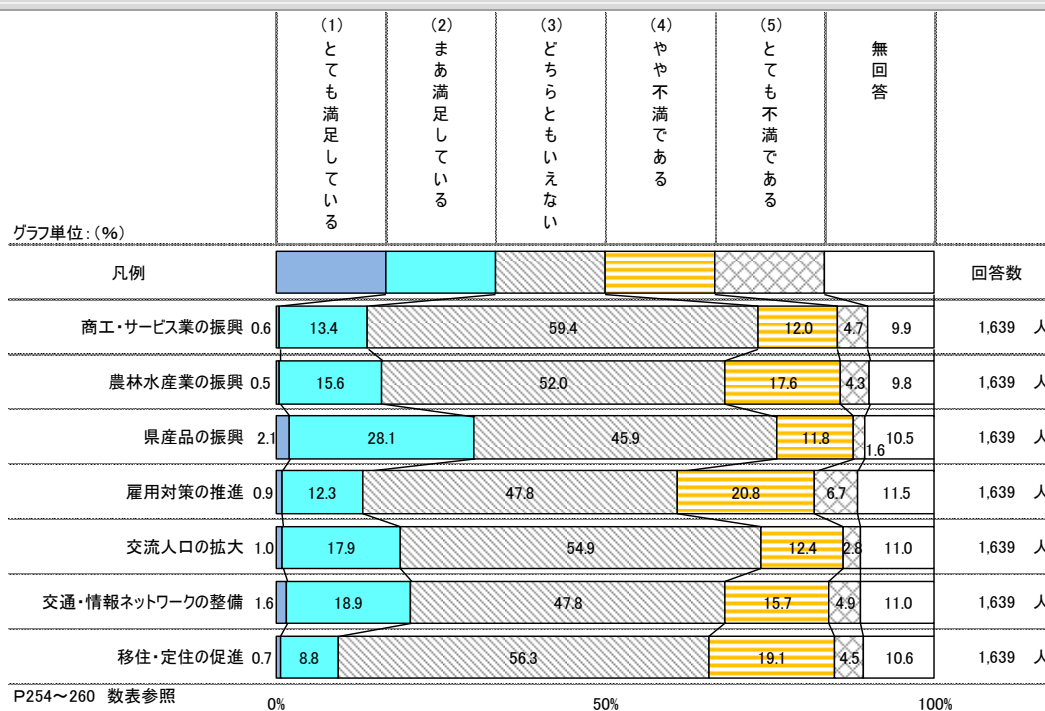
問24 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。  
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの<満足度>を、  
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項 目	満足度					
	① とても 満足している	② まあ満足している	③ どちらとも いえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.6	13.4	59.4	12.0	4.7	9.9
2 農林水産業の振興	0.5	15.6	52.0	17.6	4.3	9.8
3 県産品の振興	2.1	28.1	45.9	11.8	1.6	10.5
4 雇用対策の推進	0.9	12.3	47.8	20.8	6.7	11.5
5 交流人口の拡大	1.0	17.9	54.9	12.4	2.8	11.0
6 交通・情報ネットワークの整備	1.6	18.9	47.8	15.7	4.9	11.0
7 移住・定住の促進	0.7	8.8	56.3	19.1	4.5	10.6

「成長する香川」については、「県産品の振興」と「交流人口の拡大」を除く各分野において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っており、その中でも「雇用対策の推進」と「移住・定住の促進」においてその差が大きくなっている。

図表 6-(2) 成長する香川（満足度）



(3)信頼・安心の香川（重要度）

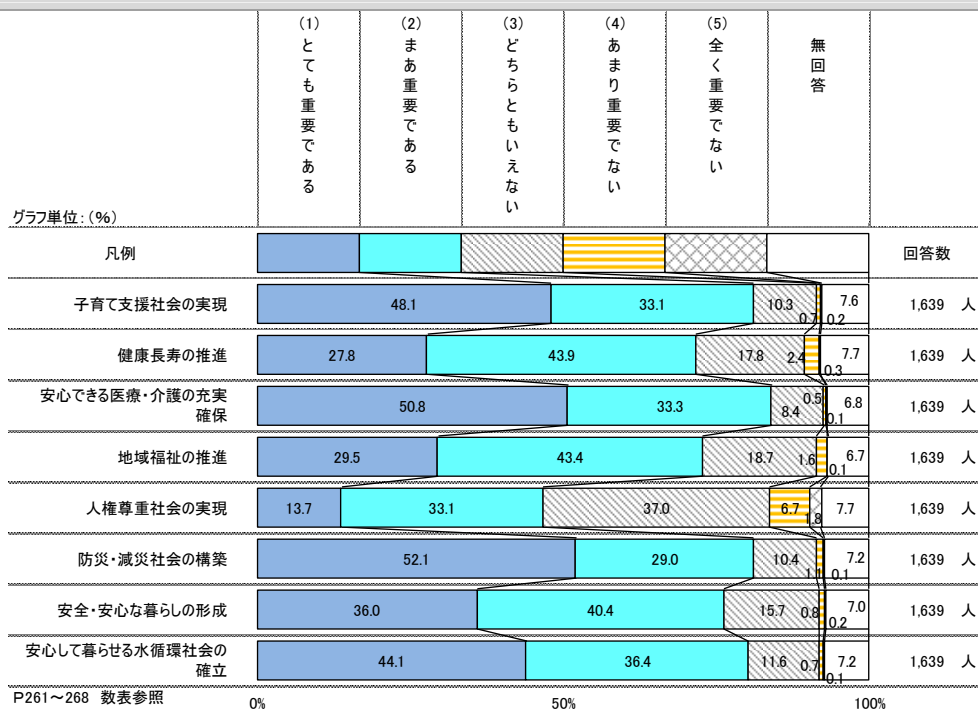
問25 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
8 子育て支援社会の実現	48.1	33.1	10.3	0.7	0.2	7.6
9 健康長寿の推進	27.8	43.9	17.8	2.4	0.3	7.7
10 安心できる医療・介護の充実確保	50.8	33.3	8.4	0.5	0.1	6.8
11 地域福祉の推進	29.5	43.4	18.7	1.6	0.1	6.7
12 人権尊重社会の実現	13.7	33.1	37.0	6.7	1.8	7.7
13 防災・減災社会の構築	52.1	29.0	10.4	1.1	0.1	7.2
14 安全・安心な暮らしの形成	36.0	40.4	15.7	0.8	0.2	7.0
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	44.1	36.4	11.6	0.7	0.1	7.2

「信頼・安心の香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」（84.1%）が最も多く、次いで「子育て支援社会の実現」（81.2%）となっている。

図表 6-(3) 信頼・安心の香川（重要度）



(4)信頼・安心の香川（満足度）

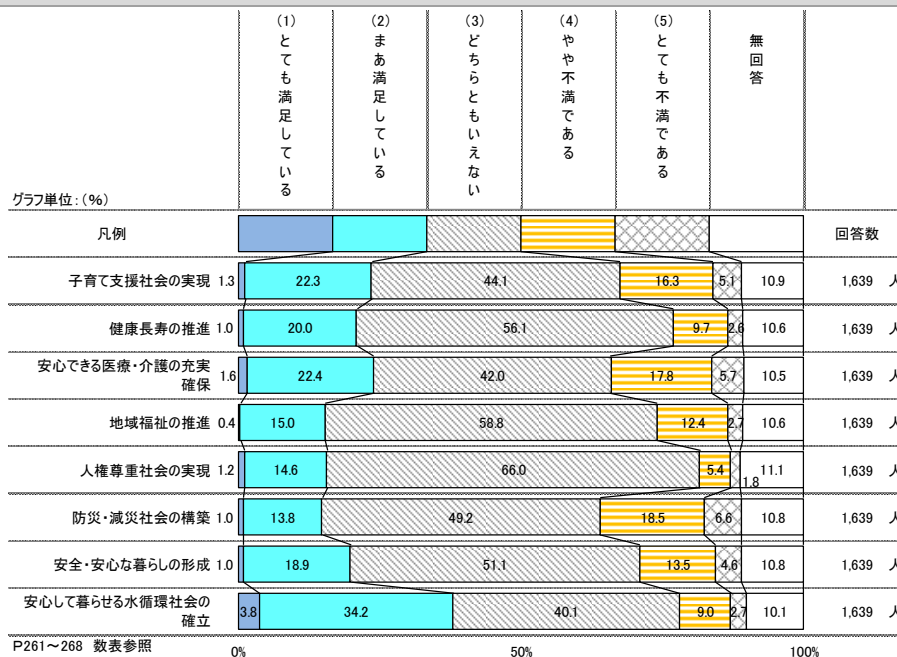
問25 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの<満足度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	満足度					無回答
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	
8 子育て支援社会の実現	1.3	22.3	44.1	16.3	5.1	10.9
9 健康長寿の推進	1.0	20.0	56.1	9.7	2.6	10.6
10 安心できる医療・介護の充実確保	1.6	22.4	42.0	17.8	5.7	10.5
11 地域福祉の推進	0.4	15.0	58.8	12.4	2.7	10.6
12 人権尊重社会の実現	1.2	14.6	66.0	5.4	1.8	11.1
13 防災・減災社会の構築	1.0	13.8	49.2	18.5	6.6	10.8
14 安全・安心な暮らしの形成	1.0	18.9	51.1	13.5	4.6	10.8
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	3.8	34.2	40.1	9.0	2.7	10.1

「信頼・安心の香川」については、「防災・減災社会の構築」において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っており、その他の各分野においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 6-(4) 信頼・安心の香川（満足度）



(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）

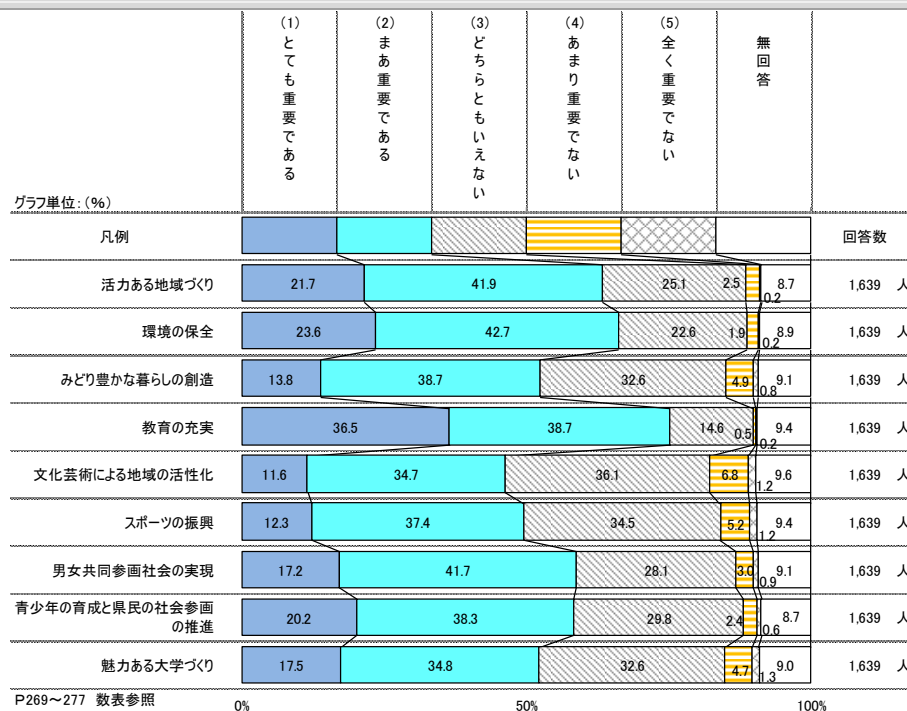
問26 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
16 活力ある地域づくり	21.7	41.9	25.1	2.5	0.2	8.7
17 環境の保全	23.6	42.7	22.6	1.9	0.2	8.9
18 みどり豊かな暮らしの創造	13.8	38.7	32.6	4.9	0.8	9.1
19 教育の充実	36.5	38.7	14.6	0.5	0.2	9.4
20 文化芸術による地域の活性化	11.6	34.7	36.1	6.8	1.2	9.6
21 スポーツの振興	12.3	37.4	34.5	5.2	1.2	9.4
22 男女共同参画社会の実現	17.2	41.7	28.1	3.0	0.9	9.1
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	20.2	38.3	29.8	2.4	0.6	8.7
24 魅力ある大学づくり	17.5	34.8	32.6	4.7	1.3	9.0

「笑顔で暮らせる香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた割合は、「教育の充実」（75.2%）が最も多く、次いで「環境の保全」（66.3%）となっている。

図表 6-(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）



(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）

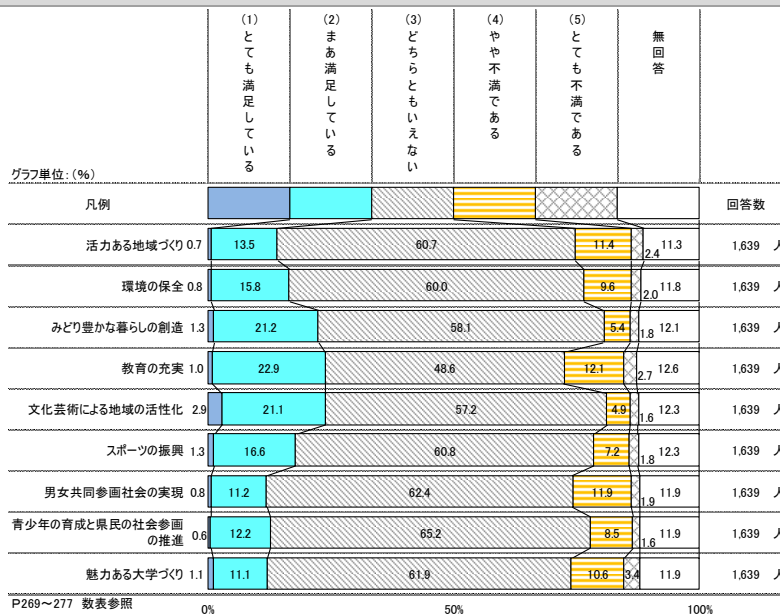
問26 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,639】

項目	満足度					無回答
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	
16 活力ある地域づくり	0.7	13.5	60.7	11.4	2.4	11.3
17 環境の保全	0.8	15.8	60.0	9.6	2.0	11.8
18 みどり豊かな暮らしの創造	1.3	21.2	58.1	5.4	1.8	12.1
19 教育の充実	1.0	22.9	48.6	12.1	2.7	12.6
20 文化芸術による地域の活性化	2.9	21.1	57.2	4.9	1.6	12.3
21 スポーツの振興	1.3	16.6	60.8	7.2	1.8	12.3
22 男女共同参画社会の実現	0.8	11.2	62.4	11.9	1.9	11.9
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	0.6	12.2	65.2	8.5	1.6	11.9
24 魅力ある大学づくり	1.1	11.1	61.9	10.6	3.4	11.9

「笑顔で暮らせる香川」については、「男女共同参画社会の実現」と「魅力ある大学づくり」において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っており、その他の各分野においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 6-(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）



商工・サービスの振興【重要度】について、性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』(72.8%)が『女性』(64.2%)よりも高くなっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『40～49歳』において75.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『会社、商店、官公庁などに勤務』において70.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において69.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『3年未満』において73.8%と最も高くなっている。

商工・サービスの振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(23.1%)が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(13.5%)を上回り、『女性』においては【満足している】(14.7%)が【不満である】(11.8%)を上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において【満足している】(20.6%)が【不満である】(10.0%)を上回り、他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

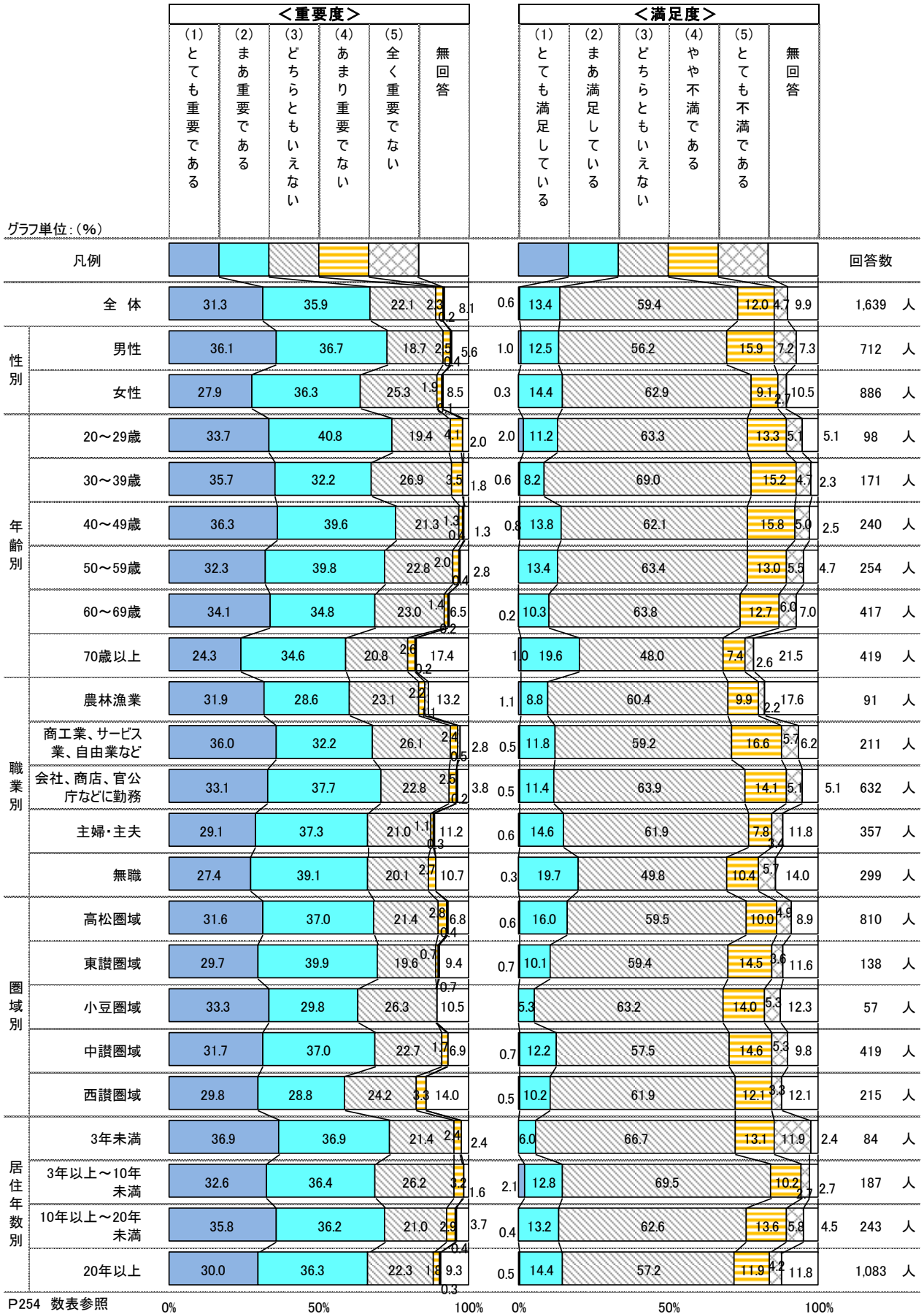
職業別にみると、『主婦・主夫』、『無職』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の職業においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』において【満足している】(16.6%)が【不満である】(14.9%)を上回り、その他の圏域においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【満足している】(14.9%)が【不満である】(12.9%)を上回り、他の居住年数においては【不満である】が【満足している】を上回っている。



図表 7-(1) 商工・サービスの振興



農林水産業の振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』75.0%、『女性』72.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（65.9%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において78.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で7割を超え、『農林漁業』において78.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において76.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で7割を超え、『3年未満』において80.9%と最も高くなっている。

農林水産業の振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(26.9%)が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(13.2%)を上回り、『女性』においては【満足している】(19.0%)が【不満である】(18.4%)を上回っている。

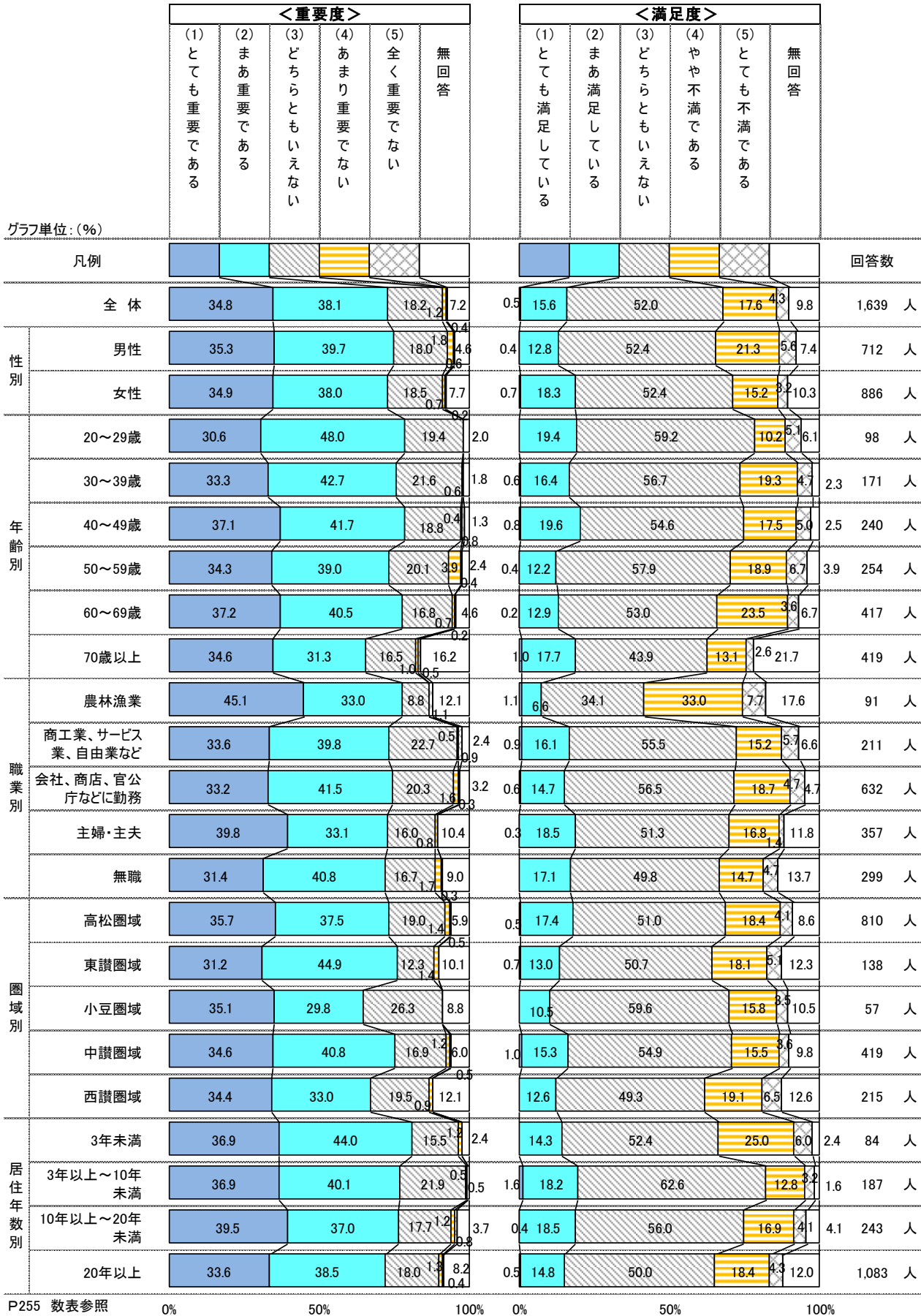
年齢別にみると、『20～29歳』と『70歳以上』において、【満足している】が【不満である】を上回り、他の年代では【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において、【満足している】(18.8%)が【不満である】(18.2%)を上回り、他の職業では【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年以上～10年未満』において【満足している】(19.8%)が【不満である】(16.0%)を上回り、他の居住年数では【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(2) 農林水産業の振興



県産品の振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』67.1%、『女性』68.7%と、いずれも7割近くになっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『40～49歳』において73.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において72.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において71.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『10年以上～20年未満』において74.5%と最も高くなっている。

県産品の振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

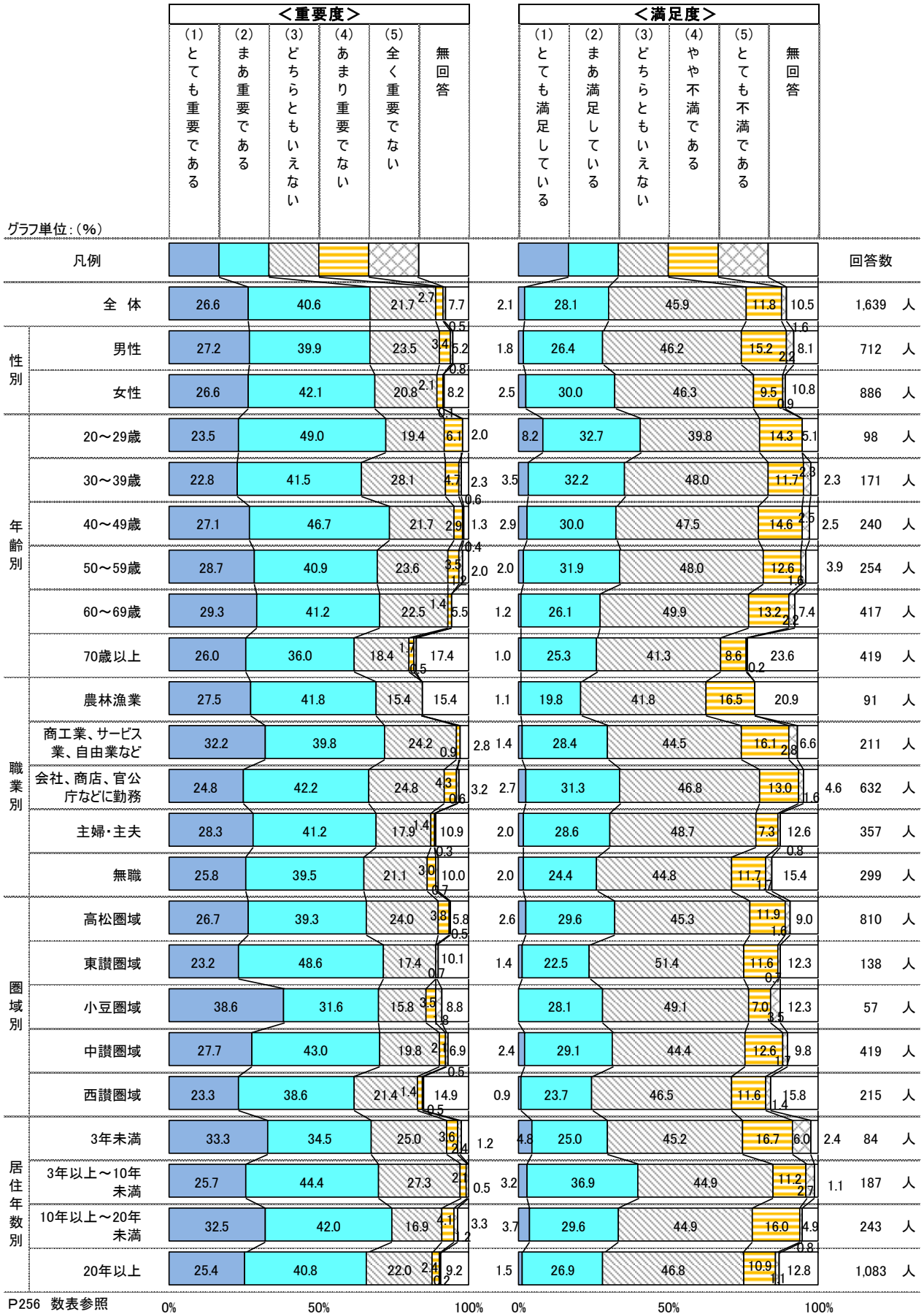
年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(3) 県産品の振興



雇用対策の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』80.6%、『女性』78.5%と、8割前後となっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（67.3%）を除くすべての年代で8割を超え、『40～49歳』において87.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『会社、商店、官公庁などに勤務』において85.1%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『中讃圏域』において81.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『10年以上～20年未満』において85.2%と最も高くなっている。

雇用対策の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っている。

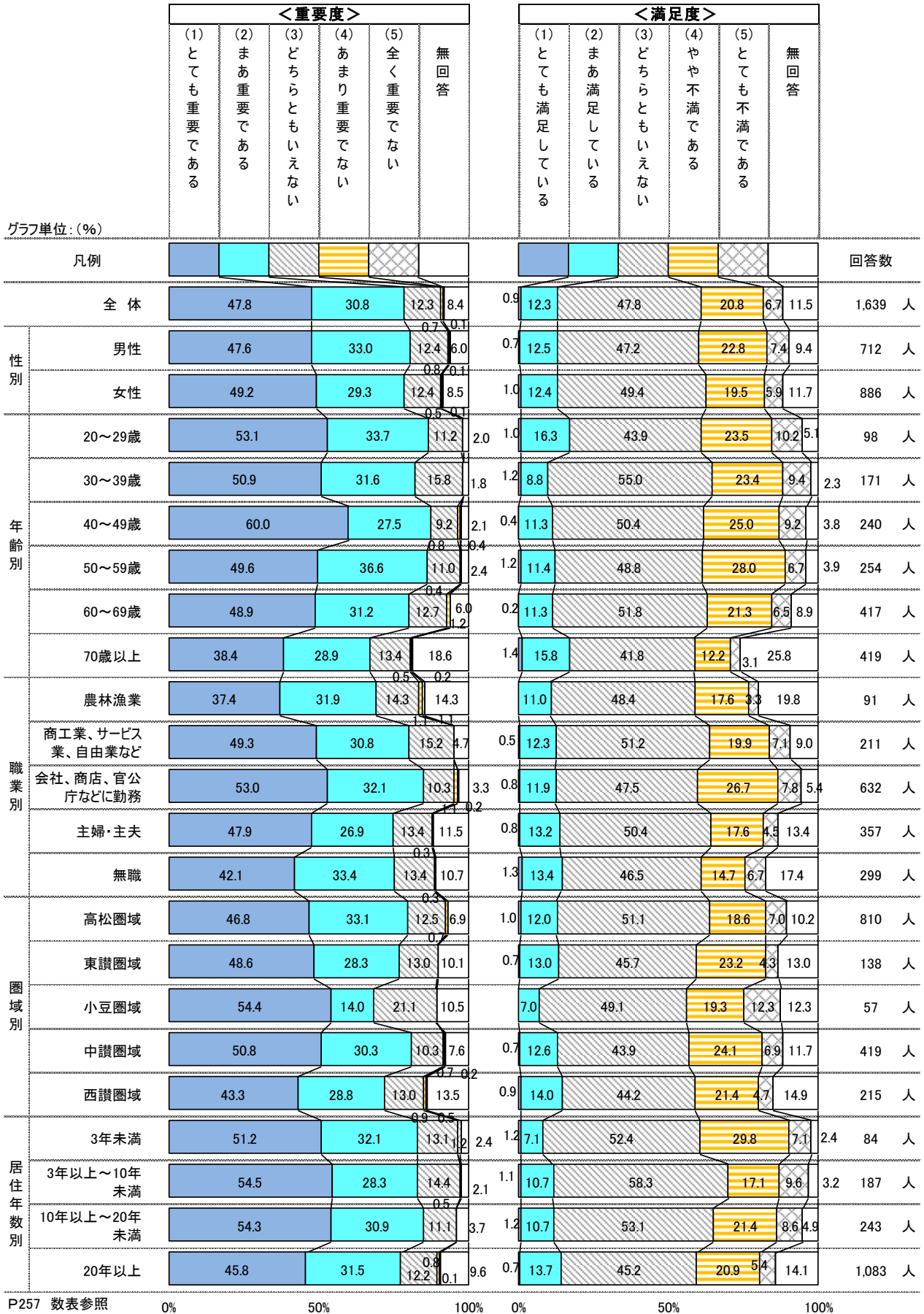
年齢別にみると、『70歳以上』において【満足している】（17.2%）が【不満である】（15.3%）を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(4) 雇用対策の推進



交流人口の拡大【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』65.3%、『女性』64.0%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（59.2%）を除くすべての年代で6割を超え、『40～49歳』において68.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『農林漁業』（59.4%）を除くすべての職業で6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において69.7%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『西讃圏域』（54.9%）を除くすべての圏域で6割を超え、『小豆圏域』において68.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で6割を超え、『10年以上～20年未満』において72.1%と最も高くなっている。

交流人口の拡大【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において【不満である】（18.1%）が【満足している】（14.0%）を上回り、『60～69歳』において同じ割合（17.0%）となったのを除き、他の年代では【満足している】が【不満である】を上回っている。

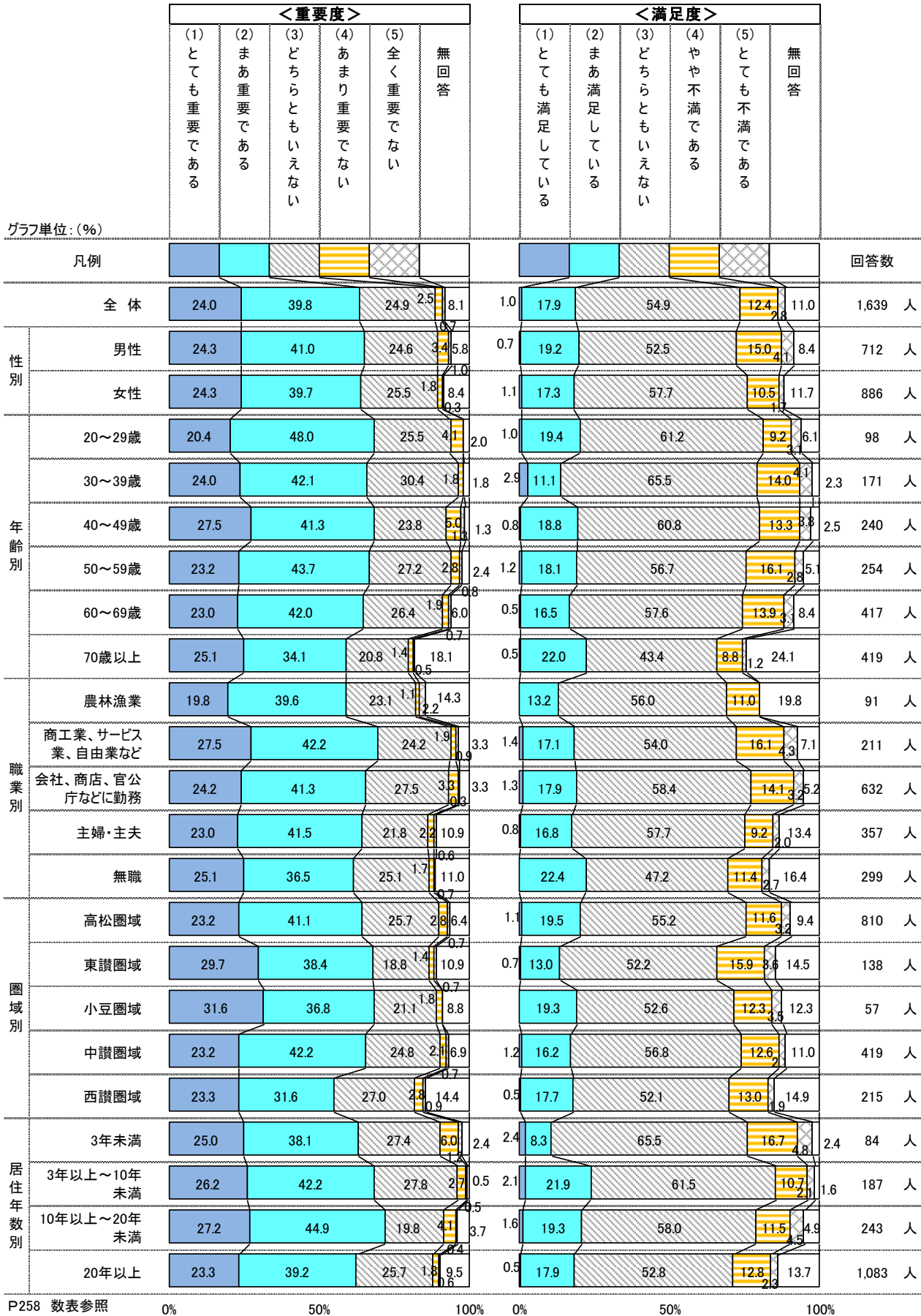
職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』において【不満である】（20.4%）が【満足している】（18.5%）を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』において【不満である】（19.5%）が【満足している】（13.7%）を上回り、その他の圏域においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】（21.5%）が【満足している】（10.7%）を上回り、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。



図表 7-(5) 交流人口の拡大



交通・情報ネットワークの整備【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』68.0%、『女性』65.9%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（57.0%）を除くすべての年代で6割を超え、『20～29歳』において73.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において73.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『西讃圏域』（57.7%）を除くすべての圏域で6割を超え、『中讃圏域』において69.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で6割を超え、『3年以上～10年未満』において73.2%と最も高くなっている。

交通・情報ネットワークの整備【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(24.6%)が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(21.7%)を上回り、『女性』においては【満足している】(20.2%)が【不満である】(17.7%)を上回っている。

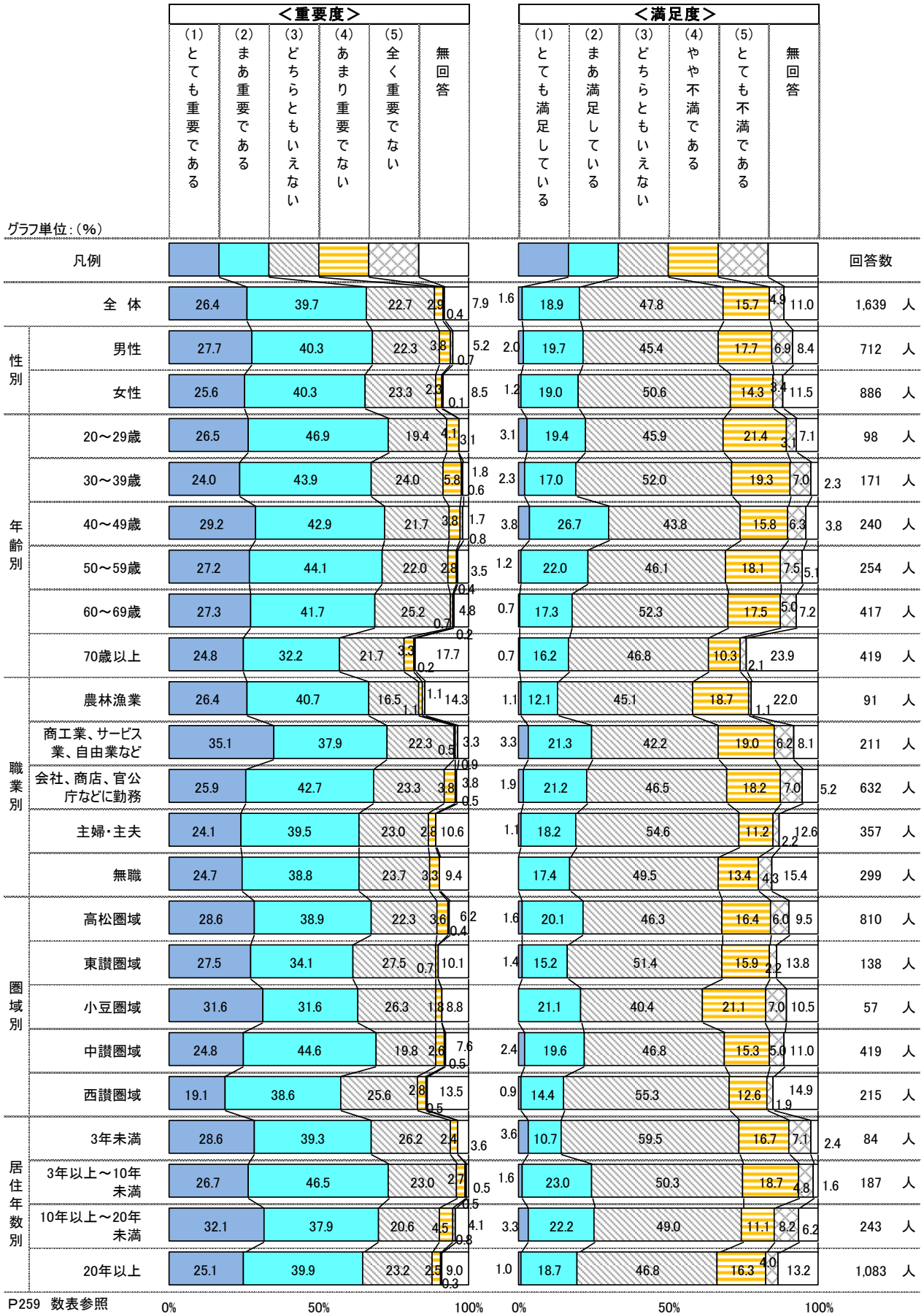
年齢別にみると、『40～49歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『主婦・主夫』において【満足している】(19.3%)が【不満である】(13.4%)を上回り、他の職業においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』と『西讃圏域』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の圏域においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』と『20年以上』において【不満である】が【満足している】を上回り、『3年以上～10年未満』と『10年以上～20年未満』においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(6) 交通・情報ネットワークの整備



移住・定住の促進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』64.4%、『女性』67.1%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（59.4%）を除くすべての年代で6割を超え、『60～69歳』において69.6%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で6割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において70.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『小豆圏域』（59.6%）を除くすべての圏域で6割を超え、『東讃圏域』において71.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で6割を超え、『3年未満』において69.1%と最も高くなっている。

移住・定住の促進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っている。

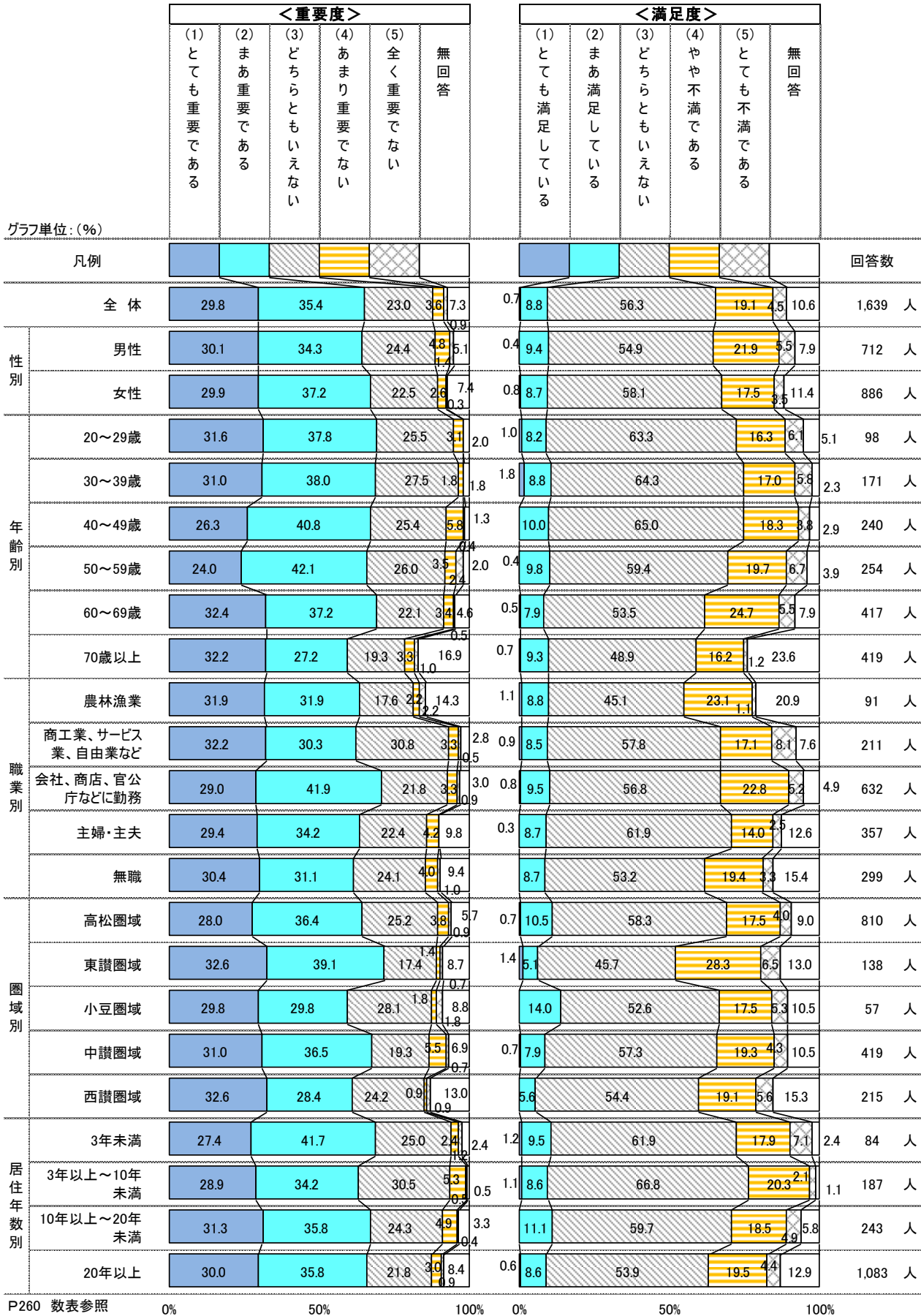
年齢別にみると、すべての年代において【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(7) 移住・定住の促進



子育て支援社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』83.0%、『女性』81.5%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（72.1%）を除くすべての年代で8割を超え、『30～39歳』において90.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』と『会社、商店、官公庁などに勤務』において85.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『高松圏域』において82.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で8割を超え、『3年未満』において89.3%と最も高くなっている。

子育て支援社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(25.0%)が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(18.9%)を上回り、『女性』においては【満足している】(27.9%)が【不満である】(19.1%)を上回っている。

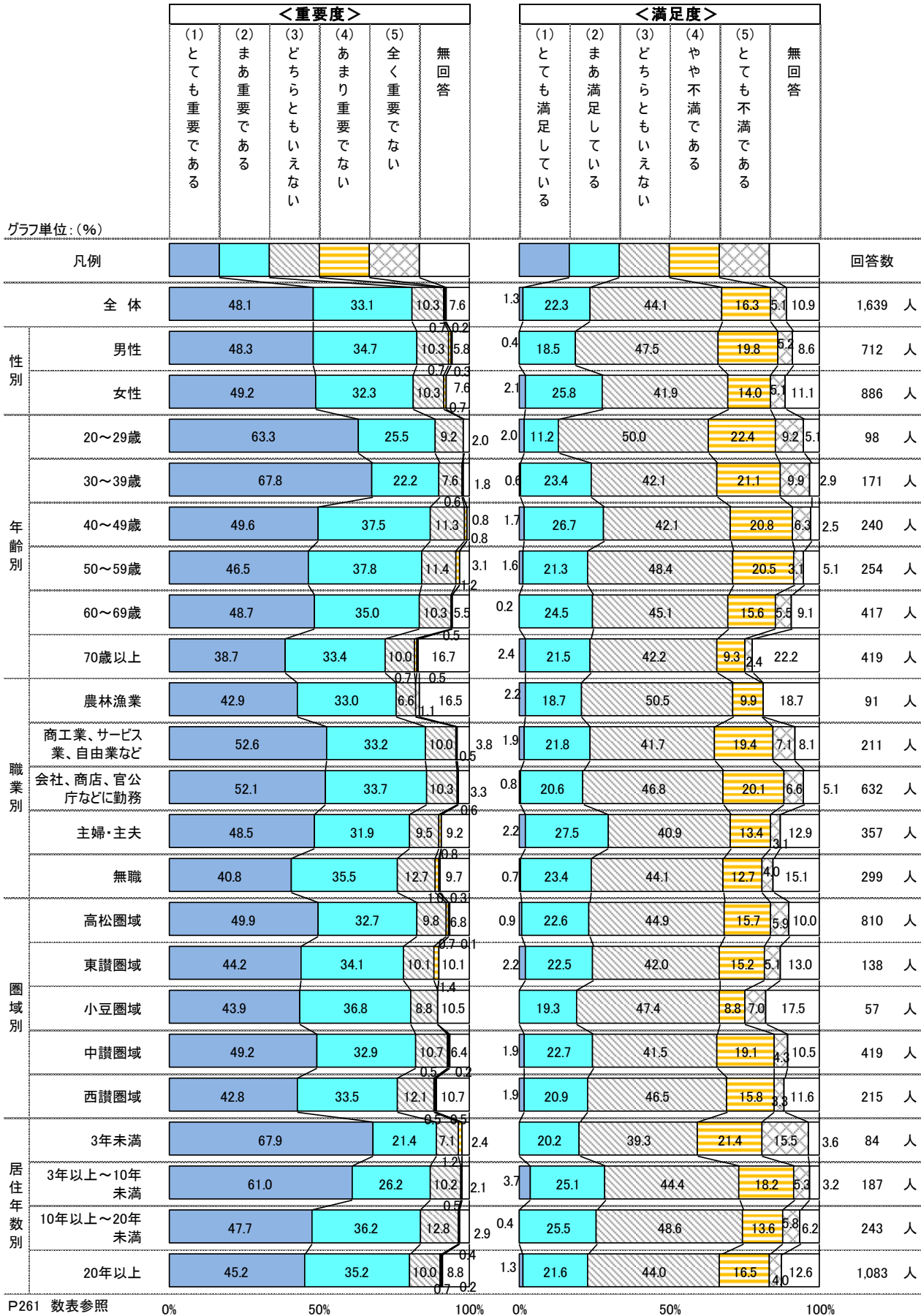
年齢別にみると、『20～29歳』、『30～39歳』、『50～59歳』において【不満である】が【満足している】を上回り、『40～49歳』、『60～69歳』、『70歳以上』においては、【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』と『会社、商店、官公庁などに勤務』においては【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】(36.9%)が【満足している】(20.2%)を上回り、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(8) 子育て支援社会の実現



健康長寿の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』70.9%、『女性』73.9%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（67.3%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において77.9%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『農林漁業』（60.5%）を除くすべての職業で7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』と『主婦・主夫』において74.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において72.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で7割を超え、『10年以上～20年未満』において74.0%と最も高くなっている。

健康長寿の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において【不満である】（15.2%）が【満足している】（11.7%）を上回り、その他の年代においては、【満足している】が【不満である】を上回っている。

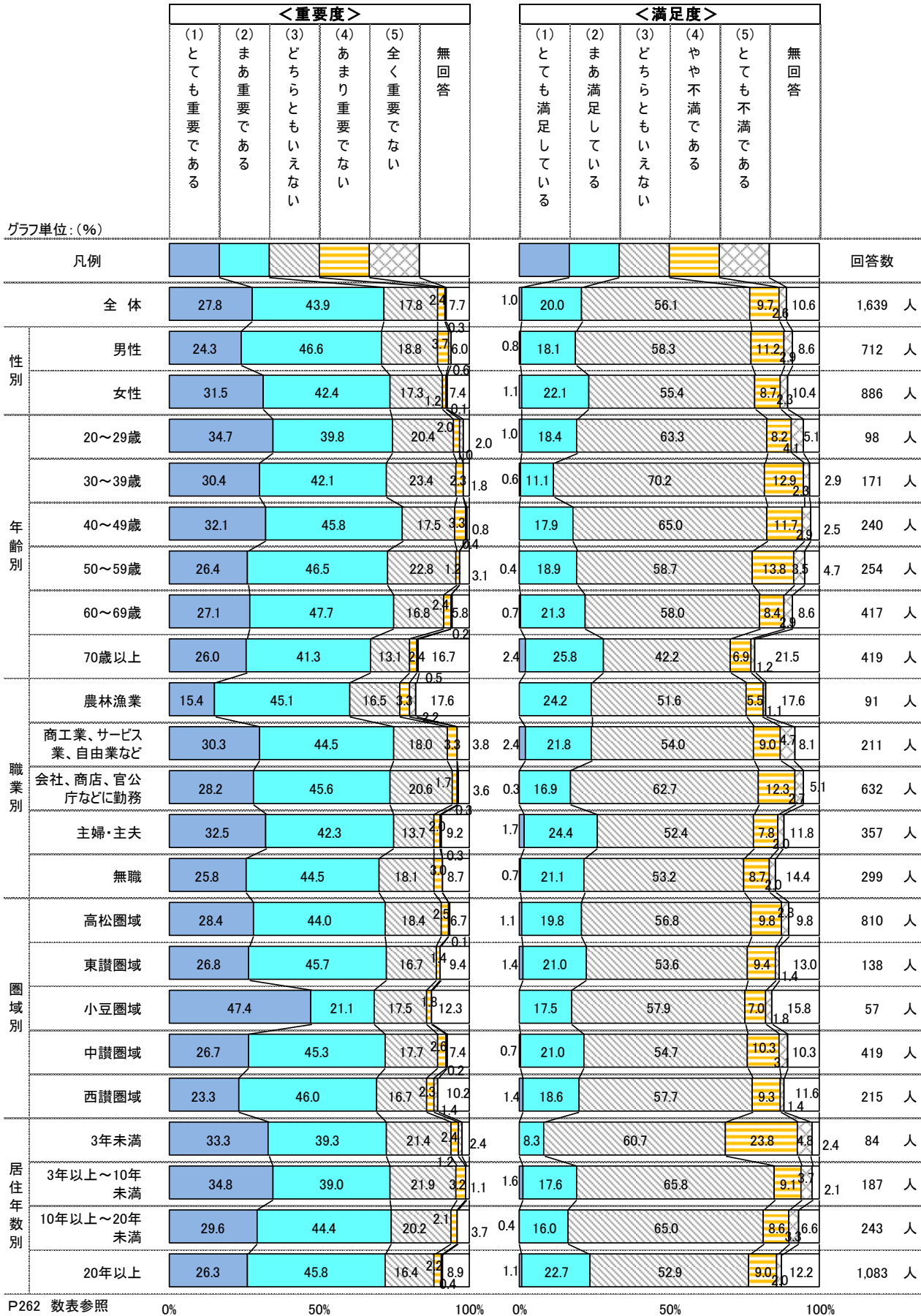
職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】（28.6%）が【満足している】（8.3%）を上回り、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。



図表 7-(9) 健康長寿の推進



安心できる医療・介護の充実確保【重要度】について、性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』84.7%、『女性』85.4%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（76.3%）を除くすべての年代で8割を超え、『40～49歳』において90.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『農林漁業』（79.2%）を除くすべての職業で8割を超え、『会社、商店、官公庁などに勤務』において88.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『高松圏域』において86.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において89.3%と最も高くなっている。

安心できる医療・介護の充実確保【満足度】について、性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】と、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】はほぼ同じ割合となっている。

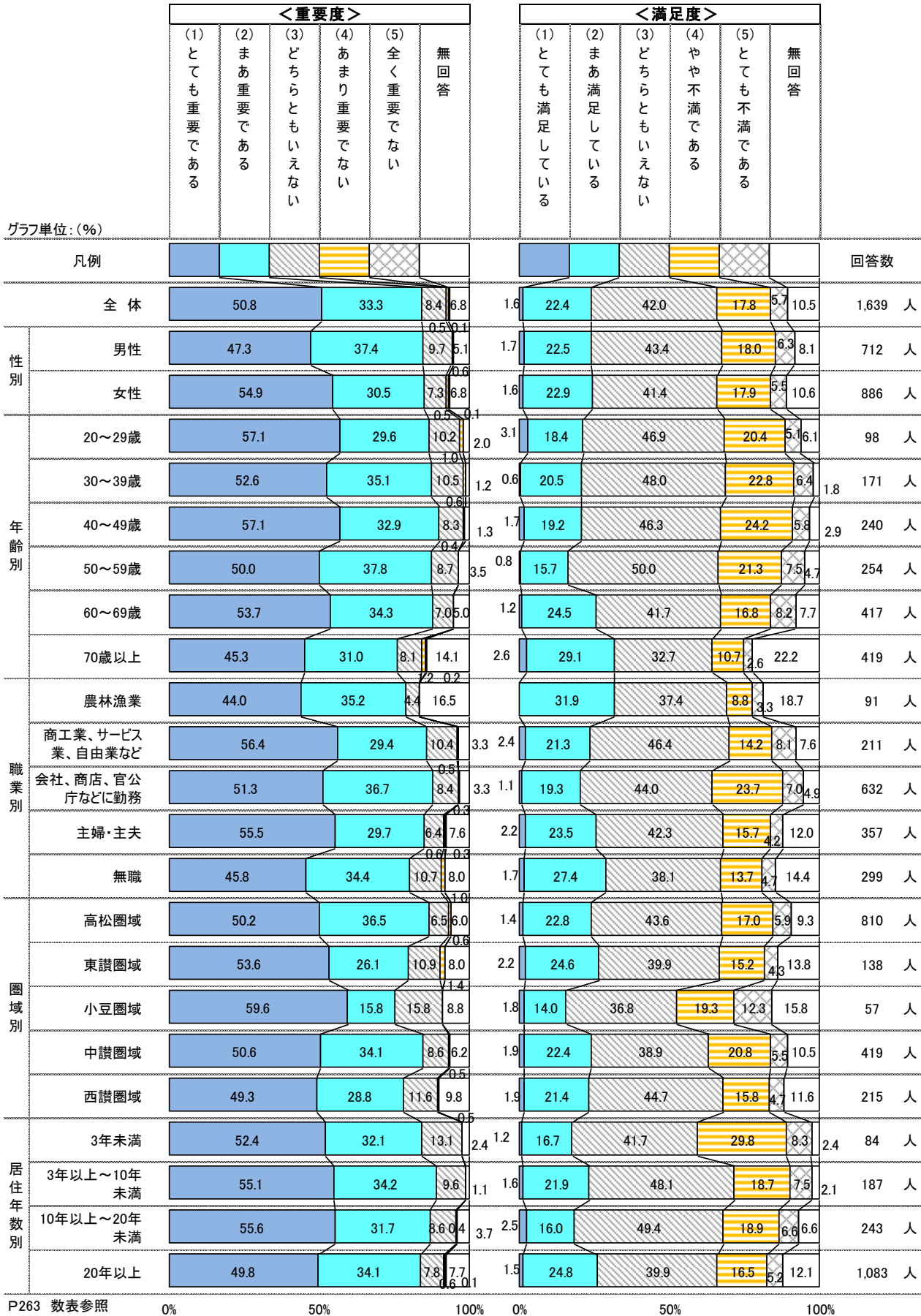
年齢別にみると、『60～69歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』と『中讃圏域』において【不満である】が【満足している】を上回り、その他の圏域においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において【満足している】(26.3%)が【不満である】(21.7%)を上回り、その他の居住年数においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(10) 安心できる医療・介護の充実確保



地域福祉の推進【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』70.7%、『女性』76.2%といずれも7割を超え、『女性』で高くなっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（67.5%）を除くすべての年代で7割を超え、『40～49歳』において79.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『農林漁業』（68.1%）を除くすべての職業で7割を超え、『主婦・主夫』において76.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『中讃圏域』において74.9%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で7割を超え、『3年以上～10年未満』において77.6%と最も高くなっている。

地域福祉の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】と、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】はほぼ同じ割合となっている。

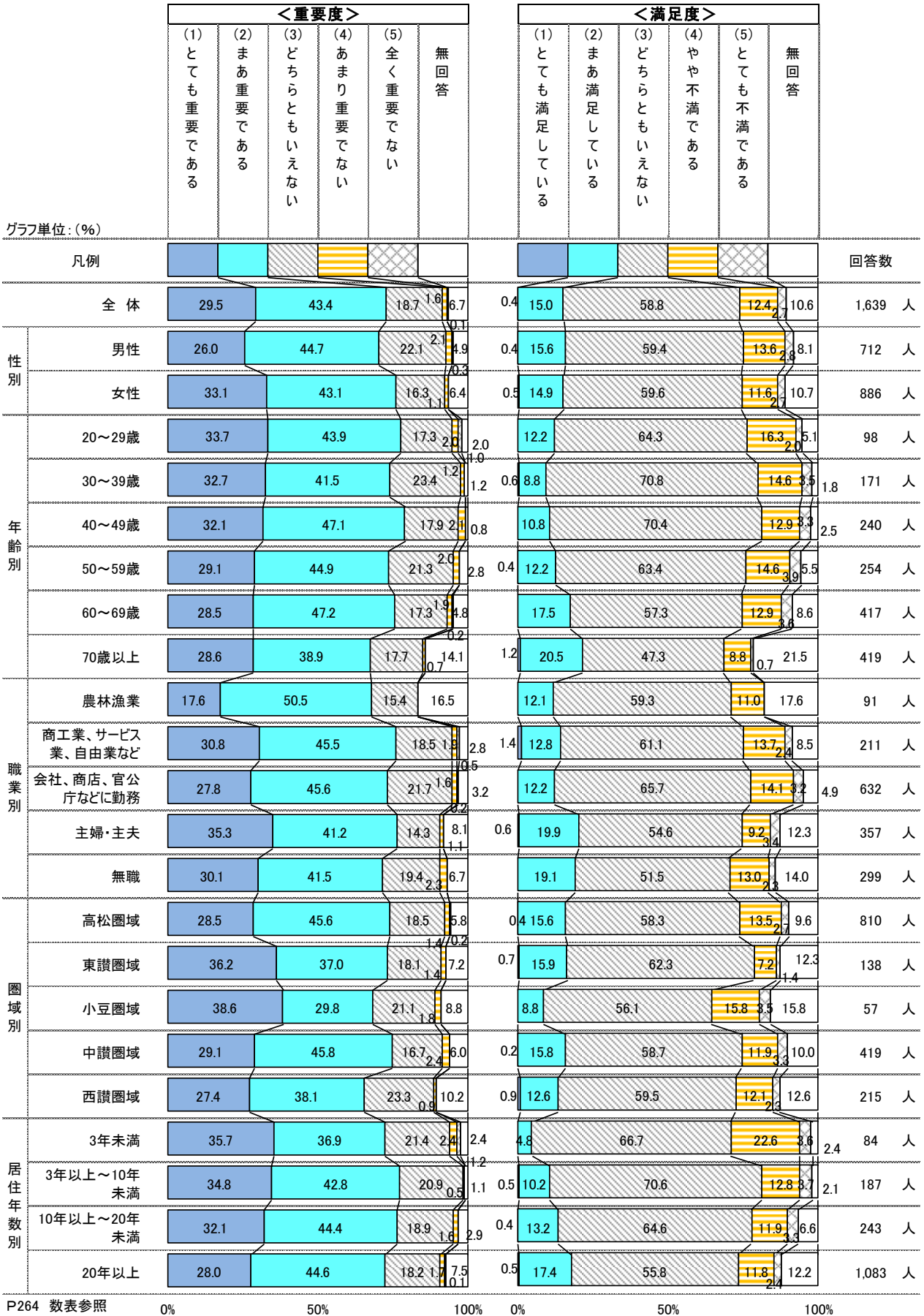
年齢別にみると、『60～69歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』と『会社、商店、官公庁などに勤務』において【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『東讃圏域』と『中讃圏域』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の圏域においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において【満足している】(17.9%)が【不満である】(14.2%)を上回り、その他の居住年数においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(11) 地域福祉の推進



人権尊重社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』45.1%、『女性』49.1%と、いずれも5割を下回っている。

年齢別にみると、【重要である】は、『20～29歳』において61.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において49.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『小豆圏域』において54.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『3年未満』において58.4%と最も高くなっている。

人権尊重社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

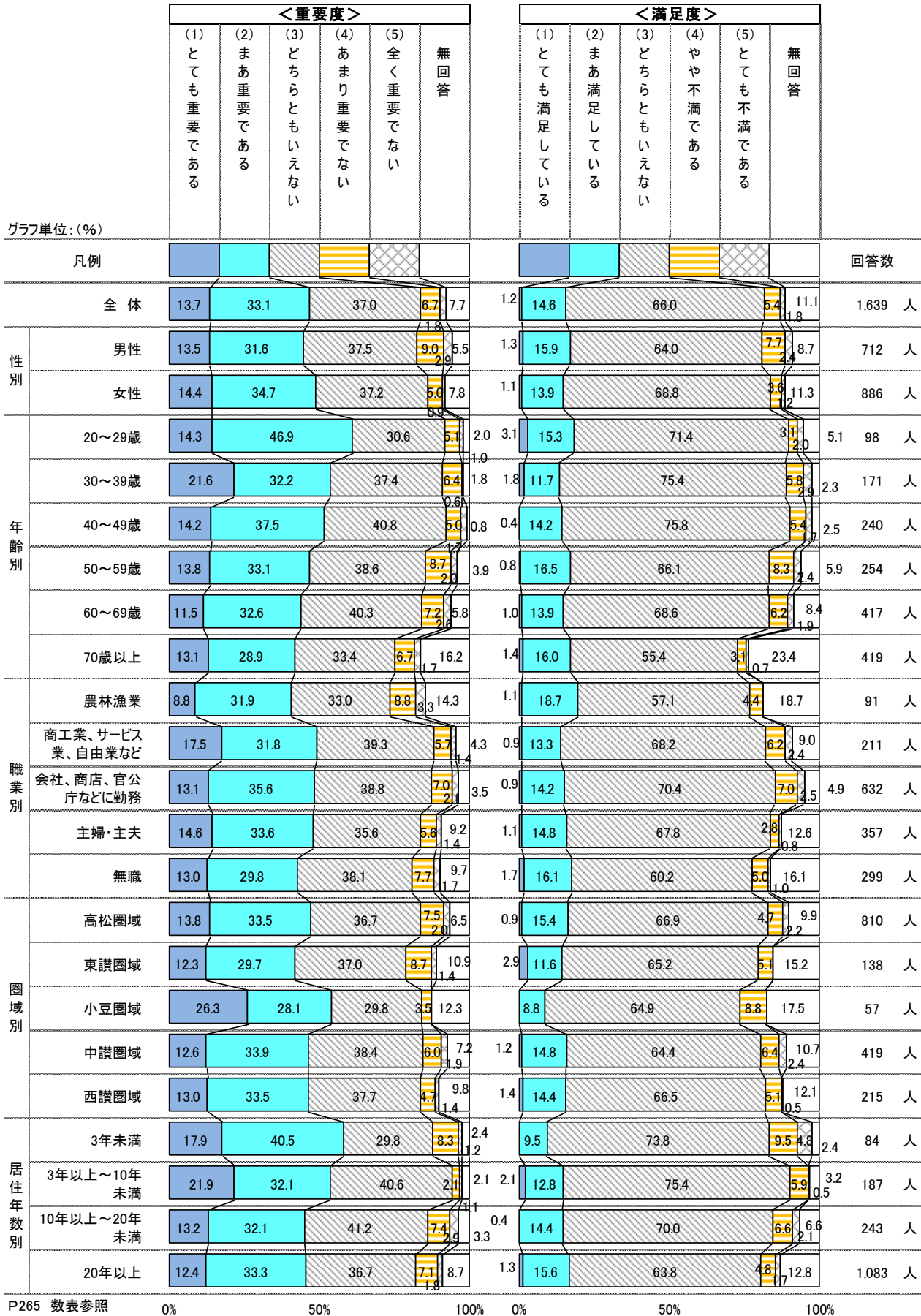
年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【満足している】と【不満である】が同じ割合（8.8%）となり、その他の圏域においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】（14.3%）が【満足している】（9.5%）を上回り、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(12) 人権尊重社会の実現



防災・減災社会の構築【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』80.7%、『女性』83.3%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（70.9%）を除くすべての年代で8割を超え、『20～29歳』において92.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において86.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『中讃圏域』において82.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『20年以上』（79.9%）を除くすべての居住年数で8割を超え、『3年以上～10年未満』において88.7%と最も高くなっている。

防災・減災社会の構築【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っている。

年齢別にみると、『70歳以上』において【満足している】（16.9%）が【不満である】（16.7%）を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

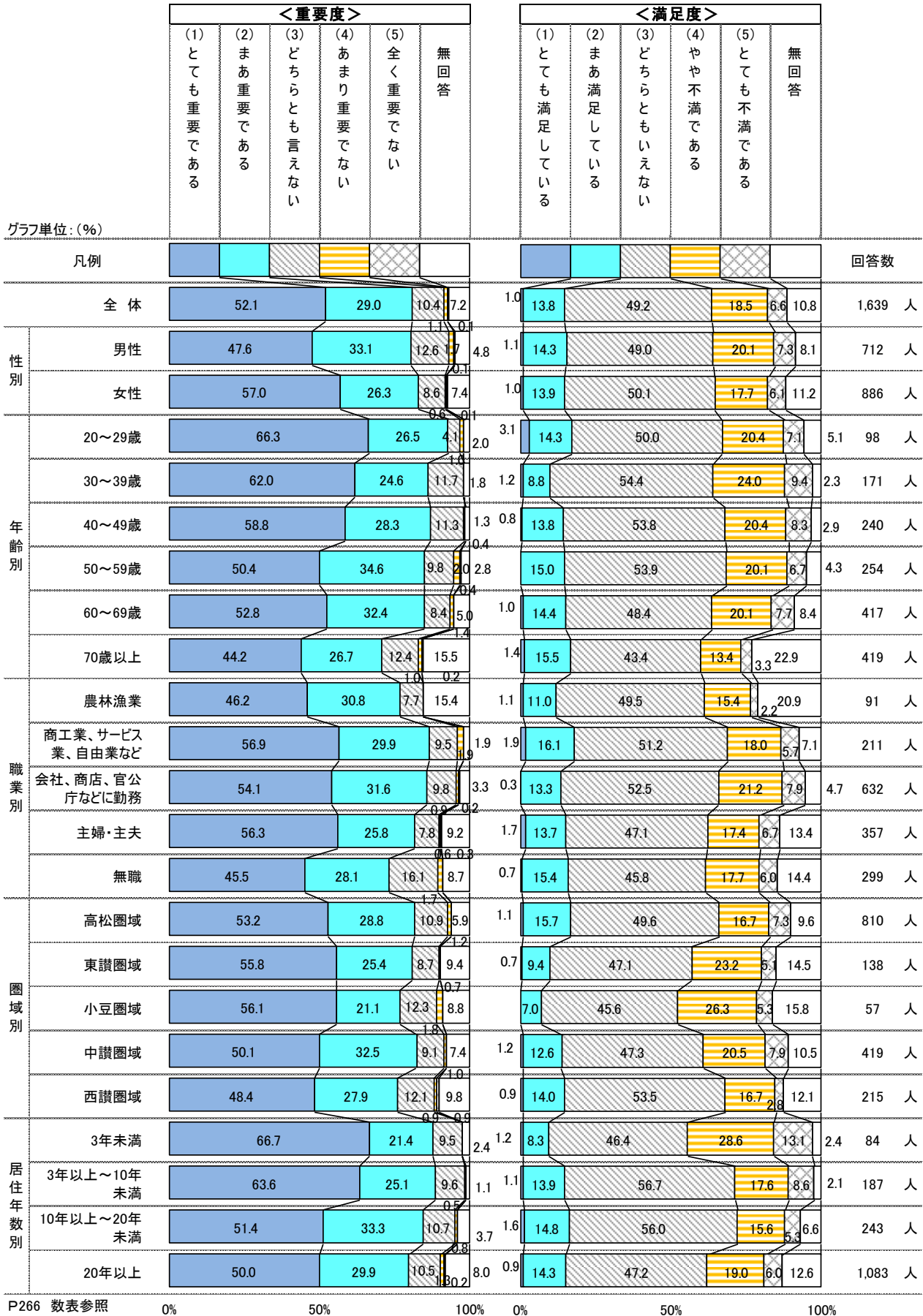
職業別にみると、すべての職業において【不満である】が【満足している】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【不満である】が【満足している】を上回っている。



図表 7-(13) 防災・減災社会の構築



安全・安心な暮らしの形成【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』77.0%、『女性』77.6%と、いずれも8割近くになっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『20～29歳』において88.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において84.3%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『高松圏域』において79.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『20年以上』（74.9%）を除くすべての居住年数で8割を超え、『3年未満』において84.5%と最も高くなっている。

安全・安心な暮らしの形成【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(22.2%)が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(20.3%)を上回り、『女性』においては【満足している】(20.1%)が【不満である】(15.2%)を上回っている。

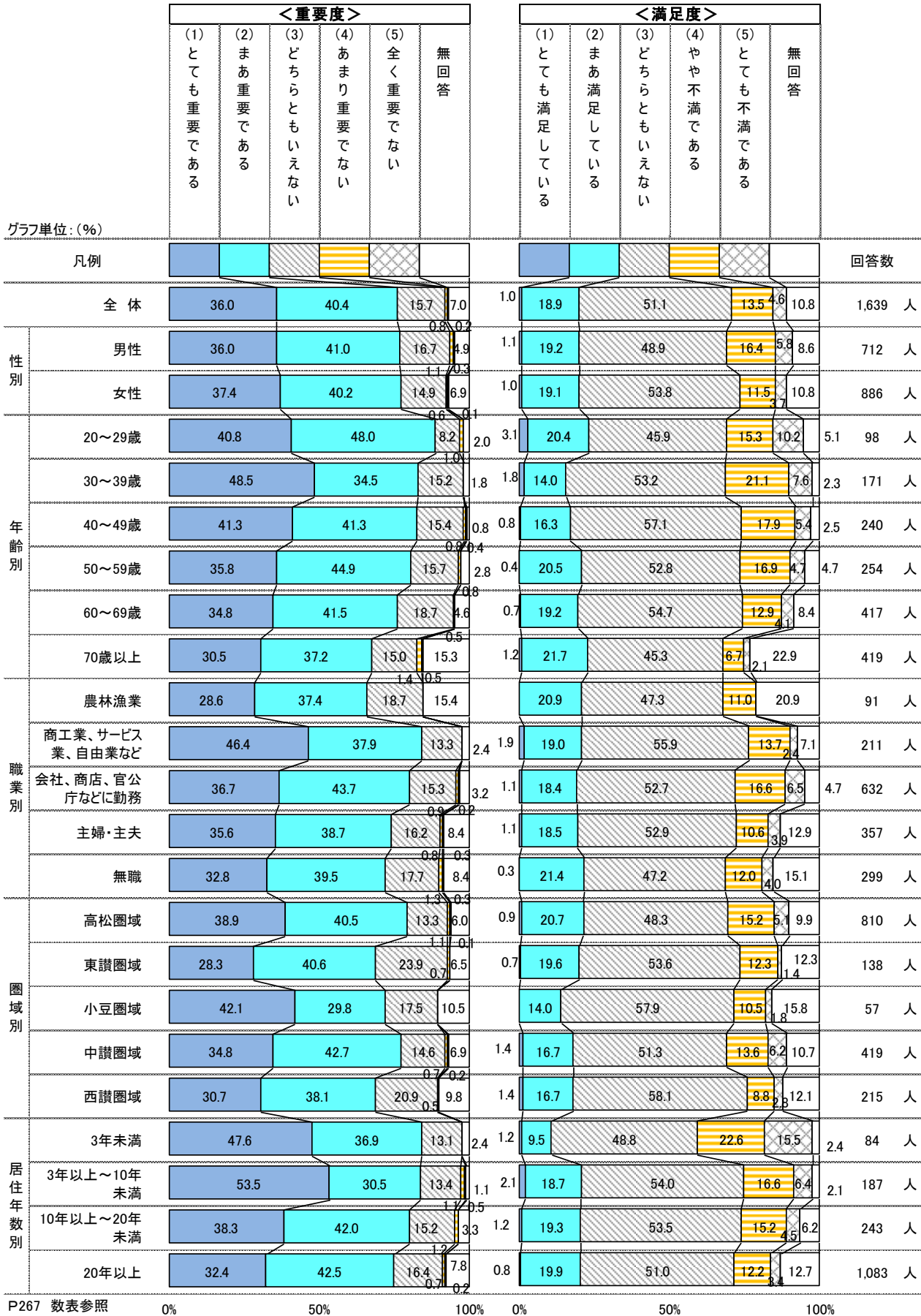
年齢別にみると、『60～69歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において【不満である】(23.1%)が【満足している】(19.5%)を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『中讃圏域』において【不満である】(19.8%)が【満足している】(18.1%)を上回り、その他の圏域においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』と『3年以上～10年未満』において【不満である】が【満足している】を上回り、『10年以上～20年未満』と『20年以上』においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(14) 安全・安心な暮らしの形成



安心して暮らせる水循環社会の確立【重要度】について、性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』81.3%、『女性』81.7%と、いずれも8割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（73.6%）を除くすべての年代で8割を超え、『20～29歳』において90.8%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において84.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『高松圏域』において83.4%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で8割を超え、『3年未満』において85.7%と最も高くなっている。

安心して暮らせる水循環社会の確立【満足度】について、性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【満足している】と【不満である】が同じ割合（23.8%）となり、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(15) 安心して暮らせる水循環社会の確立



活力ある地域づくり【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』64.1%、『女性』64.5%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（59.2%）を除くすべての年代で6割を超え、『20～29歳』において77.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で6割を超え、『農林漁業』において68.2%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『西讃圏域』（59.1%）を除くすべての圏域で6割を超え、『東讃圏域』において69.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で6割を超え、『3年未満』において66.7%と最も高くなっている。

活力ある地域づくり【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(17.2%)が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(14.4%)を上回り、『女性』においては、【満足している】(14.3%)が【不満である】(11.4%)を上回っている。

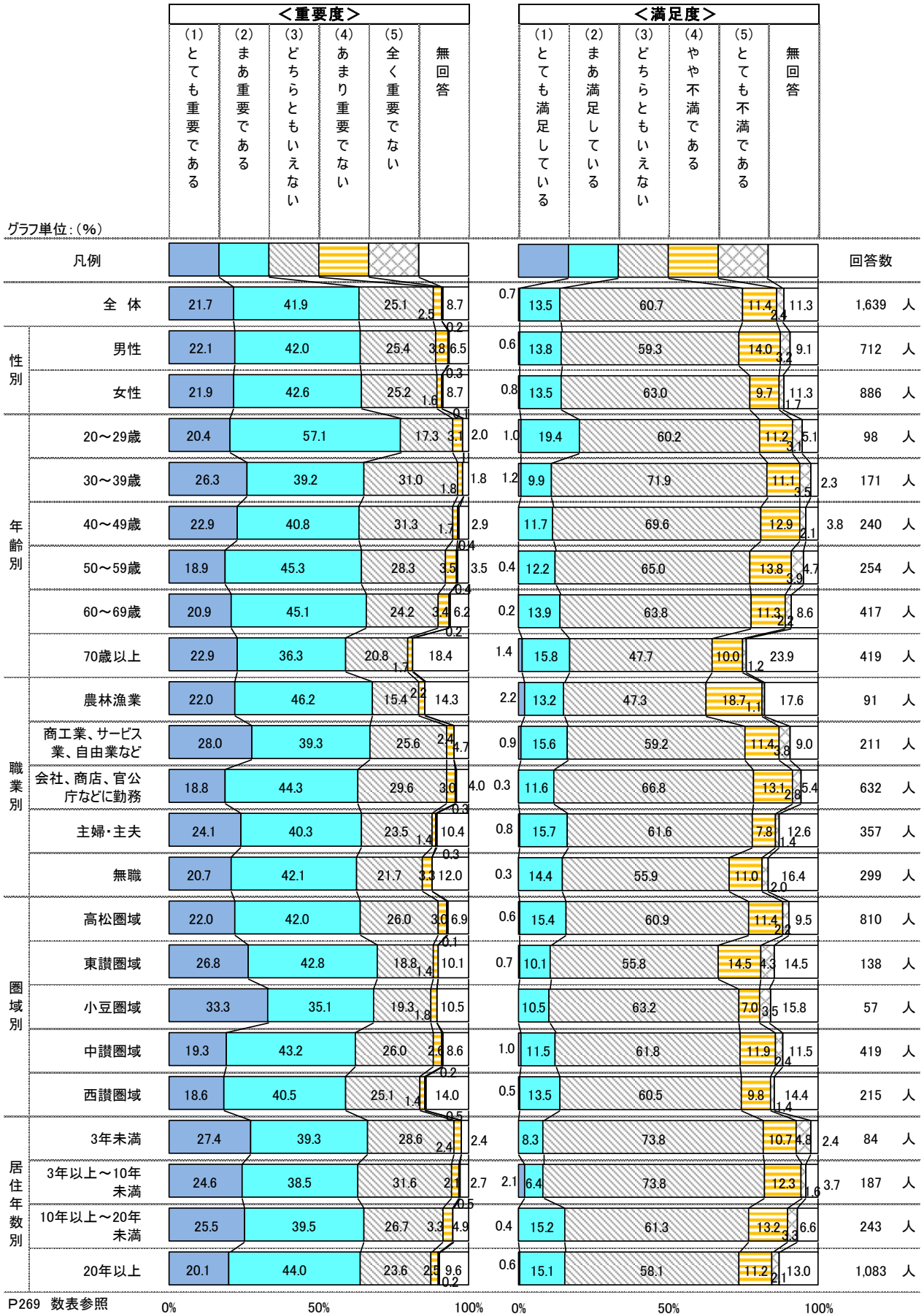
年齢別にみると、『20～29歳』、『60～69歳』、『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、『30～39歳』、『40～49歳』、『50～59歳』においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『農林漁業』と『会社、商店、官公庁などに勤務』において【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『高松圏域』と『西讃圏域』において【満足している】が【不満である】を上回り、『東讃圏域』と『中讃圏域』においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において【満足している】(15.7%)が【不満である】(13.3%)を上回り、その他の居住年数においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(16) 活力ある地域づくり



環境の保全【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』66.8%、『女性』67.3%と、いずれも6割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（59.9%）を除くすべての年代で6割を超え、『20～29歳』において72.4%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で6割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において73.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、すべての圏域で6割を超え、『東讃圏域』において68.1%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で6割を超え、『20年以上』において67.4%と最も高くなっている。

環境の保全【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】（14.4%）と「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】（14.3%）がほぼ同じ割合となり、『女性』においては【満足している】（18.5%）が【不満である】（9.5%）を上回っている。

年齢別にみると、『30～39歳』において【不満である】（17.0%）が【満足している】（12.9%）を上回り、その他の年代においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

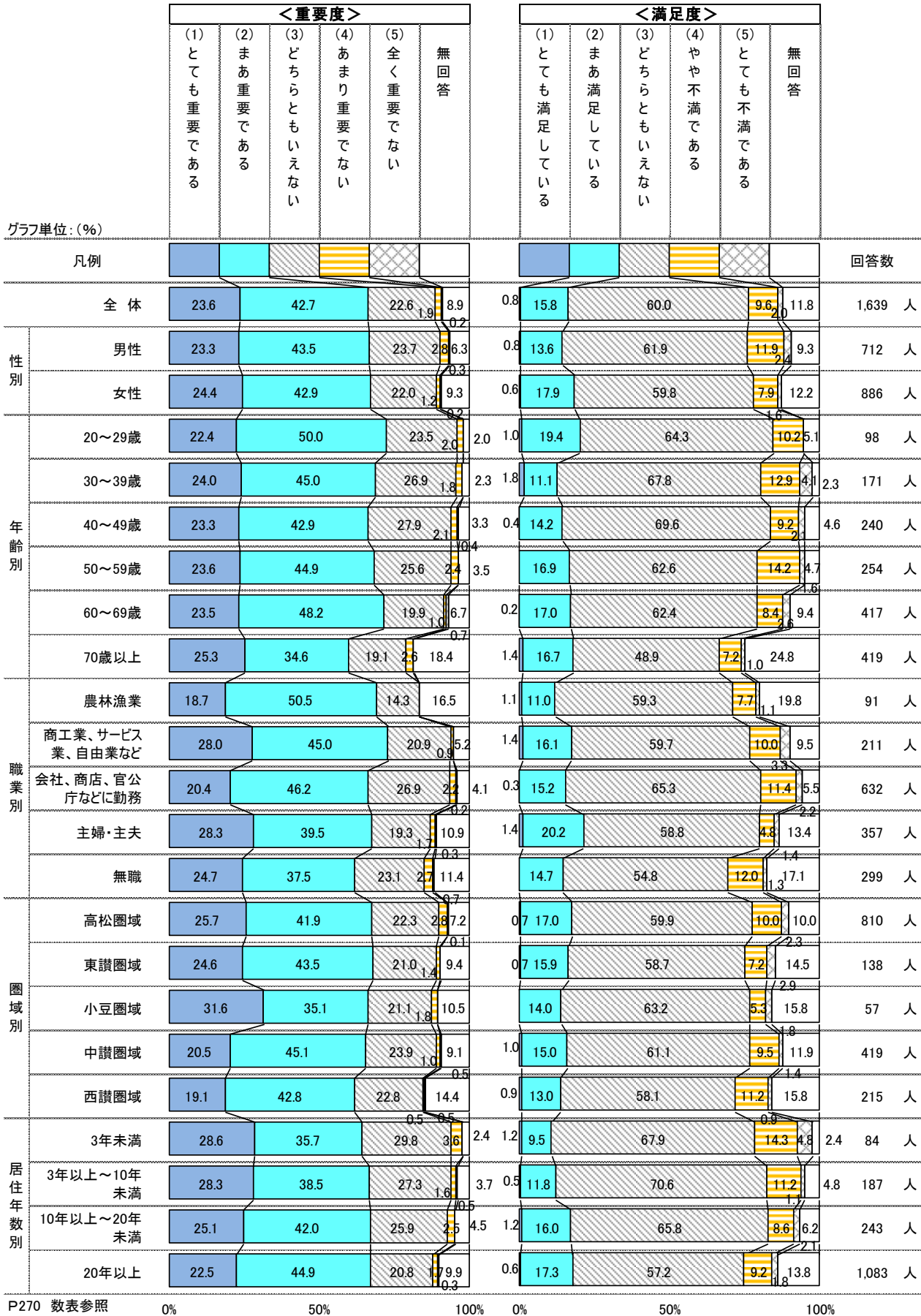
職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】（19.1%）が【満足している】（10.7%）を上回り、『10年以上～20年未満』と『20年以上』においては【満足している】が【不満である】を上回っている。



図表 7-(17) 環境の保全



みどり豊かな暮らしの創造【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』51.1%、『女性』55.2%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『40～49歳』（49.6%）を除くすべての年代で5割を超え、『20～29歳』において57.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『農林漁業』（49.5%）を除くすべての職業で5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において62.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『西讃圏域』を除くすべての圏域で5割を超え、『小豆圏域』において66.7%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『10年以上～20年未満』を除くすべての居住年数で5割を超え、『3年未満』において58.4%と最も高くなっている。

みどり豊かな暮らしの創造【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

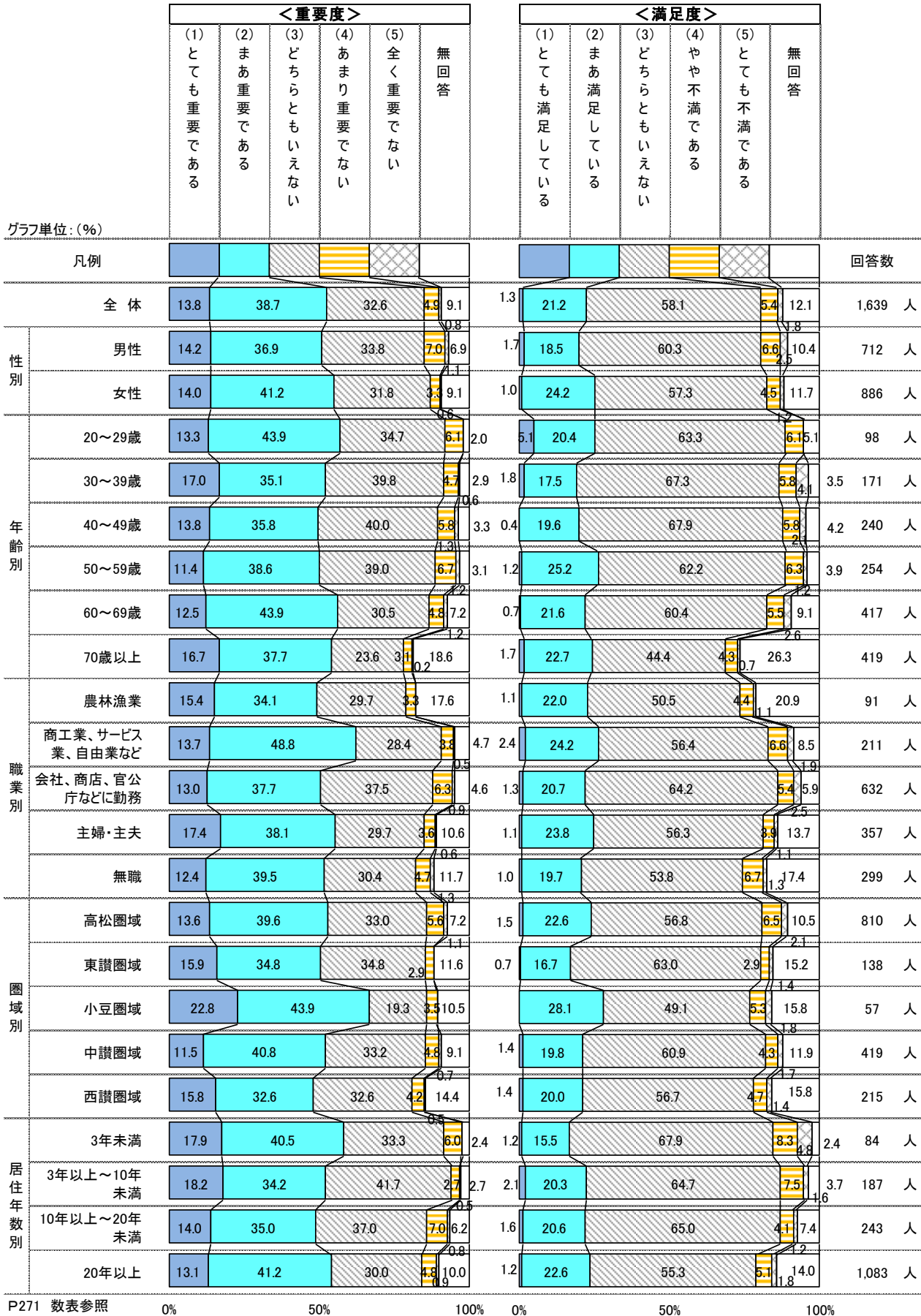
年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(18) みどり豊かな暮らしの創造



教育の充実【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』77.7%、『女性』75.1%と、いずれも7割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』（67.7%）を除くすべての年代で7割を超え、『20～29歳』において86.7%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、すべての職業で7割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において81.9%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において78.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で7割を超え、『3年未満』において84.5%と最も高くなっている。

教育の充実【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

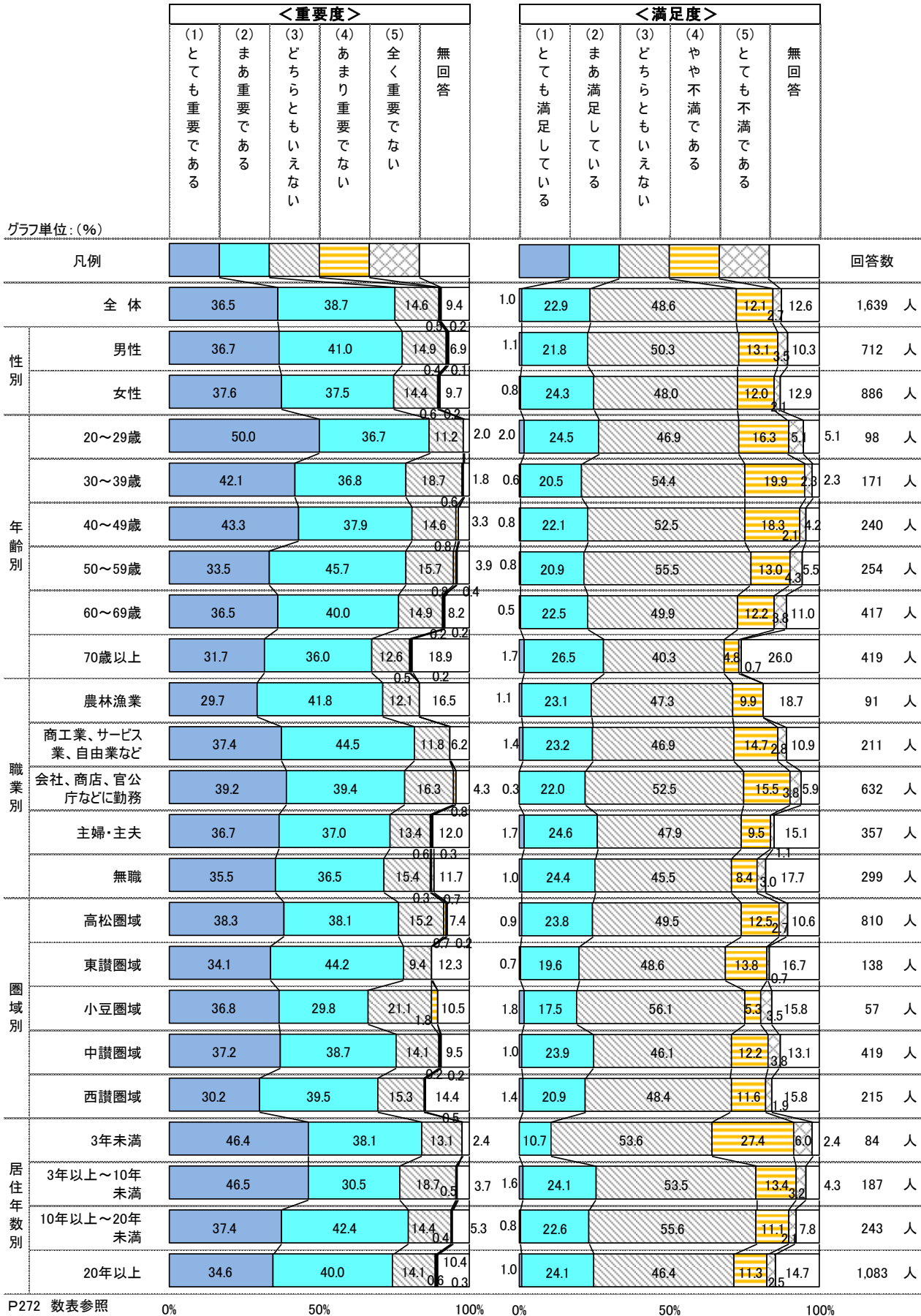
年齢別にみると、『30～39歳』において【不満である】（22.2%）が【満足している】（21.1%）を上回り、その他の年代においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』において【不満である】（33.4%）が【満足している】（10.7%）を上回り、その他の居住年数においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(19) 教育の充実



文化芸術による地域の活性化【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』(44.0%)、『女性』(49.4%)といずれも5割を下回り、『女性』で高くなっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『50～59歳』において52.0%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において53.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『小豆圏域』において47.3%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『3年未満』において48.8%と最も高くなっている。

文化芸術による地域の活性化【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

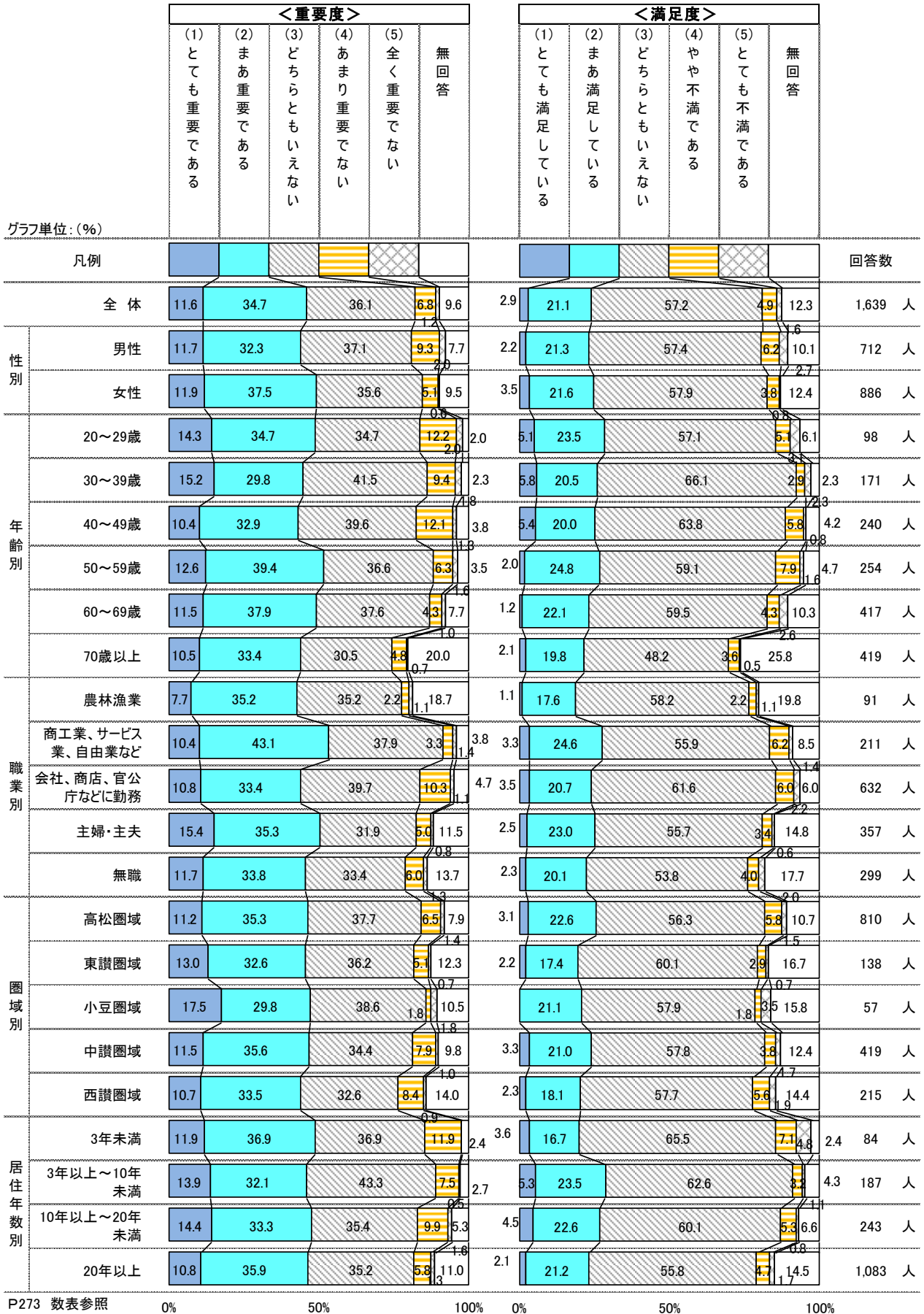
年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(20) 文化芸術による地域の活性化



スポーツの振興【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』49.6%、『女性』50.7%と、いずれも5割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『70歳以上』を除くすべての年代で5割を超え、『20～29歳』において58.2%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において55.5%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『中讃圏域』において53.0%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『10年以上～20年未満』において55.2%と最も高くなっている。

スポーツの振興【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】を上回っている。

年齢別にみると、すべての年代において【満足している】が【不満である】を上回っている。

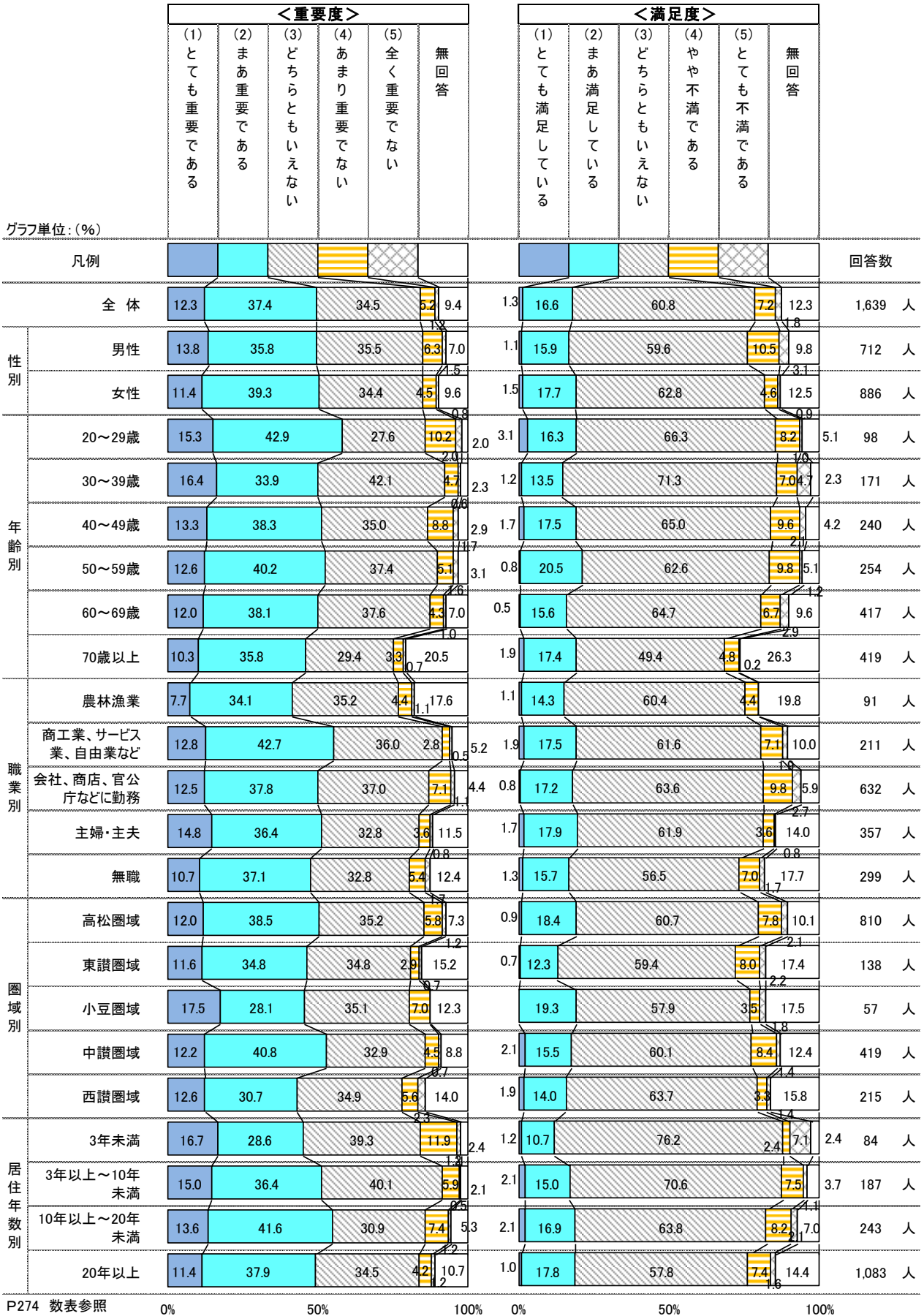
職業別にみると、すべての職業において【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【満足している】が【不満である】を上回っている。



図表 7-(21) スポーツの振興



男女共同参画社会の実現【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』57.3%、『女性』61.8%と、いずれも6割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『20～29歳』において77.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『商工業、サービス業、自由業など』において64.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『中讃圏域』において62.6%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『3年以上～10年未満』において62.5%と最も高くなっている。

男女共同参画社会の実現【満足度】について、

性別にみると、『男性』、『女性』とも、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】を上回っている。

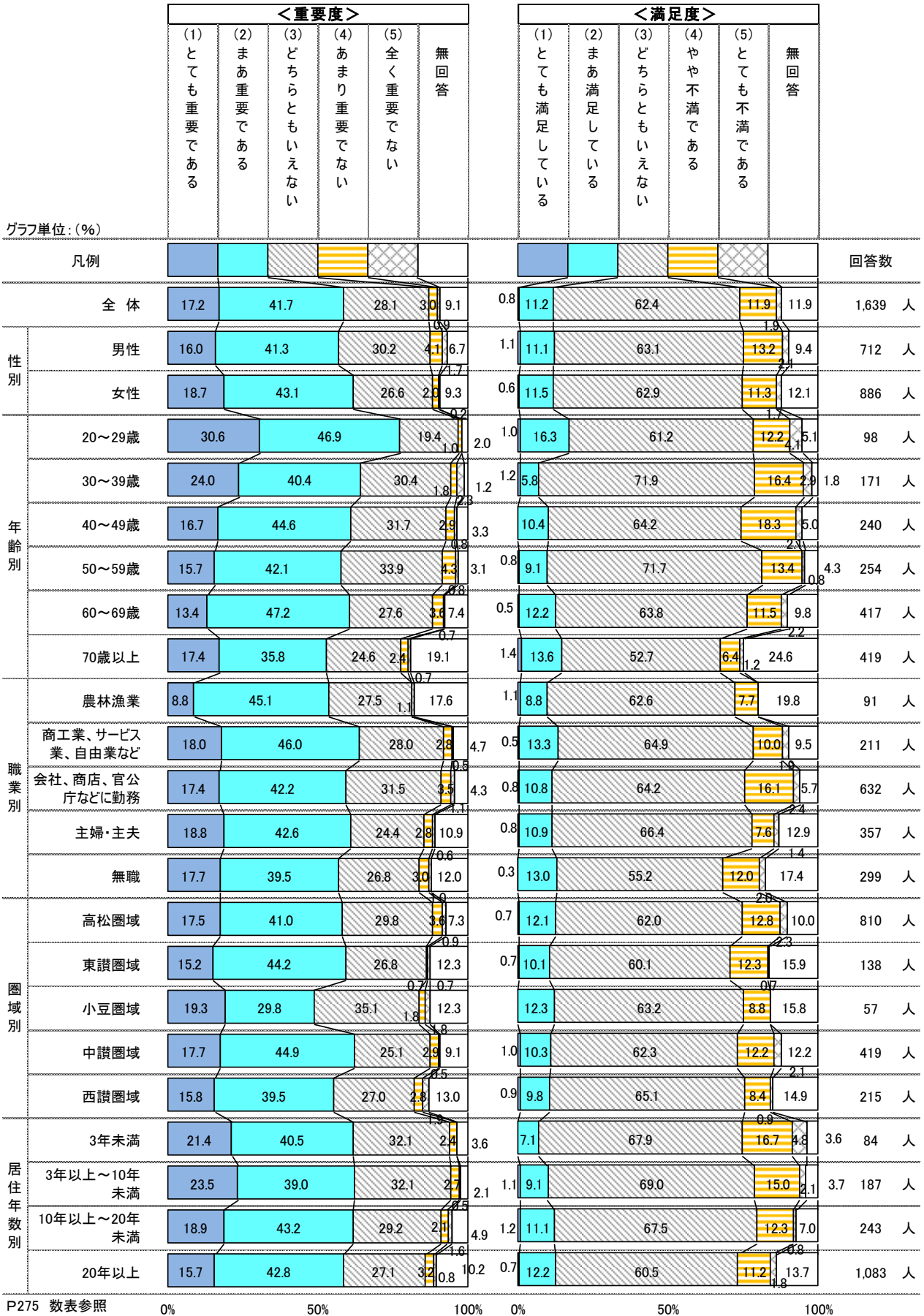
年齢別にみると、『20～29歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』と『無職』において【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』と『西讃圏域』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の圏域においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、すべての居住年数において【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(22) 男女共同参画社会の実現



青少年の育成と県民の社会参画の推進【重要度】について、性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』57.7%、『女性』60.5%と、いずれも6割程度となっている。

年齢別にみると、【重要である】は、『60～69歳』において63.5%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『主婦・主夫』において65.0%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『高松圏域』において60.8%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、『3年未満』において61.9%と最も高くなっている。

青少年の育成と県民の社会参画の推進【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(12.8%)と、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(12.5%)がほぼ同じ割合となり、『女性』においては【満足している】(13.5%)が【不満である】(8.2%)を上回っている。

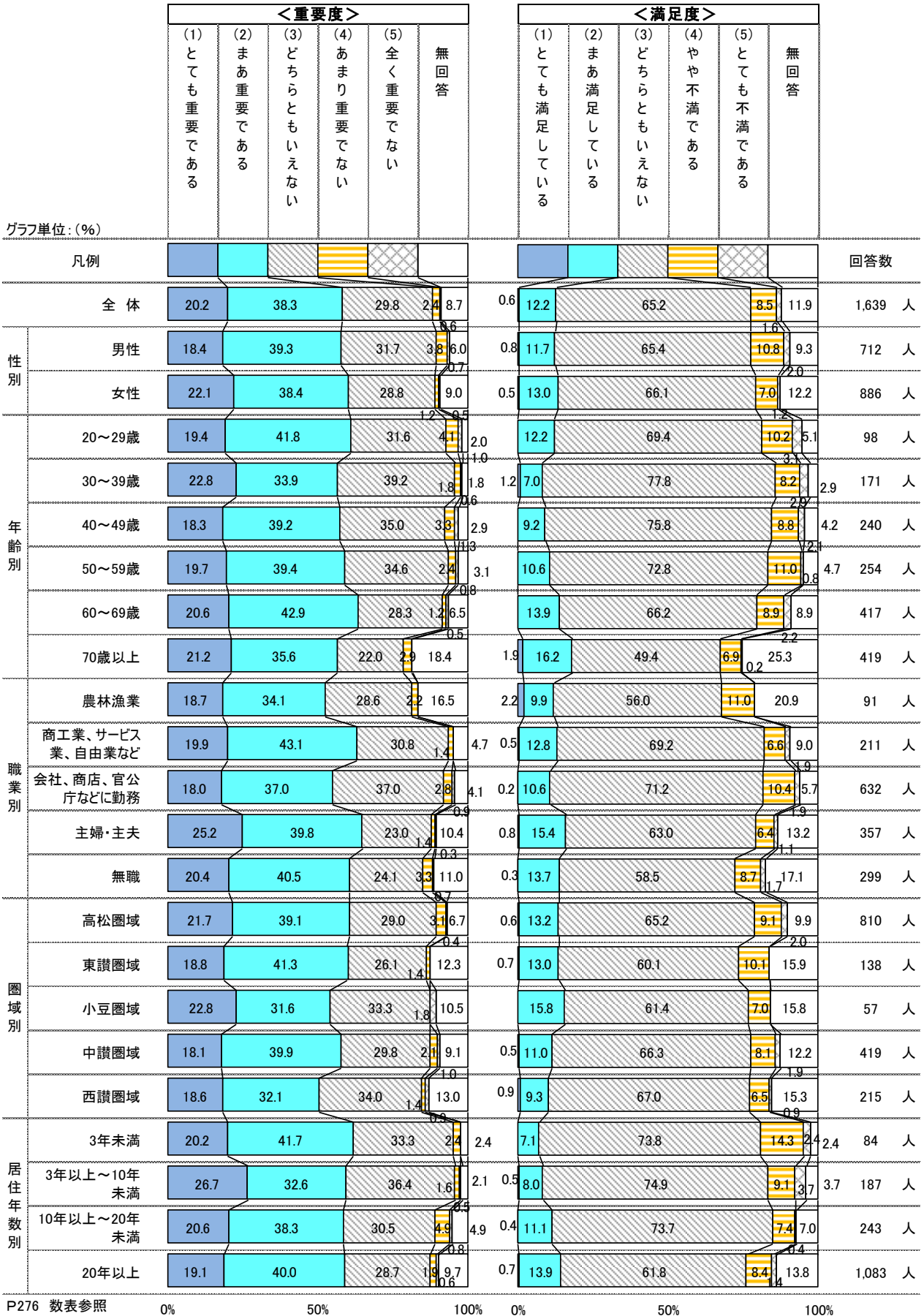
年齢別にみると、『60～69歳』と『70歳以上』において【満足している】が【不満である】を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『会社、商店、官公庁などに勤務』において【不満である】(12.3%)が【満足している】(10.8%)を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、すべての圏域において【満足している】が【不満である】を上回っている。

居住年数別にみると、『3年未満』と『3年以上～10年未満』において【不満である】が【満足している】を上回り、『10年以上～20年未満』と『20年以上』においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

図表 7-(23) 青少年の育成と県民の社会参画の推進



魅力ある大学づくり【重要度】について、

性別にみると、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】は、『男性』54.3%、『女性』51.8%と、いずれも5割を超えている。

年齢別にみると、【重要である】は、『50～59歳』（48.5%）を除くすべての年代で5割を超え、『20～29歳』において58.1%と最も高くなっている。

職業別にみると、【重要である】は、『会社、商店、官公庁などに勤務』を除くすべての職業で5割を超え、『商工業、サービス業、自由業など』において57.8%と最も高くなっている。

圏域別にみると、【重要である】は、『東讃圏域』において56.5%と最も高くなっている。

居住年数別にみると、【重要である】は、すべての居住年数で5割を超え、『20年以上』において53.5%と最も高くなっている。

魅力ある大学づくり【満足度】について、

性別にみると、『男性』において「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】(17.2%)が「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】(12.9%)を上回り、『女性』においては【満足している】(11.7%)と【不満である】(11.8%)がほぼ同じ割合となっている。

年齢別にみると、『70歳以上』において【満足している】(18.6%)が【不満である】(6.2%)を上回り、その他の年代においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

職業別にみると、『商工業、サービス業、自由業など』、『会社、商店、官公庁などに勤務』においては【不満である】が【満足している】を上回り、その他の職業においては【満足している】が【不満である】を上回っている。

圏域別にみると、『小豆圏域』において【満足している】(14.0%)が【不満である】(10.6%)を上回り、その他の圏域においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

居住年数別にみると、『20年以上』において【満足している】(14.2%)が【不満である】(12.8%)を上回り、その他の居住年数においては【不満である】が【満足している】を上回っている。

図表 7-(24) 魅力ある大学づくり

